熊本県文化財調査報告第 280 集

The Nihongi Site

# 二本木遺跡群 7

（田崎地区）・（田崎市道切替）・（田崎陸橋）調査

― 九州新幹線建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 ―

2013
熊本県教育委員会

熊本県文化財調査報告第 280 集

# 二本木遺跡群 7

（田崎地区）・（田崎市道切替）・（田崎陸橋）調査

― 九州新幹線建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 ―

2013
熊本県教育委員会

遺跡遠景　南より 2006. 11 撮影

PL.2

遺跡遠景　北より 2011 撮影

6 区竪穴建物 SI25 出土遺物

PL.4

6 区竪穴建物 SI230 出土遺物

1

1

2

3

1. 小形仿製鏡　4 区竪穴建物 SI83 出土遺物
2. 破鏡　6 区竪穴建物 SI16 出土遺物
3. 骨鏃　6 区竪穴建物 SI16 出土遺物

# 序　文

本書は、九州新幹線建設工事に伴い平成17年度から平成19年度にかけて埋蔵文化財発掘調査を実施した、熊本市西区田崎地内に所在する「二本木遺跡群（田崎地区）」の発掘調査報告書です。

二本木遺跡群（田崎地区）は、古代末から中世にかけての国衙推定地であり、近年、九州新幹線建設工事やそれに伴う当該地域一帯での再開発などに起因する埋蔵文化財発掘調査による多くの成果によって、徐々に８世紀代の肥後国府に係る情報が集積され、往時の様子が明らかになってきました。今回の調査区からは、弥生時代や古代に所属する竪穴住居、掘立柱建物、井戸、溝などの貴重な遺構や資料が検出されました。

本書が学術資料としてはもとより、郷土の歴史に対する理解を深め、ひいては教育・文化の向上の一助として学校教育や生涯学習など、幅広く活用され、さらにそれが県土の発展へと繋がることを切に希望します。

最後になりましたが、本事業において埋蔵文化財発掘調査にご理解、ご協力をいただきました独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構、熊本市教育委員会をはじめ、関係各位に対し心より感謝申し上げます。

平成２５年3月３１日

熊本県教育長　田崎 龍一

# 二本木遺跡群７

## （田崎地区）・（田崎市道切替）・（田崎陸橋）調査

―九州新幹線建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告―

目次

二本木遺跡(田崎地区)
第１章　序言
１．調査に至る経緯
２．事業への取り組み
３．調査組織
４．整理組織
第２章　調査
１．調査地域
（１）地理的環境
（２）歴史的環境
（３）測量
（４）地区割り
（５）その他
２．発掘作業の経過　調査日誌
第３章　遺構
１．１・２区
（１）概要
（２）遺構各説
２．３区
（１）概要
（２）遺構各説
３．４区
（１）概要
（２）遺構各説
４．５・６区
（１）概要
（２）遺構各説
５．７区
（１）概要
（２）遺構各説
６．８区
（１）概要
（２）遺構各説
７．田崎市道切替
（１）概要
（２）遺構各説
８．田崎陸橋
（１）概要
第４章　遺物
第５章　自然科学分析
総括
写真
報告書抄録
奥付

# 挿図目次 (Fig)


Fig.1 熊本県域における地形表記と九州新幹線により発掘調査を実施した遺跡
Fig.2 二本木遺跡群ブロック設定図
Fig.3 二本木遺跡群(田崎地区)遺跡分布図 1/5,000
Fig.4 二本木遺跡群周辺の遺跡地図
Fig.5 二本木遺跡群(田崎地区)遺跡全体図 1/2,000
Fig.6 二本木遺跡群(田崎地区)1 区・2 区遺構配置図
Fig.7 1 区土坑 SK32(左)・SK33(右)実測図
Fig.8 1 区土坑 SK37 実測図
Fig.9 二本木遺跡群(田崎地区)3 区遺構配置図
Fig.10 3 区溝 SD98 実測図
Fig.11 3 区井戸 SE99 実測図
Fig.12 3 区竪穴建物 SI96(左)・SI100(右)実測図
Fig.13 3 区竪穴建物 SI105 実測図
Fig.14 3 区竪穴建物 SI95 実測図
Fig.15 3 区土坑 SK97 実測図
Fig.16 二本木遺跡群(田崎地区)4 区遺構配置図
Fig.17 4 区竪穴建物 SI54 実測図
Fig.18 4 区竪穴建物 SI102 実測図
Fig.19 4 区竪穴建物 SI71・SI72 実測図
Fig.20 4 区竪穴建物 SI68 実測図
Fig.21 4 区竪穴建物 SI129 実測図
Fig.22 4 区竪穴建物 SI60 実測図
Fig.23 4 区竪穴建物 SI126(上)・SI123(下) 実測図
Fig.24 4 区竪穴建物 SI34 実測図
Fig.25 4 区竪穴建物 SI39 実測図
Fig.26 4 区竪穴建物 SI83 実測図
Fig.27 二本木遺跡群(田崎地区)5 区・6 区第 1 面遺構配置図
Fig.28 6 区竪穴建物 SI25 実測図
Fig.29 6 区竪穴建物 SI13・SI14 実測図
Fig.30 6 区竪穴建物 SI15 実測図
Fig.31 6 区竪穴建物 SI16 実測図
Fig.32 二本木遺跡群(田崎地区)5 区・6 区第 2 面遺構配置図
Fig.33 5 区掘立柱建物 SB03 実測図
Fig.34 6 区掘立柱建物 SB07 実測図
Fig.35 6 区掘立柱建物 SB09 実測図
Fig.36 6 区掘立柱建物 SB10 実測図
Fig.37 二本木遺跡群(田崎地区)5 区・6 区第 3 面遺構配置図
Fig.38 5 区掘立柱建物 SB01 実測図
Fig.39 5 区竪穴建物 SI02 実測図
Fig.40 6 区竪穴建物 SI230 実測図
Fig.41 5 区竪穴建物 SI11 実測図
Fig.42 6 区竪穴建物 SI241 実測図
Fig.43 6 区竪穴建物 SI223・SI224・SI225 実測図
Fig.44 6 区竪穴建物 SI266 実測図
Fig.45 6 区竪穴建物 SI203・SI204・SI206・SI207・SI209・SI215 実測図
Fig.46 6区竪穴建物SI242・SI243、土坑SK01・SK02・SK251実測図
Fig.47 5 区竪穴建物 SI04 実測図
Fig.48 6 区竪穴建物 SI210・SI211・SI216 実測図
Fig.49 6 区土坑 SK56 実測図
Fig.50 二本木遺跡群 (田崎地区) 7 区第 1 面遺構配置図
Fig.51 7 区掘立柱建物 SB12 実測図
Fig.52 7 区竪穴建物 SI277(左)・SI275(右)実測図
Fig.53 7 区竪穴建物 SI274 実測図
Fig.54 7 区竪穴建物 SI269・SI271・SI272・SI273 実測図
Fig.55 二本木遺跡群(田崎地区)7 区第 2 面遺構配置図
Fig.56 7 区竪穴建物 SI287 実測図
Fig.57 7 区竪穴建物 SI285・SI286 実測図
Fig.58 7 区竪穴建物 SI282 実測図
Fig.59 7 区竪穴建物 SI280 実測図
Fig.60 二本木遺跡群(田崎地区)7 区第 3 面遺構配置図
Fig.61 7 区竪穴建物 SI288 実測図
Fig.62 7 区竪穴建物 SI289 実測図
Fig.63 8 区柵列 SA01 実測図
Fig.64 8 区柵列 SA02・SA03 実測図
Fig.65 二本木遺跡群(田崎地区)8 区遺構配置図
Fig.66 8 区掘立柱建物 SB01 実測図
Fig.67 8 区掘立柱建物 SB02 実測図
Fig.68 8 区掘立柱建物 SB03 実測図
Fig.69 8 区掘立柱建物 SB04 実測図
Fig.70 二本木遺跡群(田崎市道切替)第 1 面
Fig.71 二本木遺跡群(田崎市道切替)第 2 面
Fig.72 二本木遺跡群(田崎市道切替)第 3 面
Fig.73 二本木遺跡群(田崎市道切替)第 4 面
Fig.74 二本木遺跡群(田崎陸橋)
Fig.75 3 区井戸 SE99 出土遺物実測図
Fig.76 4 区溝 SD57、竪穴建物 SI54 出土遺物実測図
Fig.77 4 区竪穴建物 SI102 出土遺物実測図
Fig.78 4 区竪穴建物 SI68・SI123 出土遺物実測図
Fig.79 4 区竪穴建物 SI129 出土遺物実測図
Fig.80 4 区竪穴建物 SI71・SI72・SI126 出土遺物実測図
Fig.81 4 区竪穴建物 SI60・SI39・SI34 出土遺物実測図
Fig.82 4 区 O-16・17Grid 出土遺物実測図－①
Fig.83 4 区 N-16・17Grid 出土遺物実測図
Fig.84 4 区 O-16・17Grid 出土遺物実測図－②
Fig.85 4 区調査区出土遺物実測図
Fig.86 6 区竪穴建物 SI25 出土遺物実測図－①
Fig.87 6 区竪穴建物 SI25 出土遺物実測図－②
Fig.88 6区竪穴建物SI14・SI15出土遺物実測図
Fig.89 6 区竪穴建物 SI230 出土遺物実測図－①
Fig.90 6 区竪穴建物 SI230 出土遺物実測図－②
Fig.91 5 区竪穴建物 SI02 出土遺物実測図
Fig.92 5 区竪穴建物 SI11 出土遺物実測図
Fig.93 6 区竪穴建物 SI241 出土遺物実測図
Fig.94 6区竪穴建物SI223・SI266出土遺物実測図
Fig.95 6 区竪穴建物 SI224 出土遺物実測図
Fig.96 6 区竪穴建物 SI206、土坑 SK56、調査区出土遺物実測図
Fig.97 8 区溝 SD103 出土遺物実測図
Fig.98 銅鏡
Fig.99 鉄製品・土製品
Fig.100 骨角器
Fig.101 4 区竪穴建物 SI108 出土遺物実測図(石製品)
Fig.102 古銭
Fig.103 4区竪穴建物SI80実測図(左)、骨鏃実測図(右上)、骨鏃写真(右下)
Fig.104 二本木遺跡群第26次調査区（熊本市教委）及び8区平面図
Fig.105 二本木遺跡群土地利用状況図及び調査区周辺拡大図
Fig.106 二本木遺跡群田崎地区(4～6 区)土器変遷図(1)
Fig.107 (上段) 二本木遺跡群田崎地区(4～6 区)土器変遷図(2)
(下段) 二本木遺跡群田崎地区(4～6 区)遺構変遷図
Fig.108 座標測地点

## 表目次 （Tab）


Tab.1 九州新幹線新八代～博多間建設に伴う熊本県内の発掘調査
Tab.2 調査区内基準点測量成果
Tab.3 遺跡地名表
Tab.4 1～3区遺構一覧表－①
Tab.5 1～3区遺構一覧表－②
Tab.6 1～3区遺構一覧表－③
Tab.7 出土遺物観察表－①
Tab.8 出土遺物観察表－②
Tab.9 出土遺物観察表－③
Tab.10 出土遺物（銅製品・鉄製品）観察表
Tab.11 出土遺物（特殊製品）観察表
Tab.12 出土遺物（古銭）観察表


## 写真目次（PL）


PL.1 遺跡遠景 南より 2006.11 撮影
PL.2 遺跡遠景 北より 2011 撮影
PL.3 6区竪穴建物 SI25 出土遺物
PL.4 6区竪穴建物 SI230 出土遺物
PL.5 1. 小形仿製鏡 4区竪穴建物 SI83 出土遺物
2. 破鏡 6区竪穴建物 SI16 出土遺物
3. 骨鏃 6区竪穴建物 SI16 出土遺物
PL.6 1. 1区土坑 SK32 完掘状況
2. 1区土坑 SK33 完掘状況
3. 1区土坑 SK37 完掘状況
4. 2区調査区完掘状況（北より）
5. 3区井戸 SE99 完掘状況
6. 3区調査区完掘状況（北より）
PL.7 1. 4区溝 SD57 遺物出土状況
2. 4区竪穴建物 SI83 遺物出土状況（小形仿製鏡）
3. 4区 M～O-14～17Grid 完掘状況
4. 4区完掘状況（南より）
5. 4区拡張調査区完掘状況（北より）
6. 6区竪穴建物 SI25 遺物出土状況
PL.8 1. 6区 4-1 層完掘状況（北より）
2. 6区竪穴建物 SI230 遺物出土状況
3. 6区竪穴建物 SI224 内 K1 遺物出土状況
4. 6区竪穴建物 SI266 内 K1 遺物出土状況
5. 6区竪穴建物 SI206 遺物出土状況
6. 6区土坑 SK56 遺物出土状況
PL.9 1. 6区 4-2 層完掘状況（北より）
2. 7区 4-1 層竪穴建物 SI269・SI271・SI273 完掘状況
3. 田崎市道切替竪穴建物 SI03・SI04 完掘状況
4. 田崎市道切替竪穴建物 SI05 埋土下面完掘状況
5. 田崎陸橋調査区北半完掘状況
6. 田崎陸橋調査区完掘状況
PL.10 1. 3区土坑 SK97 出土遺物
2.3. 3区井戸 SE99 出土遺物
PL.11 1.2. 4区溝 SD57 出土遺物
3. 4区竪穴建物 SI54 出土遺物
PL.12 1. 4区竪穴建物 SI102 出土遺物
2. 4区竪穴建物 SI102（20）・SI123（23）出土遺物
3. 4区竪穴建物 SI129 出土遺物
PL.13 1. 4区竪穴建物 SI71 出土遺物
2. 4区竪穴建物 SI126 出土遺物
3.4. 4区竪穴建物 SI60 出土遺物
PL.14 1. 4区竪穴建物 SI39 出土遺物
2. 4区竪穴建物 SI34 出土遺物
3. 4区 N-16・17Grid、O-16・17Grid 出土遺物
PL.15 1. 4区 N-16・17Grid 出土遺物
2. 4区 O-16・17Grid 出土遺物－①
3. 4区 O-16・17Grid 出土遺物－②
4. 4区調査区出土遺物
PL.16 6区竪穴建物 SI25 出土遺物－①
PL.17 6区竪穴建物 SI25 出土遺物－②
PL.18 6区竪穴建物 SI230 出土遺物－①
PL.19 1.2. 6区竪穴建物 SI230 出土遺物－②
PL.20 1. 6区竪穴建物 SI14 出土遺物
2.3.4. 6区竪穴建物 SI15 出土遺物
PL.21 1.2. 5区竪穴建物 SI02 出土遺物
3. 5区竪穴建物 SI11 出土遺物
4. 6区竪穴建物 SI241 出土遺物
5. 6区竪穴建物 SI223 出土遺物
PL.22 1. 6区竪穴建物 SI224 出土遺物
2. 6区竪穴建物 SI266 出土遺物
PL.23 1. 6区竪穴建物 SI206 出土遺物
2.3. 5・6区調査区出土遺物
4.5. 8区溝 SD103 出土遺物
PL.24 1. 小形仿製鏡 4区竪穴建物 SI83 出土遺物
2. 破鏡 6区竪穴建物 SI16 出土遺物
PL.25 1.2.3. 鉄製品
4. 土製品
PL.26 1. 骨角器
2. 石製品
3.4.5. 古銭
PL.27 田崎市道切替出土遺物

# 二本木遺跡群７（田崎地区）・（田崎市道切替）・（田崎陸橋）発掘調査報告

－九州新幹線建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査－

## 第１章　序言

### １　調査に至る経緯（事業計画の概要）

二本木遺跡群（田崎地区）発掘調査は、九州新幹線建設工事に伴い当該遺跡の地下に埋蔵されている文化財が建設工事により影響を受けると判断されたことからそれらを記録・保存し、後世に伝えていくことを目的に平成15年11月27日から平成19年６月６日まで事業の施主である独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構 鉄道建設本部 九州新幹線建設局（以下、「鉄道・運輸機構」という。）から委託を受け、熊本県教育委員会が実施したものである。

調査の起因となった九州新幹線鹿児島ルートは、国民経済の発展及び国民生活領域の拡大並びに地域の振興を図る目的で「全国新幹線鉄道整備法」に基づき建設されるもので、福岡市から熊本市、鹿児島県川内市付近を経由し鹿児島市に至るまでの総延長約249㎞の九州縦軸の大動脈である。完成により、移動時間の短縮、県内総生産にもたらす経済波及効果及び地域間交流の拡大等多くのメリットがもたらされることから、各界から早期の開業が望まれていた。

当該ルートは、昭和48年11月13日に整備計画の決定及び建設の指示がなされた後、昭和61年８月29日に工事実施計画認可申請がなされたが、その後の経済状況や社会情勢の変化に伴い、平成３年８月22日先行して八代 - 西鹿児島間について工事実施計画が認可され、同年９月７日に起工した。その後、平成10年３月12日に船小屋 - 新八代間の工事実施計画が認可され、同年３月21日に起工、さらに平成13年４月25日に博多 - 新八代間の工事実施計画が追加認可され、同年６月２日に博多 - 船小屋間が起工している。

2004年（平成16年）３月13日には新八代 - 鹿児島中央駅（旧．西鹿児島駅）間がフル規格で部分開業し、続いて2011年（平成23年）３月12日には博多駅 - 新八代間が開業し、整備計画の決定から38年を経て全線で営業運転を開始した。また、今回は同事業に伴う熊本市道切り替え及び田崎陸橋部の取り壊し工事による調査の範囲も含みここに報告するところとなった。

### ２　事業への取り組み

熊本県内における九州新幹線建設事業への取り組みは、平成４年（1992年）に日本鉄道建設公団九州新幹線建設局により八代水俣間の事業計画が示された事により始まった。平成８年（1996年）には水俣市において「長野遺跡」を確認し、平成９年（1997年）12月より発掘調査に着手した。その後引き続き、芦北郡津奈木町内における試掘調査を皮切りに八代市域を含む先行着手区間において同事業における取り組みが本格化した。平成12年（2000年）８月には熊本県内で起点となる八代市において「西片百田遺跡」「中片小路遺跡」の調査が始まり、平成15年８月の「宮地小畑遺跡（側道部）」の調査をもって、新八代－鹿児島中央間の調査は終了した。その後、工事計画の中心は博多－新八代間へと移り、用地買収の進捗とともに当該地区を含む県央、同じく熊本駅周辺、県北部域となる玉名市域へと発掘調査の範囲は拡大していった。

## 3　調査組織

【発掘調査】

平成 15 年度

調査責任者　文化課長　　成瀬烈大
調査総括　　課長補佐　　島津義昭
調査指導　　課長補佐（文化財調査第一係担当）高木正文　文化財調査第二係長　西住欣一郎
調査担当者　主任学芸員　宮崎敬士
　　非常勤職員　増田直人　稲富陽子　福永雅美　宮崎　拓　米村俊治　内田成香　松野直子

平成 17 年度

調査責任者　文化課長　　梶野英二
調査総括　　課長補佐　　倉岡　博
調査指導　　課長補佐（文化財調査第一係担当）高木正文
調査担当者　参　　事　　坂口圭太郎
　　参　　事　　尾方圭子
　　主任主事　　松森由美
　　任期付職員　多賀晴司
　　非常勤職員　吉留　広　　坂本亜矢子　　横田光智　　遠山　宏

平成 19 年度

調査責任者　文化課長　梶野英二
調査総括　　課長補佐　江本　直
調査指導　　課長補佐（文化財調査第一係担当）高木正文
調査担当者　参　　事　松森由美
　　文化財保護主事　　水上正孝
　　非常勤職員　坂本亜矢子

平成 19 年度

調査責任者　文化課長　梶野英二
調査総括　　課長補佐　江本　直
調査指導　　課長補佐（文化財調査第一係担当）高木正文
調査担当者　参　　事　松森由美
　　学芸員　　檀　佳克
　　非常勤職員　横田光智

## 4　整理組織

【整理報告書作業】

平成 24 年 2 月 1 日～平成 25 年 3 月 31 日

整理責任者　文化課長　　小田信也
整理総括　　文化財調査第一係長　村崎孝宏
整理担当者　参事　　長谷部善一（岩手県教育委員会派遣）
　　文化財保護主事　　佐藤哲郎
非常勤職員　　稲葉貴子、唐木ひとみ
整理作業員　　福島典子（班長）藤井美智子（副班長）小早川隆春　塩田喜美子
　　今崎光成　　石田敦子　溜淵俊子　本田穎子（以上、一次整理）
　　土田みどり　岩下恵美子　田中裕子　井上真優（以上、二次整理）
※第二・第三原稿執筆　株式会社　埋蔵文化財サポートシステム熊本支店　上髙原　聡

## 調査指導機関及び調査助言・協力者

独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構鉄道建設本部 九州新幹線建設局

九州旅客鉄道株式会社熊本鉄道事業部

熊本市教育委員会

山崎純男　竹田宏司　原田範昭　高野信子　杉本和樹

## 調査（整理）業務に伴う委託事業一覧

| | |
|---|---|
| 測量業務 | 株式会社　ダイチプラン |
| | 長田測量設計株式会社 |
| | 十八測量設計株式会社 |
| 遺構実測業務 | 株式会社　埋蔵文化財サポートシステム |
| | 株式会社　九州文化財研究所 |
| 空中写真撮影業務 | 写測エンジニアリング株式会社 |
| 遺物一次整理業務 | 株式会社　埋蔵文化財サポートシステム |
| 遺構・遺物デジタルトレース業務 | 株式会社　埋蔵文化財サポートシステム |
| 遺物撮影及び図版版下作成業務 | 株式会社　埋蔵文化財サポートシステム |
| 原稿執筆支援業務 | 株式会社　埋蔵文化財サポートシステム |

## 九州新幹線建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書　一覧

『二本木遺跡群』熊本県文化財調査第 174 集　熊本県教育委員会編　1999
『長野遺跡』熊本県文化財調査報告 第 189 集　熊本県教育委員会編　2000
『古麓城寺遺跡 古麓城下遺跡』熊本県文化財調査報告 第 216 集　熊本県教育委員会編　2003
『古麓城跡』熊本県文化財調査報告第 227 集　熊本県教育委員会編　2005
『中片小路遺跡』熊本県文化財調査報告 第 224 集　熊本県教育委員会編　2005
『西片福村遺跡　中片小路遺跡』熊本県文化財調査報告 第 228 集　熊本県教育委員会編　2005
『宮地小畑遺跡 宮地観行寺遺跡』熊本県文化財調査報告第 235 集　熊本県教育委員会編　2006
『島田遺跡、上日置女大木遺跡、西片百田遺跡』熊本県文化財調査報告第 236 集　熊本県教育委員会編　2006
『西片百田遺跡』熊本県文化財調査報告第 242 集　熊本県教育委員会編　2007
『上ノ郷遺跡』熊本県文化財調査報告 第 239 集　熊本県教育委員会編集　2007
『島田遺跡』熊本県文化財調査報告 第 241 集　熊本県教育委員会編　2007
『祭田下遺跡』熊本県文化財調査報告第 247 集　熊本県教育委員会編　2009
『太郎丸遺跡、西屋敷遺跡、瀬萩遺跡』熊本県文化財調査報告第 250 集　熊本県教育委員会編　2010
『八代平野干拓遺跡群（高田手永旧堤防・四百町間旧堤防）』熊本県文化財調査報告第 254 集熊本県教育委員会編　2010
『小畑遺跡』熊本県文化財調査報告第 256 集　熊本県教育委員会編　2010
『古曽部遺跡、南請遺跡、高良柳迫遺跡』熊本県文化財調査報告第 261 集　熊本県教育委員会編　2011
『花岡山・万日山遺跡、新馬借遺跡、北島遺跡群、万楽寺出口遺跡』熊本県文化財調査第 266 集　熊本県教育委員会編　2011
『福祥津留遺跡、西安寺遺跡』熊本県文化財調査報告第 263 集　熊本県教育委員会編　2011
『玉名平野条里跡（古閑前地区）』熊本県文化財調査報告第 261 集　熊本県教育委員会編　2011
『長山前田遺跡、両迫間日渡遺跡 1 』熊本県文化財調査報告第 268 集　熊本県教育委員会編　2012
『二本木遺跡群（春日地区）５』熊本県文化財調査第 271 集　熊本県教育委員会編　2012
『下江中島遺跡（上日置女大木遺跡）』熊本県文化財調査第 278 集　熊本県教育委員会　2013
『川尻外城跡』熊本県文化財調査第 279 集　熊本県教育委員会　2013
『二本木遺跡群（田崎地区）・（田崎市道切替）・（田崎陸橋）』熊本県文化財調査報告第 280 集　熊本県教育委員会　2013
『八島町遺跡』熊本県文化財調査第 281 集　熊本県文化財調査第 281 集　熊本県教育委員会　2013

| 地域 | No. | 遺跡名 | 所在地 | 調査面積(㎡) | 調査期間 | 調査担当者 | 遺跡の年代 | 調査種別 | 報告書 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 熊本県南部（水俣・八代市域） | 1 | 長野遺跡 | 水俣市長野町 | 1,500（×2面） | H9.12.8～H10.3.31 | 村崎孝宏　中川裕二 | 縄文晩期 弥生後期・古代 | 本線 | 第189集 |
| | 2 | 古麓城跡遺跡 | 八代市古麓町 | 3,800 | H12.12.5～H13.5.31 | 出田久斉　来村　大 | 中世 | 本線 | 第227集 |
| | 3 | | | 2,200 | H13.10.9～H14.4.30 | 古城史雄　水野哲郎 青柳博晃　松尾　茂 宮崎　拓 | 古代・中世 近世 | 本線 | |
| | 4 | 古麓能寺遺跡 | 八代市古麓町字能寺 | 4,528（×3面） | H13.4.28～H14.3.20 | 青木勝士　松尾　繁 | 古代・中世 | 本電施 | 第216集 |
| | 5 | 古麓城下遺跡 | 八代市古麓町字砥崎 | 505（×2面） | H14.1.18～H14.4.20 | 青木勝士　来村　大 松尾　繁　本田麻紀 | 古代・中世 | 本線 | |
| | 6 | 宮地観行寺遺跡 | 八代市宮地町字観行寺 | 1802.7（×4面） | H13.10.9～H14.6.3 | 山城敏明　角田賢二 池田朋生　宇田員将 豊原加奈子　濱田教靖 | 古墳・古代 中世 | 本線 | 第235集 |
| | 7 | | | 352.4（×3面） | H15.5.6～H15.9.30 | 高田英樹　長谷部善一 宇田員将 | 古墳・古代 中世 | 迂回 | 第254集 |
| | 8 | 宮地小畑遺跡 | 八代市宮地町字小畑 | 1,072.1（×4面） | H14.2.1～H14.6.3 | 坂田和弘　坂口圭太郎 長谷部善一　中村幸宏 上高原　聡　宇田員将 内田成香　洲崎明子 村中智絵 | 古代・中世 | 本線 | 第235集 |
| | 9 | | | 1,530.4（×3面） | H14.4.1～H15.10.12 | 長谷部善一　高田英樹 和田敏郎　三宅一生 | 古代・中世 | 迂回 | 第254集 |
| | 10 | 中片小路遺跡 | 八代市中片字小路 | 3,800（×2面） | H12.8.1～H13.3.31 | 出田久斉　来村　大 | 古代・中世 | 本線 | 第228集 |
| | 11 | | | | H13.10.1～H14.2.28 | 坂口圭太郎　森　貴史 | 古墳・古代 近世 | 本線 | 第228集 |
| | 12 | | | 1,200（×3面） | H14.12.4～H15.3.12 | 長谷部善一　村中智絵 | 古代・近世 | 迂回 | 第224集 |
| | 13 | 西片稲村遺跡 | 八代市西片町字稲村 | 2,800 | H13.4.15～H13.9.28 | 坂口圭太郎　森　貴史 | 弥生後期・古代・中世 | 本線 | 第228集 |
| | 14 | 西片百田遺跡 | 八代市西片町字百田 | 6,282（×2面） | H12.7.1～H14.4.19 | 長谷部善一　緒方智子 上高原　聡　荒木隆宏 洲崎明子 | 弥生中期～後期 古墳初頭 | 本・八駅 | 第242集 第236集に一部記載あり |
| | 15 | 上日置女夫木遺跡 | 八代市上日置町字女夫木 | 2,800 | H13.10.1～H14.3.29 | 中村幸宏　高谷和生 後藤貴美子　古閑敬士 濱田教靖 | 弥生前期・後期 古墳初頭 | 八駅 | 本書 第236集に一部記載あり |
| | 16 | 島田遺跡 | 八代市島田町 | 1,530.4（×2面） | H13.8.6～H14.3.29 | 野田英治 内田成香　西山由美子 | 弥生前期・後期 | 本線 | 第241集 第236集に一部記載あり |
| | 17 | 高田手永旧堤防 | 八代市千丁町新牟田 | 240 | H15.1.14～H15.3.31 | 坂口圭太郎 | 近世（文政2年）1819年～ | 本線 | 第254集 |
| | 18 | 四百町開旧堤防 | 八代市鏡町両出 | 60 | H16.11.5～H16.12.24 | 坂口圭太郎 | 近世（寛政11年）1799年～ | 本線 | |
| 宇城市域 | 19 | 古曽部遺跡 | 宇城市不知火町小曽部字中請1083-6、1984-3 | 360 | H16.11.1～H16.12.10 | 坂口圭太郎 | 中世 | 本線 | 第265集 |
| | 20 | 南清遺跡 | 宇城市不知火町小曽部字南清1499-1、1499-2 | 980.37 | H18.9.20～H18.12.28 | 坂口圭太郎　尾方圭子 坂本亜矢子 | 古代 | 本線 | |
| | 21 | 高良柳迫遺跡 | 宇城市不知火町大字高良字柳迫 | 286 | H14.9.17～H14.12.27 | 坂口圭太郎 宇田員将　和田敏郎 | 古墳 | 本線 | |
| 熊本市域 | 22 | 下江中島遺跡 | 熊本市富合町古閑1287-1他5筆 | 7,107.49 | H18.12.4～H19.5.31 | 長谷部善一　吉田敏也 早田利宏　手塚智晴 園田恭子 | 古墳時代初頭 古代（平安） | 本線 整地 | 本書 |
| | 23 | 川尻外城遺跡 | 熊本市川尻3丁目831他6筆 | 1756.91 | H18.9.20～H19.3.30 | 坂口圭太郎 松森由美　多賀靖司 | 中世・古代 | 本線 | 第279集 |
| | 24 | 上ノ郷遺跡 | 熊本市島町1丁目304-1他5筆 | 2000 | H15.5.21～H16.1.31 | 今村和徳　和田敏郎 宇田員将　横田光智 | 弥生中期～後期・古代 | 本線 | 第239集 |
| | 25 | 八島町遺跡 | 熊本市蓮台寺4丁目132-3他11筆 | 3800 | H15.6.5～H15.10.31 | 坂口圭太郎 坂本亜矢子 | 弥生後期 古代・中世 | J施 | 第281集 |
| | 26 | | 熊本市蓮台寺4丁目578-8 | 250 | H16.2.17～H16.3.31 | | | | |
| | 27 | 二本木遺跡群 | 熊本市田崎1丁目117-1 | 700 | H8.1.29～H8.3.25 | 帆足俊文 | 縄文晩期 弥生後期 古代 | 連立 | 第174集 |

| | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 熊本市域 | 28 | 二本木遺跡群<br>(田崎地区) | 熊本市田崎１丁目 | 3138.42 | H15.11.17<br>～H16.3.31 | 宮崎敬士　増田直人<br>稲富陽子　塚永雅美<br>宮崎　拓　来村俊治<br>内田成香　松野直子 | 弥生後期<br>古墳・古代 | 連立<br>・<br>本線 | 第280集 |
| | | | | 2300 | H17.11.11<br>～H18.8.31 | 坂口圭太郎　尾方圭子<br>多賀晴司 | | | |
| | 29 | 二本木遺跡群<br>(田崎市道切替) | 熊本市田崎１丁目 | 48 | H19.5.7<br>～H19.6.6 | 松森由美　水上正孝 | 弥生後期<br>古代・中世 | 市替 | |
| | 30 | 二本木遺跡群<br>(田崎陸橋) | 熊本市田崎１丁目 | 78.6 | H19.10.1<br>～H19.11.1 | 壇　佳克　横田光智 | 古代・近世 | 迂道 | |
| | 31 | 二本木遺跡群<br>(春日地区)<br>第６次調査 | 熊本市春日３丁目<br>1015番地 | 12700 | H17.11.7～<br>H18.12.26 | 長谷部善一　吉田徹也<br>早田利宏　吉井英志 | 古代・中世<br>近世 | 熊駅 | 第271集 |
| | 32 | 二本木遺跡群<br>(春日地区)<br>第14次調査 | 熊本市春日３丁目 | 20 | H22.7.20<br>～H22.8.2 | 長谷部善一 | 古代 | | |
| | 33 | 花岡山<br>万日山遺跡群 | 熊本市横手２丁目<br>1183-21ほか８筆 | 3133.54 | H17.1.21～<br>H18.12.18 | 坂口圭太郎　遠山　宏 | 古代 | 本線 | 第266集 |
| | 34 | 新馬借遺跡 | 熊本市横手１丁目<br>1142番地ほか６筆 | 550 | H18.5.30～<br>H18.6.30<br>H20.1.4～<br>H20.1.31 | 坂口圭太郎<br>遠山　宏　壇　佳克 | 中世・古代 | 本線 | |
| | 35 | 北島遺跡群 | 熊本市池田４丁目<br>519ほか11筆 | 3450 | H18.6.15<br>～H19.2.28 | 今村和徳<br>横田光智　遠山　宏 | 弥生後期<br>古代・中世 | 本線 | |
| | 36 | 万楽寺出口遺跡 | 熊本市太郎迫町<br>474-2ほか２筆 | 984.52 | H19.5.1～<br>H19.10.30 | 坂口圭太郎<br>壇　佳克 | 縄文晩期<br>古代 | 本線 | |
| 熊本県北部（玉名市域） | 37 | 長山前田遺跡 | 玉名都南関町<br>長山字前田 | 600 | H16.4.27<br>～H18.5.23 | 坂口圭太郎 | 弥生後期<br>中世 | 本線 | 第268集 |
| | 38 | 稲佐津留遺跡 | 玉名都玉東町稲佐 | 2273.54 | H16.5.27～<br>H17.12.28 | 尾方圭子　今村和徳<br>遠山　宏 | 弥生後期<br>古墳　古代 | 本線 | 第263集 |
| | 39 | 祭田下遺跡 | 玉名市津留字祭田下<br>223-2ほか９筆 | 5762<br>（×２面） | H16.6.1～<br>H16.10.27 | 長谷部善一　吉田徹也<br>早田利宏　園田恭子 | 中世　近世 | 本線 | 第247集 |
| | 40 | 小園遺跡 | 玉名市石貫字小園<br>345-2ほか13筆 | 2406 | H16.6.14～<br>H16.10.31 | 坂口圭太郎　松森由美<br>坂本亜矢子　遠山　宏 | 弥生後期<br>中世　近世 | 本線 | 第256集 |
| | 41 | 太郎丸遺跡 | 玉名市大字津留字白拍子 373-2ほか13筆 | 14148 | H16.11.1～<br>H17.10.31 | 長谷部善一　吉田徹也<br>早田利宏　園田恭子 | 古代　中世 | 本線 | 第250集 |
| | 42 | 西屋敷遺跡 | 玉名市大坊字西屋敷<br>2660-3ほか４筆 | 325 | H17.4.9<br>～H17.5.13 | 長谷部善一　吉田徹也<br>早田利宏　園田恭子 | 近世 | 本線 | 第250集 |
| | 43 | 瀬萩遺跡 | 玉名市津留字川面<br>103-3ほか３筆 | 4344 | H17.4.19<br>～H17.9.30 | 吉田徹也　早田利宏 | 古墳　古代<br>中世 | 本線 | 第250集 |
| | 44 | 両迫間目渡遺跡 | 玉名市両迫間 | 742.92 | H18.8.23～<br>H18.10.10 | 坂口圭太郎　亀田　学 | 弥生　古墳 | 玉駅 | 第268集 |
| | 45 | 玉名平野条里跡<br>（古閑前地区） | 玉名市両迫間字古閑前<br>158-2ほか９筆 | 2537.85 | H19.6.1～<br>H20.1.31 | 長谷部善一　吉田徹也<br>早田利宏　園田恭子 | 弥生後期<br>古墳（初・後）<br>古代　中世 | 本線 | 第261集 |
| | 46 | 西安寺遺跡 | 玉名都玉東町西安寺<br>1018 | 518 | H18.11.26<br>～H19.12.26 | 坂口圭太郎 | 中世　近世 | 工道 | 第263集 |

Tab.1　九州新幹線新八代～博多間建設に伴う熊本県内の発掘調査

| 凡例 | |
|---|---|
| 工道 | 工事用道路 |
| 玉駅 | 新玉名駅 |
| 熊駅 | 新熊本駅 |
| 連立 | JR 連立事業 |
| 市替 | 市道切り替え |
| 迂道 | 迂回道路 |
| 整施 | 新幹線整備施設 |
| 八駅 | 新八代駅 |
| 電施 | 電源施設 |

| No | 遺跡名 | No | 遺跡名 | No | 遺跡名 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 長山前田遺跡 | 11 | 二本木遺跡群（田崎地区） | 21 | 西片園田遺跡 |
| 2 | 小園遺跡 | 12 | 八島町遺跡 | | 西片福村遺跡 |
| 3 | 西屋敷遺跡 | | 熊本平野条里跡 | | 中片小路遺跡 |
| 4 | 両迫間日渡遺跡 | 13 | 上ノ郷遺跡 | 22 | 宮地年神遺跡 |
| 5 | 玉名平野条里跡（古閑前地区） | 14 | 川尻下城遺跡 | | キリシタン寺院跡 |
| | 太部丸遺跡 | 15 | 下江中島遺跡 | | 宮地池尻遺跡 |
| | 祭田下遺跡 | 16 | 小曽部西園遺跡 | | 宮地小畑遺跡 |
| | 瀬板遺跡 | | 南清遺跡 | | 宮地観行寺遺跡 |
| 6 | 稲佐津留遺跡 | 17 | 島台畑遺跡 | | 古麓城下遺跡 |
| 7 | 西安寺遺跡 | 18 | 四百町間 | | 古麓能寺遺跡 |
| 8 | 万楽寺出口遺跡 | 19 | 島田手永堤防 | | 古麓城跡 |
| 9 | 北新遺跡・北島北遺跡 | 20 | 島田遺跡 | 23 | 長野遺跡 |
| 10 | 新馬橋遺跡 | | 上日置女夫木遺跡 | | |
| | 花岡山・万日山遺跡 | | 西片百田遺跡 | | |

Fig.1　熊本県域における地形表記と九州新幹線により発掘調査を実施した遺跡

# 第２章　調査

## １　調査地域

### （１）地理的環境

熊本市は九州の中央である熊本県の西北部に位置する。熊本市の北西部は金峰山を主峰とする複式火山帯とこれに連なる立田山等の台地からなり、西方に面する有明海と内陸部とを隔てる。また、北部から東部一帯は火砕流台地や河成段丘が発達し、これらは東方へ高度を増しつつ阿蘇外輪山の斜面へ続く。そして、南部には白川・緑川などによって東部の台地や段丘が浸食された結果、流送された土砂の堆積によって形成された沖積平野である、いわゆる「熊本平野」が広がる。この熊本平野では、流量豊かな河川と豊富な地下水を背景に早くから稲作農業が展開されてきた。なお、熊本平野の総面積は約 775Km²を測り，福岡県の筑紫平野に次いで九州で第２の広さを有する。

本遺跡が所在する熊本平野北部には、白川が南流する。白川は標高 1500 ｍの阿蘇を水源とする全長 74㎞の１級河川であり、熊本市域を貫流する。この川は古くから「暴れ川」として知られており、これらの河川の堆積作用によって熊本平野北部は形成された。白川は戦後から現在までに少なくとも７度氾濫し、最近では平成 24 年７月の九州北部豪雨によって８度目の氾濫を起こした。白川の本格的な改変は、近世初頭の加藤清正に端を発し、現在に至るまで多くの河川改修が行われている。また、本遺跡内を南流する坪井川は、本来、熊本城東方で鴻池する白川と合流していたが、加藤清正の治水によって改変された人工流路である。

発掘調査を行った二本木遺跡群（田崎地区など）は熊本県熊本市西区田崎１丁目を中心に所在する。調査地は、熊本市中心地を南流する白川・坪井川が、その流れをほぼ 90°西方に変化させる箇所の北側右岸に立地する。国土交通省発行の治水地形分類図によると、調査地は扇状地の末端に位置し、北から南に緩やかに傾斜することが確認される。発掘調査以前は閑静な住宅街であった。

### （２）歴史的環境

本遺跡は沖積平野上に立地しており、旧石器時代の遺跡は周辺では確認されていない。直近の遺跡では本遺跡の北方に位置する金峰山麓上の遺跡が挙げられる。

縄文時代には、当時の遺跡は石神原遺跡や千原台遺跡、野添平遺跡（Fig.4-1）、島崎遺跡、戸坂遺跡（Fig.4-3）といった金峰山の丘陵裾部に遺跡が集中する。これらの遺跡では、縄文時代早期～中期の遺物も出土しているが、最も盛行した時期は縄文時代後・晩期である。また、熊本城が立地する京町台地の端部からも縄文時代晩期の土器が出土し、当時は丘陵端部上に遺跡の主体があったものと考える。二本木遺跡群内においても、縄文時代中期～後期の土器が僅かに出土する。

弥生時代前期には、遺跡数は激減し、遺跡の立地も丘陵部から低地へ移動する。本遺跡周辺では、白川左岸の本庄遺跡（Fig.4-51）や平田町遺跡（Fig.4-45）が挙げられる。弥生時代中期には、船場町遺跡（Fig.4-38）や上ノ郷遺跡(Fig.4-9)、白藤遺跡群(Fig. 4-11)などの平野部を中心に集落や甕棺墓を有する墓域が確認される。弥生時代後期になると、遺跡数は激増し、それまで立地していた平野部に加え、金峰山の丘陵裾部や台地部にまでその分布は拡がり、大小の集落が確認される。これらの中には戸坂遺跡（方格規矩鏡、小形仿製鏡、銅鏃）(Fig.4-3）や八島町遺跡（小形仿製鏡）(Fig.4-32)、平田町遺跡（小形仿製鏡）(Fig.4-45）など威信財である銅製品を所有する集落も認められる。二本木遺跡群ではこれまでに銅鏃が出土しており、今回の発掘調査では破鏡と小形仿製鏡が出土した。

古墳時代には、弥生時代から引き続き集落が営まれた遺跡として千原台遺跡群と古町遺跡（Fig.4-39）が挙げられるが、検出された集落遺跡数は少ない。本遺跡の近隣では花岡山・万日山遺跡群（Fig.4-4）や万日山山頂古墳、北岡横穴群（Fig.4-23）などの墓域は確認されるが、その集落遺跡は確認されていない。熊本県益

1　治水地形分類図は、治水対策を進めるため国が直接管理する河川（直轄河川）流域の平野部を対象に、昭和 51 年度から 53 年度にかけて整備した縮尺が２万５千分１の地図である。現在では広く共有すべき資料として平成 17 年８月から一般に公開され、平成 20 年２月からホームページでも閲覧が可能となっている。（http://www1.gsi.go.jp/geowww/lcmfc/lcmfc.html）

城町所在の小柳遺跡（益城町教育委員会 2010）では、生産拠点である低湿地に集落を形成し、墓域をその周辺の高地に形成することが推定されており、熊本平野でも墓域の状況から同様のことが考えられる。よって、古墳時代集落は弥生時代と異なる場所の熊本平野内に造営されていると推測される。

古代には、二本木遺跡群を含む白川右岸一帯は飽田郡に属する。飽田郡は宮前・加幡・小垣・私部・栗北・天田・川内・水門・殖木・下田・蚕カイの12郷を郡域とした肥後唯一の上郡であった。「和名抄」では「阿基岐多」と訓を付す。この時期は、二本木遺跡群が最も盛行した時期にあたり、周辺遺跡においても該期の遺構・遺物の出土は顕著である。特に8世紀後半から9世紀前半の時期の遺構・遺物は充実しており、官衙施設や村落内寺院が確認されている。近年は新幹線建設工事に伴う発掘調査や区画整理事業に伴う発掘調査が多数行われており、該期の土地区画や土地利用状況も明らかになりつつある。

中世においても古代後半から再び盛行した二本木遺跡群が継続して主体である。特に、12～13世紀の熊本県内では、検出された遺構や遺物は質・量共に突出しており、都市的な様相を呈する。しかし、17世紀に入り、加藤清正の肥後入国を契機として、肥後の中心はそれまでの二本木地域から隈本古城を中心とした古町遺跡一帯に移動する。さらに、細川藩政期には二本木遺跡群は横手手永に属し、田崎地区は「田崎村」として熊本城下への大根の供給地となっていたように、郡市部の縁辺地として存在し、現在に至る。

引用・参考文献

松本寿三郎・板楠和子・工藤敬一・猪飼隆明　1999『熊本県の歴史』県史43　山川出版社

下中邦彦編　『熊本県の地名』日本歴史地名体系第四四巻　平凡社

新熊本市史編纂委員会　1996『新熊本市史』 史料編　第一巻　考古資料

新熊本市史編纂委員会　1998『新熊本市史』 通史編　第一巻　自然・原始・古代

熊本県教育委員会　1999『二本木遺跡群』熊本県文化財調査報告第174集

熊本県教育委員会　2012『二本木遺跡群（春日地区）5』熊本県文化財調査報告第271集

熊本市教育委員会　2007『熊本市埋蔵文化財発掘調査報告集』平成18年度

熊本市教育委員会　2008『智照院細川家墓所』

熊本市教育委員会　2008『八ノ坪遺跡Ⅳ』

熊本市教育委員会　2009『戸坂遺跡』

熊本市教育委員会　2011『二本木遺跡群ⅩⅤ』熊本市の文化財第9集

益城町教育委員会　2010『小柳遺跡』益城町文化財調査報告第21集

（3）測量

本書に掲載した各遺跡の発掘調査を開始するにあたっては、事前に基準点測量と水準測量を実施した。基準点は調査の契機となった九州新幹線建設事業に伴い鉄道・運輸機構が設置した日本測地系に基づく国土座標Ⅱ系により設置している。

2002年（平成14年）4月1日から施行された改正測量法に伴い、日本測地系から世界測地系へ移行することとなったが、本事業における基準点がすべて日本測地系に基づいていることから、熊本県内における埋蔵文化財発掘調査で設置する基準点はすべて日本測地系に基づいている。なお、世界測地系との整合をとるために設置した基準としている杭の数値を日本測地系、世界測地系でそれぞれ示す。

（4）地区割り

田崎地区（1～3区）は平面直角座標第Ⅱ系の（-24600,-29500）を原点として、二本木遺跡群を第1象限

1　和名類聚抄（わみょうるいじゅうしょう）の略称である。平安時代中期（承平年間（931-938年））に勤子内親王の求めに応じて源順（みなもとのしたごう）が編纂した辞書である。

| 点名 | 日本測地系 | | 世界測地系 | |
|---|---|---|---|---|
| | X座標 | Y座標 | X座標 | Y座標 |
| 座標点No. 1 | −24320 | −29250 | −23947.7872 | −29471.0236 |
| 座標点No. 2 | −24300 | −29230 | −23927.7874 | −29451.0236 |
| 座標点No. 3 | −24400 | −29240 | −24027.7895 | −29461.0237 |
| 座標点No. 4 | −24480 | −29220 | −24107.7920 | −29441.0240 |
| 座標点No. 5 | −24530 | −29210 | −24157.7932 | −29431.0239 |
| 座標点No. 6 | −24580 | −29200 | −24207.7948 | −29420.0239 |
| 座標点No. 7 | −24640 | −29190 | −24267.7962 | −29411.0239 |
| 座標点No. 8 | −24200 | −29240 | −23827.7846 | −29461.0233 |
| 座標点No. 9 | −24240 | −29250 | −23867.7854 | −29471.0233 |
| 座標点No. 10 | −24595 | −29195 | −24222.7950 | −29416.0238 |

Tab.2　調査区内基準点測量成果

に位置づける極座標系を設け、10 mグリッドを設定している。グリッド名はグリッド南西隅の座標値に拠った表記を用いて調査を行った。その他の調査区では、調査時にグリッド設定は行っていない。

本書では、『二本木遺跡群（春日地区）5』（熊本県教育委員会 2012）の地区割りを踏襲する。よって、田崎地区（1～3区）についても、下記の地区割りに変換して報告を行う。地区割りは、平面直角座標第Ⅱ系の(-23000、-29500）を基点とし、遺跡全域を包括する東西 1.5km、南北 2.0kmの範囲を 1 辺 100m の方形区画を区切り、これを 1 単位としたブロックとした。各ブロックに対しては算用数字による番号を付し、北西隅を基点とし西から東へ 1 ～ 15、さらに南の一列は西から 16 ～ 30 とし、この繰り返しにより二本木遺跡群全域に対して 1 ～ 300 ブロックを配した。各ブロック内は、5 m × 5 m のグリッド（Grid）で位置を管理する。したがって、各ブロック内は、南北 20 ×東西 20 の 400 グリッドに細分される。グリッドについては各ブロックにおける北西隅を基点とし、北から南へ A →T、西から東へ 1 →20 とした。これによりグリッドは 1 ブロック A（南北グリッド）1（東西グリッド）300T-20 で表記される。

二本木遺跡群（田崎地区）は、183・198・213・228・229・244 ブロック、二本木遺跡群（市道切替）は 229・244 ブロック、二本木遺跡群（田崎陸橋連立区間）は 183 ブロックに所在する。

(5) その他

検出遺構は、遺構の種別を示す記号と数字の組み合わせにより表記する。記号には当遺跡で使用しない記号も含み、下線で示している記号が本報告書中で使用したものである。

SA(塀.柵列) SB(建物) SC(廊) SD(溝) SE(井戸) SF(道路) SG(池) SH(広場) SI(竪穴建物) SJ(土器埋納遺構) SK(土坑) SL(炉.竈) SN(水田.畑) SP(柱穴) SS(礎石.葺石.配石) ST(墓) SU(遺物集積) SW(石垣.防護壁) SX(その他)

なお、各調査担当者によって、その表記方法は異なるため、本書では上記の遺構の種別を示す記号に統一して報告を行う。田崎地区（1～3区）では竪穴建物を「SB」と記録して調査しているが、本報告では「SI」とし、遺構番号を一桁（1、2・・）のものを複数（01、02・・）に変換して報告している。また、遺物番号は、田崎地区（0～3区）、田崎地区（4～8区）、田崎市道切替、田崎陸橋で連番となっている。したがって、重複する遺構番号が存在するため、遺構番号を引用される場合は、調査区名に注意していただきたい。

また、基本層序は田崎地区（1～3区）は「0区」（熊本県教育員会 1999）の層序を踏襲するが、その他の調査区では、踏襲されていない。よって、本書では調査時の層序を基本的にそのまま記載している。

おって、5～7区では調査区の東側が遺構検出段階で現地保存することが決定した。したがって、本書ではその部分を「未掘域」とし、検出中であった遺構については、遺構番号を付さずに検出プランのみを掲載した。

基本層序、遺構埋土、遺物観察表に記している色調については「新版基準土色帳」(1999) を使用した。

遺物番号は、「1～12」までを欠番とし、本書では「13」から掲載している。

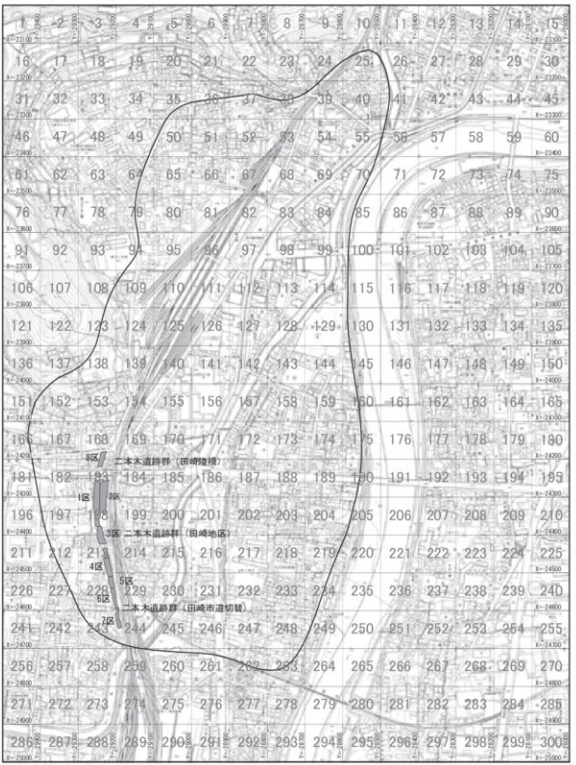



Fig.2　二本木遺跡群ブロック設定図

Fig.3　二本木遺跡群（田崎地区）遺跡分布図 1/5,000

Fig.4　二本木遺跡群周辺の遺跡地図

| 遺跡番号 | 遺跡名 | 遺跡の時代 |
|---|---|---|
| 1 | 野添平 | 縄文～中世 |
| 2 | 戸坂御田民 | 縄文～中世 |
| 3 | 戸坂 | 弥生～平安 |
| 4 | 花岡山・万日山遺跡群 | 古墳 |
| 5 | 清水原 | 縄文～中世 |
| 6 | 独鈴山遺跡群 | 古墳～中世 |
| 7 | 熊本平野条里跡 | 古代・中世 |
| 8 | 上代町遺跡群 | 縄文～平安 |
| 9 | 上ノ郷遺跡 | 弥生～中世 |
| 10 | 熊本平野条里跡 | 古代・中世 |
| 11 | 白藤遺跡群 | 弥生～中世 |
| 12 | 古護藤 | 弥生～中世 |
| 13 | 新馬借 | 古墳～平安 |
| 14 | 花岡山陸軍埋葬地 | 明治 |
| 15 | 古祥寺横穴群 | 古墳 |
| 16 | 横手町寺院群 | 近世 |
| 17 | 古往生院跡 | 近世 |
| 18 | 願行寺跡 | 近世 |
| 19 | 細川家菩提寺妙解寺跡 | 江戸 |
| 20 | 板屋町・細工町寺院跡 | 近世 |
| 21 | 花岡神社境内古墳 | 古墳 |
| 22 | 山山雲院（春日寺） | 江戸 |
| 23 | 北岡横穴群 | 古墳 |
| 24 | 熊本駅前の石塘 | 近世 |
| 25 | 石塘（白川橋） | 弥生～中世 |
| 26 | 二本木遺跡群 | 弥生～中世 |
| 27 | 二本木遺跡群<br>春日地区第6次 | 古代～近世 |
| 28 | 二本木遺跡群<br>春日地区第14次 | 古代～近世 |
| 29 | 二本木遺跡群<br>田崎地区 | 弥生～近世 |
| 30 | 二本木遺跡群<br>田崎舒橋 | 古代～近世 |
| 31 | 二本木遺跡群<br>田崎赤道切替 | 弥生～近世 |
| 32 | 八島町遺跡 | 弥生 |
| 33 | 八島町 | 弥生 |
| 34 | 道城方 | 弥生・古代 |
| 35 | 南新宮 | 弥生～中世 |
| 36 | 蓮台寺松垣塔 | 中世 |
| 37 | 熊本城跡遺跡群 | 古墳～近世 |
| 38 | 船場町 | 弥生 |
| 39 | 古町（旧唐人町） | 弥生～明治 |
| 40 | 光明寺跡 | 近世 |
| 41 | 浄信寺跡 | 中世 |
| 42 | 本山城跡（本庄城跡） | 弥生～中世 |
| 43 | 無漏寺跡 | 中世 |
| 44 | 世安池田 | 弥生～中世 |
| 45 | 平田町 | 弥生～平安 |
| 46 | 近見 | 縄文～中世 |
| 47 | 山崎古墳 | 古墳 |
| 48 | 花畑館跡 | 近世 |
| 49 | 辛島町 | 弥生・古墳 |
| 50 | 代継神社の唐塔 | 中世 |
| 51 | 本庄（熊大病院敷地） | 古墳～平安 |
| 52 | 新屋敷 | 弥生～中世 |
| 53 | 大江遺跡群 | 縄文～明治 |
| 54 | 不動院跡の六地蔵塔 | 中世 |
| 55 | 熊本平野条里跡 | 古代・中世 |
| 56 | 出水国府跡 | 弥生～中世 |
| 57 | 田迎下乙 | 古代・中世 |
| 58 | 西無田 | 弥生～平安 |
| 59 | 御幸笛田神社 | 弥生～中世 |
| 60 | 下乙地頭館跡 | 中世 |

Tab.3　遺跡地名表

## 2　発掘作業の経過　調査日誌

1区

2004

02.03　表土剥ぎを開始し、14 層まで掘削する。既往調査区の西側から調査を開始する。熊本市教育委員会文化財課 原田範昭文化財保護主事に来訪を願い、共同で土層観察を行い、11 層・14 層について共通認識を持った。

02.04　引き続き表土剥ぎを行う。なお本調査の調査組織は、調査責任者を文化課課長 成瀬晋大、教育審議員 島津義昭、調査総括を文化財調査第２係長 西住欣一郎とし、調査担当者を主任学芸員 宮崎敬士、以下非常勤職員 増田直人・福永雅美・稲富陽子とする。

02.05　引き続き表土剥ぎを行う。本調査地点は、「二本木遺跡群」内にあり、町名を採って「田崎」地区とする。

02.06　表土剥ぎを終了する。既往調査区を「０区」とし、現調査区を「１区」とする。また、基本層序についても既往調査の成果を基本的に踏襲する。

02.09　本日より、作業員が現場に入場する。撹乱の除去を開始する。

02.10　調査区内にベルトコンベアを設置する。撹乱除去および 13 b 層の掘削を行う。

02.12　調査区西壁に設定した幅１ｍのトレンチおよび 13 b 層の掘削を行う。

02.13　㈱ダイチプランによるメッシュ杭の設置が行われる。調査区西壁トレンチおよび 13 b 層の掘削を行う。

02.16　13 b 層の掘削および調査区南壁の土層断面の分層を行う。調査区北側の遺構密度は低く、東西方向に溝が数条検出されるのみである。

02.17　検出遺構 SK・SD 他および 13 b 層の掘削を行う。本調査区は既往調査区（０区）と隣接しているため、０区と同一の遺構については、既刊報告書の遺構名とする。よって、新出の遺構は「11」以降の数字を用いる。

02.18　土坑 SK11 ～ 26・溝 SD08・27・28 の調査および 13 b 層、調査区西壁トレンチの掘削を行う。上記の遺構埋土の大半は SD11 と基本的に同層であり、比較的よくしまる粘質土の単層である。調査区の旧地形は南から北に向って徐々に下がる。土層断面観察から、13 b 層以下は水成堆積と推定される。

02.19　土坑 SK11 ～ 26・溝 SD08・27・28・29 の調査を行う。二本木遺跡群全体を包括する座標値を設定する。

02.20　調査区北側で検出された溝 SD08・28・29・30 の調査を行う。

02.23　㈱埋蔵文化財サポートシステムによる調査区南壁および西壁の土層断面実測を開始する。土坑 SK11・12・16・18、20 ～ 23、溝 SD32 の調査を行う。

02.24　引き続き、土層断面実測を行う（㈱埋蔵文化財サポートシステム）。土坑 SK13 ～ 15・17・24・32・33、溝 SD08・29 の調査を行う。2244G・2245G で検出された土坑はいずれも浅く、13a 層（灰褐色粘質土）を埋土とする。13 b 層検出の「撹乱坑」と捉えてもよい。

02.25　土坑 SK23・25・26・32 ～ 34・36 や 溝 SD31・35 の調査を行う。土層断面実測（㈱埋蔵文化財サポートシステム）および溝 SD29 の完掘状況を撮影する。

02.26　土層断面実測を行う（㈱埋蔵文化財サポートシステム）。土坑 SK33・34・36 ～ 38、SD29・31・38 の調査を行う。

02.27　土層断面実測を終了する（㈱埋蔵文化財サポートシステム）。土坑 SK37・39・40・42・44、溝 SD28・29・35・38・41・43 の調査を行う。

03.01　土坑 SK42・44・46 の前後関係を確認し、完掘する。あわせて土坑 SK39・溝 SD28・35・38・41 の調査を行う。

03.02　溝 SD41・47・48 の調査 を行う。

03.03　柱穴 P14 等の調査を行い、１区の調査を完了する。その後、埋め戻しを開始する。

03.04　終日、埋め戻しを行う。調査員は調査事務所内で実測図面の整理を行う。

03.05　埋め戻しを終了する。

１区拡張区

2004 年

02.23　表土剥ぎを開始する。

02.24　引き続き、表土剥ぎを行う。調査区内整備を開始する。

02.25　表土剥ぎを終了する。遺構検出および 13 b 層の掘削を行う。弥生～中世の遺物が多く出土するが、いずれも磨滅が著しい。

03.01　㈱九州文化財研究所による拡張部の西壁土層断面実測を開始する。土坑 SK45、溝 SD28・43・44 の調査を行う。

03.02　本日より、非常勤職員 濱田教靖氏が調査に加わる。引き続き土層断面実測を行う（㈱九州文化財研究所）。土坑 SK39 ～ 42、44・46、溝 SD27・41・43・47・48、柱穴 P1 ～ 5 の調査を行う。SD47 は幅２ｍ程の大型の溝である。

03.03　調査区の完掘状況を撮影し、１区拡張部の調査を完了する。１区拡張部では遺構は北側に集中している。

03.04　終日、埋め戻しを行う。調査員は調査事務所内で実測図面の整理を行う。

03.05　埋め戻しを終了する。

２区

2004 年

03.05　表土剥ぎを開始する。１区と同様に、遺構密度は低いことが予想される。あわせて、調査区の周囲に調査区への落下・進入防止のための杭をトラロープの設置を終了する。

03.09　引き続き、表土剥ぎを行う。調査区南側では 12 層直下に 13 b 層が堆積しているが、調査区中央から北側では 12 層直下は 13a 層、さらに砂層が堆積しており、調査区内において 12 層以下の土層堆積に差異が認められる。

03.10　本日より２区に作業員が入場する。引き続き、表土剥ぎを行う。調査区整備および 13 b 層の掘削、遺構検出を開始する。

03.11　引き続き表土剥ぎを行う。２区では廃土置場が十分に確保できないため、２区北側の一部を廃土置場とする。よって、

1区で検出された溝の延長部が検出できない可能性がある。
03.12　雨天のため、作業を中止する。㈱ダイチプランによるメッシュ杭の設置が行われる。
03.15　表土剥ぎが終了する。調査区北端では12層直下は小礫の混じる層である。土坑SK49・50・51、柱穴P53の調査および13ｂ層の掘削を行う。
03.16　土坑SK54～57の調査を行う。
03.17　土坑SK50・51・54・55・57・58・59・61～66・68・69・72・73・74・76、SD47・43・69・75の調査を行う。
03.18　㈱九州文化財研究所による調査区の北壁土層断面実測が行われる。土坑SK52・77～80、溝SD27・28・75、柱穴SP15の調査を行う。溝SD27・28は1区で検出された溝の続きであるため、同名を使用する。
03.19　土坑SK80～83、溝SD27･28･43･47･84の調査を行う。
03.22　本日より、非常勤職員　宮崎拓氏が調査に参加する。
03.23　調査区の完掘状況を撮影する。
03.24　土坑SK85・86・88～94、溝SD27・28・43・47・87・94の調査を行う。山崎純男氏が来跡する。
03.25　調査を完了する。

3区
2004年
03.15　表土剥ぎを行う。地表面から約1ｍ下方より黒色土が検出される。
03.16　引き続き表土剥ぎを行う。
03.17　引き続き表土剥ぎを行う。
03.18　表土剥ぎを終了する。掘削深度は1・2区と比較すると明らかに浅い。
03.19　㈱ダイチプランによるメッシュ杭の設置作業が行われる。
03.23　調査を再開する。表土剥ぎ後の清掃を行う。1・2区と比較すると遺構密度は高い。
03.24　損乱除去を行う。
03.25　遺構検出および調査区西壁トレンチの掘削を行う。トレンチ内土層観察の結果、14層（黄白色土）を基盤とし、その上方に13ｂ層、青灰色砂層が堆積する層序は1・2区の土層と同様である。しかし、調査区北側では橙色の新たな遺構検出面が確認されている。
03.26　㈱九州文化財研究所による調査区の西壁・南壁土層断面実測が行われる。包含層掘削および遺構検出を行う。調査区北側には近世以降の溝が数条検出され、南側では溝や弥生時代後期～古墳時代前期の遺構が検出されている。また、調査区南端は鉄分やマンガンの沈着が著しく、土質も異なり、水田跡を想起させる。地山は南側に向って下っている。
03.29　本日より、非常勤職員　来村俊治氏が調査に参加する。溝SD95・96・98、土坑SK97の調査および13ｃ層（黒色土に黄色い地山ブロックが混じる）の掘削を行う。
03.30　雨天のため、調査を中止する。調査事務所内で実測図面の整理を行う。
03.31　非常勤職員　内田成香、松野直子氏が調査に加わる。検出遺構の調査を行う。調査の結果、井戸SE99より多くの遺物が出土する。また、SD98は円形周溝であることが明らかになる。調査事務所の撤収を行い、3区の調査を完了する。

4区
2006年
02.08　4区の調査を行う。
02.13　表土剥ぎを終了する。調査区整備および包含層掘削を行う。
02.14　雨天のため、午後から調査を中止する。遺構検出を開始する。
02.15　15時で調査を中止する。メッシュ杭の設置作業を開始する。調査区北東部の包含層掘削および遺構検出を行う。
02.17　竪穴建物SI30・31・33・40・44の調査を行う。
02.20　午前中で調査を終了する。調査区北側の竪穴建物群の調査を行う。
02.21　竪穴建物SI30～32・36・41・43～45の調査を行う。
02.22　調査区北部の竪穴建物群の調査および調査区中央部の遺構検出を行う。
02.23　調査区北側の竪穴建物群の調査を行う。
02.24　調査区中央部の包含層を掘削し、遺構検出を行う。
02.27　調査区北部の竪穴建物群の調査および調査区中央～南部の遺構検出を行う。
02.28　調査区北部の竪穴建物群および調査区中央～南部の溝の調査を行う。
03.02　検出遺構の調査を行う。溝SD57の遺構実測や、調査区南端や北部の遺構検出状況の撮影を行う。
03.03　竪穴建物群の調査を行う。竪穴建物SI38・34・36・56の前後関係や土坑の帰属が明らかになる。
03.06　調査事務所内で実測図面および写真の整理、出土遺物の洗浄を行う。
03.07　検出竪穴建物群の調査を行う。竪穴建物SI83より仿製鏡が出土する。
03.08　検出竪穴建物群の調査を行う。
03.09　15時で調査を中止する。検出竪穴建物群の調査を行う。
03.10　調査区北部の竪穴建物群の調査を行う。
03.13　調査区北部の竪穴建物群の調査を行う。
03.14　検出竪穴建物群の調査を行う。
03.16　調査区北部の竪穴建物群の調査を行う。
03.17　検出竪穴建物群の調査を行う。
03.20　検出竪穴建物群の調査を行う。
04.06　4区拡張部の調査を開始する。拡張部の遺構検出を行う。4区と同様に竪穴建物を中心に遺構密度は高い。
04.07　調査係会議のため、午前中で調査を終了する。拡張部の遺構検出を行う。竪穴建物SI125周辺には、複数の竪穴建物が重複して検出される。
04.11　拡張部の調査を行う。検出済の竪穴建物に SI123～131の遺構番号を付す。
04.12　拡張部の調査を行う。竪穴建物SI123・125・128・131を完掘する。竪穴建物SI139・153等の調査を開始する。
04.14　拡張部の検出竪穴建物群の調査を行う。
04.15　拡張部の検出竪穴建物群の調査を行う。

04.17　拡張部北側の完掘状況を撮影する。
04.18　玉名市教育委員会文化財課 竹田宏司文化財係長、熊本市教育委員会文化財課 原田範昭文化財保護主事、文化課 江本直課長補佐が来跡する。検出遺構について指導をいただく。
04.19　拡張部の調査を終了する。
04.20　拡張部の埋め戻しが開始される。

5区

2005

11.11　表土剥ぎを開始する。
11.12　表土剥ぎ2日目。
11.14　表土剥ぎを終了する。調査区内清掃および包含層掘削を開始する。調査区を横断する溝及び竪穴建物の検出を行う。あわせて土層確認トレンチの掘削を行う。
11.16　2層下面の調査を終了する。溝 SD03・5 および撹乱・植物痕を完掘する。溝 SD04 と溝 SD01 は切り合っているが、時期差はない。
11.17　4層下面の調査を開始する。竪穴建物 SI01、溝 SD07 ～ 09、柱穴 SP01・02 を検出する。溝 SD09 は溝 SD08 より後出する。
11.18　5-1 層の掘削を行い、遺構検出を行う。
11.21　推進抗の土壌改良が開始になる。本日より、5-1 層下面の調査を開始する。調査区南東で検出された竪穴建物の調査を開始する。
11.22　竪穴建物 SI02・03・04・05、掘立柱建物 SB01・土坑 SK02、溝 SD10 の調査を開始する。
11.24　掘立柱建物柱 SB01 を完掘する。竪穴建物 SI03・SI04 の調査を行う。
11.25　竪穴建物 SI02・SI04 の調査を行う。調査区東壁土層断面実測および土層断面撮影を行う。
11.28　竪穴建物 SI02 ～ 04 の調査を行う。
11.29　竪穴建物 SI02 ～ 04 の調査を行う。
11.30　竪穴建物 SI02 ～ 04 の調査を行う。竪穴建物 SI02 の柱穴検出を行う。
12.01　調査区西側の表土剥ぎを開始する。
12.05　表土剥ぎ終了箇所の調査区内整備を行う。調査区北側に井戸 SE01 を検出する。溝 SD02・03・06・14・15 の土層観察から、それぞれの前後関係を明らかにした。
12.06　表土剥ぎを終了する。調査区整備を行う。
12.07　2層下面の調査を終了する。
12.08　メッシュ杭を設置する。調査区内の区画畦について検討を行う。区画畦は、溝 SD02・04 と比較して古い時期に存在していたことが調査区東壁土層断面から確認された。
12.09　竪穴建物 SI01 の検出状況を撮影し、掘削を開始する。
12.12　竪穴建物 SI01・02・04 の調査を行う。竪穴建物 SI01・02 の平面遺構実測および竪穴建物 SI02・04 の土層断面実測を行う。掘立柱建物 SB02 の土層断面実測および土層断面撮影を行う。
12.13　竪穴建物 SI01・02 を調査する。竪穴建物 SI02 を完掘し、撮影を行う。掘立柱建物 SB02 柱穴土層断面実測を行う。
12.14　鉄道・運輸機構と文化課（坂口圭太郎、多賀晴司）で、今後の調査方針について協議を行う。竪穴建物 SI01 を完掘し、平面遺構実測を行う。竪穴建物 SI07 ～ 09 を検出する。
12.15　竪穴建物 SI05・07 ～ 09 の調査を行う。竪穴建物 SI05・08 の平面遺構実測を行う。
12.16　竪穴建物 SI05・07・09 の調査を行う。竪穴建物 SI05・08・09 の柱穴土層断面実測および柱穴土層断面撮影を行う。掘立柱建物 SB03 の柱穴土層断面撮影を行う。
12.19　4-2 層下面の調査を終了する。竪穴建物 SI05・09、掘立柱建物 SB03、土坑 SK03、溝 SD08 ～ 11 の調査を行う。完堀遺構の撮影を行う。
12.20　調査区北側の 5-1 層下面の遺構検出状況を撮影する。柱穴 SP05・07・08・09 の平面及び土層断面実測を行う。
12.21　降雨のため、午前中で作業を中止する。
12.22　積雪および路面凍結による事故を考慮して、作業を早めに終了する。
12.26　竪穴建物 SI02・03 の拡張部の掘削を行う。竪穴建物 SI07 の完掘状況の撮影を行う。
12.27　竪穴建物 SI06 の調査を行う。
12.28 ～ 01.04　冬季休暇

2006

01.10　鉄道・運輸機構と文化課（高木正文、坂口圭太郎、多賀晴司）で、今後の調査方針について協議を行う。竪穴建物 SI04・06・10・11、検出柱穴の調査を行う。
01.11　新調査区の調査準備を開始する。竪穴建物 SI06・10・11 の調査を行い、竪穴建物 SI06・10 については柱穴の土層断面を実測する。
01.12　竪穴建物 SI10・11 の調査を行う。
01.13　雨天の為、作業を中止する。調査事務所内で図面整理を行う。
01.16　竪穴建物 SI11 の掘削を行う。竪穴建物 SI10・11 の土層断面実測を行う。
01.17　雨天の為、作業を中止する。調査事務所内で出土遺物洗浄および図面整理を行う。
01.18　検出遺構を全て完掘し、調査を完了する。
01.25　未調査区の真砂土被覆作業を開始する。
01.26　未調査区の真砂土被覆作業を完了する。
02.14　4・6区の作業が午後から雨天の為に中止になったので、遺物整理を行う。

6区

2006

01.16　表土剥ぎを開始する。
01.17　雨天の為、表土剥ぎを中止する。
01.18　表土剥ぎは中止したが、作業員による調査区内整備は行った。
01.19　表土剥ぎを行う。
01.20　調査区内整備および土層確認トレンチの掘削を行う。
01.23　表土剥ぎを行う。作業員による調査区整備および包含層の掘削は調査区南側から行っている。
01.24　表土剥ぎとあわせて、調査区南部の遺構検出を行う。調査区内に竪穴建物群があることを確認した。
01.25　表土剥ぎを終了する。数か所の遺物集中部を検出した。

竪穴建物 SI12 ～ 14 の掘削を開始する。竪穴建物 SI13・14 の検出状況を撮影する。
01.26　竪穴建物 SI12 ～ 15 の掘削を行う。
01.27　竪穴建物 SI12・13・15・16・17、溝 SD23・24 を掘削する竪穴建物 SI16・17 柱穴土層断面実測および土層断面撮影を行う。
01.30　本日より、聾学校の生徒が実習に参加。（2月3日まで）また、非常勤職員　坂本重矢子氏が調査に加わる。調査区北側の遺構検出を行う。
01.31　竪穴建物 SI12 ～ 17 の調査を行う。
02.01　竪穴建物 SI12 ～ 18 の調査を行う。
02.02　竪穴建物 SI12 ～ 20 の調査を行う。
02.03　聾学校の生徒の実習終了。竪穴建物 SI12 ～ 19 の調査を行う。
02.06　雨天の為、調査を中止する。調査事務所内で出土土器の洗浄を行う。
02.07　竪穴建物 SI16・18 ～ 28 の調査を行う。竪穴建物 SI12 ～ 17 を完掘する。
02.08　4区の調査にあわせて、調査を中断する。
02.09　竪穴建物 SI18 ～ 24・29 の調査を行う。
02.10　竪穴建物 SI19・20・24 ～ 28 の調査を行う。
02.13　本日より、非常勤職員　横田光智氏が調査に加わる。竪穴建物 SI25 ～ 27 の調査を行う。
02.14　雨天のため、午後から調査を中止する。午前中は、竪穴建物 SI28 の調査を行い、午後からは調査事務所内で図面・遺物整理を行う。
02.15　15時で調査を中止する。調査は検出遺構の実測を行う。
02.17　竪穴建物 SI15・16・25 の調査を行う。
02.20　午前中で調査を終了する。竪穴建物 SI25 の遺構実測を行う。
02.22　竪穴建物 SI25 の遺構実測を行う。
02.23　竪穴建物 SI25 の遺構実測を行う。
02.24　竪穴建物 SI25 の遺構実測が終了する。
本日で6区の調査を一時中断し、4区の調査へ移行する。
04.20　竪穴建物 SI25 をはじめとする竪穴建物群の調査を再開する。
04.21　竪穴建物 SI12 ～ 17 の掘削および遺構実測を行う。竪穴建物 SI12 の東側に掘立柱建物２軒が確認される。
04.24　熊本市教育委員会文化財課 高野信子埋蔵文化財発掘調査員ら３名が来跡する。調査区南側の調査を行う。
04.25　竪穴建物 SI179・180・181・204、掘立柱建物 SB04 など調査区南側の調査を行う。
04.26　雨天のため、午前中で調査中止。午後は調査事務所内で出土遺物の洗浄作業を行う。
04.27　調査区中央部の調査を行う。
04.28　調査区北側の調査を行う。掘立柱建物 SB01・02 などを検出する。
05.01　調査区北側～中央部の調査を行う。
05.02　調査区南側の調査を行う。
05.08　本日より、非常勤職員 坂本重矢子・遠山宏・横田光智・吉留広の４氏が調査に加わる。調査区南側の竪穴建物群 SI203 ～ 227 の調査を行う。
05.09　雨天の為、調査を中止する。
05.10　調査区南側の竪穴建物群 SI203 ～ 227 の調査を行う。
05.11　調査区南側の竪穴建物群 SI203 ～ 227 の調査、および調査区北側の遺構検出を行う。
05.12　調査区南側の竪穴建物群 SI203 ～ 227 の調査、および調査区北側の遺構検出を行う。
05.15　検出竪穴建物群 SI203 ～ 245 などの調査を行う。
05.16　調査区北側～中央部の検出竪穴建物群 SI204 ～ 247 などの調査を行う。
05.17　雨天の為、調査を中止する。
05.18　雨天の為､調査を中止する。鉄道･運輸機構と文化課(坂口圭太郎･多賀晴司）で、今後の調査方針について協議を行う。
05.19　雨天の為、調査を中止する。
05.22　検出竪穴建物群 SI203 ～ 251 などの調査を行う
05.23　検出竪穴建物群 SI203 ～ 251 などの調査を行う。
05.24　検出竪穴建物群 SI203 ～ 251 などの調査を行う。土坑 SK56 より縦方向へ２つに裁断された甕が出土している。共に内器面を上側に向けた状態で出土している。
05.25　検出竪穴建物群 SI203 ～ 251 などの調査を行う。
05.26　雨天の為、調査を中止する。
05.27　雨天の為、15時で調査を中止する。調査事務所内で出土遺物の洗浄や実測図面の整理を行う。
05.30　調査区南側の検出竪穴建物群の調査を行う。
05.31　検出竪穴建物群 SI203 ～ 251 などの調査を行う。
06.01　検出竪穴建物群 SI203 ～ 251 などの調査を行う。
06.05　検出竪穴建物群 SI203 ～ 251 などの調査を行う。

7区
2006 年
05.24　表土剥ぎを開始する。
05.25　引き続き、表土剥ぎを行う。
05.26　雨天の為、表土剥ぎは中止する。
05.27　雨天の為、表土剥ぎは中止する。
05.30　調査区北側・南側に東西方向に走行する大きな溝が検出されている。
06.05　調査区東端の南北方向に土層確認トレンチを設定し、掘削を行う。
06.06　撹乱坑掘削および包含層掘削を行う。
06.07　遺構検出および検出遺構の掘削を開始する。
06.08　雨天の為、調査を中止する。実測図面及び出土遺物の整理を行う。
06.09　調査係会議のため、午前中で調査を終了する。
06.12　遺構検出および検出遺構の掘削及び調査区東側の土層断面の実測を行う。
06.13　調査区北側及び南側の遺構検出を行い、検出された竪穴建物の掘削を行う。あわせて、調査区東側の土層断面の実測を行う。
06.14　調査区全面の遺構検出を行うが、調査区内の乾燥が激しく、作業し難い。
06.16　竪穴建物 SI280・288・289・290・291、溝 SD80・81、

などの調査を行う。
06.19　竪穴建物 SI280・288・289・290・291、溝 SD80・81 などの調査を行う。
06.20　竪穴建物 SI280・288・289・290・291 などの調査を行う。
06.21　竪穴建物 SI280・288・289・290・291 や溝 SD84 などの調査を行う。
06.27　竪穴建物 SI280・288・289・290・291 や溝 SD84 などの調査を行う。
06.28　調査を完了する。

8区
2006 年
06.20　調査の開始について鉄道・運輸機構と協議を行う。
06.21　表土剥ぎを開始する。
06.22　引き続き、表土剥ぎを行う。
06.28　調査区西側に土層確認トレンチを設定し、掘削を行う。
07.03　雨天の為、調査を中止する。調査事務所内で実測図面の整理を行う。
07.04　表土剥ぎを行う。
07.05　雨天の為、調査を中止する。調査事務所内で実測図面の整理を行う。
07.06　包含層の掘削および遺構検出を行う。
07.07　台風の接近に備えて、台風養生を行う。溝 SD86・87 の掘削を行う。
07.10　表土剥ぎを終了する。撹乱や包含層の掘削などを行う。
07.11　4 級基準点が設置され、メッシュ杭が打設される。調査区内の東西トレンチを掘削し、土層観察を行った結果、包含層の堆積が分厚い箇所が確認される。調査区南側の撹乱の掘削も行う。
07.12　調査区南側に広がる撹乱の掘削を終了し、遺構検出を行う。
07.13　包含層掘削および遺構検出を行う。
07.14　調査区南側の包含層掘削および遺構検出を行う。
07.18　調査区北側の包含層掘削および遺構検出を行う。東西方向に走行する溝が多く検出されている。
07.24　包含層掘削および遺構検出を行う。昨日検出された溝は SD88 ～ 93 の名称を付し、調査を行う。
07.25　包含層掘削および遺構検出を行う。
07.26　検出された溝に SD94 ～ 103 の名称を付し、調査を行う。溝 SD95・103 は埋土中に砂を多く含み水成堆積と推定される。
07.27　遺構検出および溝 SD94 ～ 103 の調査を行う。溝 SD103 の肩部には大小の礫が所々に埋設されたように出土している。
07.31　遺構検出を行う。検出作業は難航しており、トレンチを設定し、平面・断面の双方から遺構の把握に努める。
08.01　調査区中央部の包含層掘削および検出遺構の調査を行う。
08.02　調査区中央部から北側の包含層掘削および検出遺構の調査を行う。調査区北側は遺構の検出が難しい。溝 SD109 を完掘する。
08.03　作業は午前中で中断し、午後からは 8/4 開催予定の遺跡見学会の準備を行う。
08.04　遺跡見学会を開催する。
08.07　調査区北側および南側の包含層掘削を行う。
08.08　調査区北側の包含層掘削および検出遺構の調査を行う。
08.09　調査区中央部の溝 SD117 ～ 119 を中心に調査を行う。
08.10　調査区中央部の調査を行う。土層断面観察より、溝 SD119 の下部は自然に埋没していった状況が窺える。溝 SD117 より北側は多くの柱穴が広がっている。
08.11　荒天のため、午前中で調査を終了する。調査区北側の調査行う。
08.21　調査区北側の調査を行う。
8.22　調査区中央部から北側の調査を行う。検出された柱穴群の掘削を行う。柱穴の深度は深く、65㎝を超えるものも確認された。
8.23　調査区北側で検出された柱穴群を中心に調査を行う。
8.28　調査区北側で検出された柱穴群を中心に調査を行う。
8.29　調査区北側完掘写真を撮影する。
8.30　遺構掘削と実測作業を行う。

田崎市道切替

2007 年

05.07　表土剥ぎを開始する。３層上面で掘削を行う。熊本県文化課　坂口圭太郎参事・水上正孝文化財保護主事・増佳克学芸員とともに土層の検討を行う。

05.08　調査区整備を開始する。水上文化財保護主事・増学芸員と共に調査を行う。

05.09　熊本県文化課　島津義昭主幹・坂口参事・坂井田端志郎学芸員・多賀晴司学芸員が来跡する。遺構検出および土層観察を行う。

05.10　本日より、作業員が入場する。基準点測量及びメッシュ杭を設置する。熊本県文化課　上村竜馬文化財保護主事・坂井田学芸員が来跡する。２層下面で溝 SD01 ～ 06 を検出し、完掘する。

05.11　熊本県新都総室長　柳田憲議員、文化課　長谷部善一参事が来跡する。３層上面で検出された遺構の実測を行う。

05.14　文化課調査係会議の為、調査は中止する。午後から調査事務所内で、実測図面の整理を行う。

05.15　竹中 JV が調査区内で１時間程度の下水道作業を行う。３層下面より溝 SD07・08 が検出され、完掘する。4 - 2 層下面より、竪穴建物 SO1 を検出し、完掘する。

05.16　（有）興安商会が調査区南側で５月末日まで水道管の移設を行う。夜間、熊本市水道局による工事が行われる。熊本県文化課　島津主幹が来跡する。竪穴建物 SI01・溝 SD07・08 を完掘する。

05.17　午前中、調査区内壁面より、突然に湧水が確認される。原因は不明だが、竹中 JV に連絡を行う。尾方圭子参事が来跡する。

05.18　調査区西側の市道で水道工事が始まる。4 - 2 層を掘削し、竪穴建物 SI02 ～ 04、柱穴 SP01 を検出する。

05.21　竹中 JV が調査区内で１時間程度の下水道作業を行う。5 - 1 層下面で竪穴建物 SI05・06、柱穴 SP02 ～ 04 を検出し、調査を開始する。

05.22　坂口参事・多賀学芸員が来跡する。竪穴建物 SI03・05・06 の調査を行う。

05.23　竹中 JV が調査区内で１時間程度の下水道作業を行う。竪穴建物 SI05 ～ 08 の調査を行う。

05.24　検出遺構を完掘する。

05.25　雨天のため、調査を中止する。調査事務所内で実測図面の整理を行う。

05.28　（株）旭製興が水道関係埋設物の撤去に伴う掘削廃土を、発掘調査による掘削廃土置場と共用する。調査区内に溜まった雨水の排水作業を行う。調査事務所内で実測図面の整理を行う。

05.29　鉄道・運輸機構が調査の視察に来跡する。熊本県文化課　坂口参事が来跡する。調査区内の土層断面の実測を行う。

05.30　調査区内の土層断面の実測を行う。

05.31　熊本県文化課　高木正文課長補佐が来跡する。調査区内の土層断面の実測を行う。

06.01　熊本県文化課　尾方参事、亀田学主任学芸員、非常勤職員　園田恭子・遠山宏・宮崎拓・吉井英二・吉留広氏らが来跡する。調査機材を搬出する。土層断面の実測を行う。

06.04・5　調査事務所内で実測図面および写真の整理を行う

06.06　調査を完了する。

田崎陸橋

2007 年

10.01　表土剥ぎを行う。坂口圭太郎・尾方圭子・松森由美参事が来跡する。表土剥ぎは地表面から約１m下方の炭混じりの層まで行う。掘乱が多いが、陰橋下位は遺構の残存状況が良好である。

10.03　メッシュ杭の設置を行う。掘乱を掘削し、地山の確認を行う。

10.05　本日より調査作業員２名が入場する。調査区内に認められる掘乱の掘削を行う。

10.09　雨天の為、調査を中止する。鉄道・運輸機構・JV と文化課（坂口・松森・増佳克・橋田光智）の３者協議を行う。

10.10　調査区冠水の為、調査を中止する。

10.11　調査区の復旧作業に多くの時間を費やす。復旧後は掘乱掘削を行う。一部Ⅳ層の掘削を行ったが、出土遺物量は僅かである。

10.12　掘乱の掘削を終了し、掘乱完掘状況を撮影する。調査の過程で確認した黒砂層（Ⅴ層）は 1996 年に熊本県によって実施された調査（⑩区）の 11 層に相当する。

10.15　Ⅳ層の掘削及びⅤ層の検出を行う。なお、Ⅳ層は近世以降の堆積土と考えている。

10.16　熊本県文化課 高木正文課長補佐が来跡する。調査区北側中央部で検出された掘乱坑は井戸である、との教示をうける。Ⅳ・Ⅴ層を掘削し、遺構検出を行う。地山である黄白色粘土は南に向って傾斜していることが確認された。遺構３～７までが検出された。

10.17　検出遺構柱穴 M02 ～ 04、06・07、溝 SD01 の調査を行う。溝 SD08 を検出する。大半の遺構を完掘する。

10.18　坂口・松森参事が来跡する。Ⅵ～Ⅸ層までを層毎に掘削し、遺構検出を行う。Ⅶ層以下に遺構は認められない。

10.19　調査係会議のため、調査は午前中で中止する。全検出遺構を完掘し、撮影も行う。

10.22　熊本県新幹線対策整備室 柳田憲議員 他１名が来跡する。スロープ部直下の調査を行う。遺物包含層を確認したが、遺構は検出できなかった。完掘状況の撮影を行う。

10.23　多賀学芸員が来跡する。終日、遺構実測を行う。

10.24　松森参事が来跡する。終日、調査区土層断面の実測を行う。

10.25　土層註記を終了する。午後からは、調査機材の搬出を行う。

10.29　調査機材の搬出など、撤収を開始する。

11.01　調査事務所を撤収し、調査を完了する。

# 第３章　遺構

１　１・２区

（１）　概要

１区は平成８年度に熊本県教育委員会によって発掘調査が行われた「二本木遺跡群」(以下、０区と表記する)の西側に隣接する 183L-12 グリッドから 198P-13 グリッドにかけて設定された。１区の南側東部は０区が位置しているため、平面形は、南北に全長 120 m、東西に最大幅 16 mを測る所謂「鍵」形を呈する。１区では、土坑 27 基、溝８条の 35 遺構を検出した。遺構密度は低く、０区に隣接している南部でわずかに集中が認められる。なお、検出した溝のうち、「SD31」は０区調査時に「SD06」として報告された溝と同一である。

２区は０区の北側および１区の東部に隣接した 183L-16 グリッドから 198J-15 グリッドにかけて設定された。平面形は、南北に全長 91 m、東西に最大幅 21 mを測る長方形を呈する。２区では、土坑 41 基、溝９条を検出した。遺構密度は低く、０区に隣接している南部でわずかに集中が認められる。なお、溝 SD43・47 は１・２区を横断している。また、両調査区の面積は合計 2,879㎡（１区：1268㎡、２区：1611㎡）である。

ここでは、１～２区で検出した主な遺構について報告を行う。その他の遺構については遺構一覧表（Tab.4～6）を参照していただきたい。また、調査方法は０区の調査を踏襲し、詳細は第２章（P9）に記載している。

（２）遺構各説

ａ　溝（ＳＤ）

SD47（Fig.6）

183L-10 ～ 183Q-16 グリッドで検出し、１・２区を横断する溝である。重複する溝 SD43 を削平する。調査区を北西 － 南東に走行する。遺構埋土は調査区土層断面では褐灰色土を主体として、最高７層に分層される。幅 4.8 m、検出面からの深度は 28㎝を測り、断面は「コの字」状を呈する。

SD08・29（Fig.6）

198H-9 ～ 198J-11 グリッドで検出した溝である。共に調査区を北西 － 南東に走行する。

SD08 は０区調査時に「SD08」として報告されていた溝と同一である。遺構埋土は灰黄褐色シルトの単層である。幅は 46㎝、検出面からの深度は 14㎝を測る。SD29 は SD08 と重複し、SD08 に後出する。遺構埋土は黒色粘質土の単層であるが、一部細分できる箇所もある。幅 38㎝、検出面からの深度は 26 センチを測り、先行する SD08 と比較して深い。

SD31（Fig.6）

198O-9 ～ 198P-12 グリッドで検出した溝である。調査区を東西に走行する。幅は 53㎝を測る。０区調査時に「SD06」として報告されていた溝と同一である。

ｂ　土坑（ＳＫ）

SK32・33（Fig.7）

SK32 は 198E-10 グリッドで検出した土坑である。遺構埋土は黒褐色粘質土の単層である。長軸の長さは 191㎝、検出面からの深度は 142㎝を測る。

SK33 は 198N-11 グリッドで検出した土坑である。遺構埋土は褐色粘質土～黒褐色粘質土を主体に３層に分層できた。長軸の長さは 170㎝、検出面からの深度は 102㎝を測る。

双方とも土坑の掘削方法が類似しており、全体的に浅く掘り込んだ後に、一部を深く掘り込んでいる。

SK37（Fig.8）

198K-10 グリッドで検出した土坑である。平面形は長楕円形を呈する。長軸は 197㎝、短軸は 154㎝、検出面からの深度は 130㎝を測る。遺構埋土は①黒色粘質土、②暗オリーブ褐色シルトの２層に分層でき、その堆積状況から短期間に埋まったものと推測する。

本遺構は、検出面から 30㎝の深度に掘削され、平坦面を形成する。その平坦面から、直径 93㎝、平坦面からの深度 102㎝の円筒状に掘削されている。最深の基底の長軸は 40㎝を測り、平坦面を形成する。

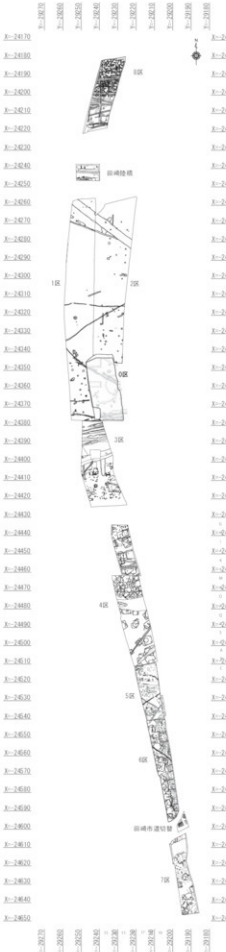



Fig.5　二本木遺跡群（田崎地区）　遺跡全体図 1/2,000

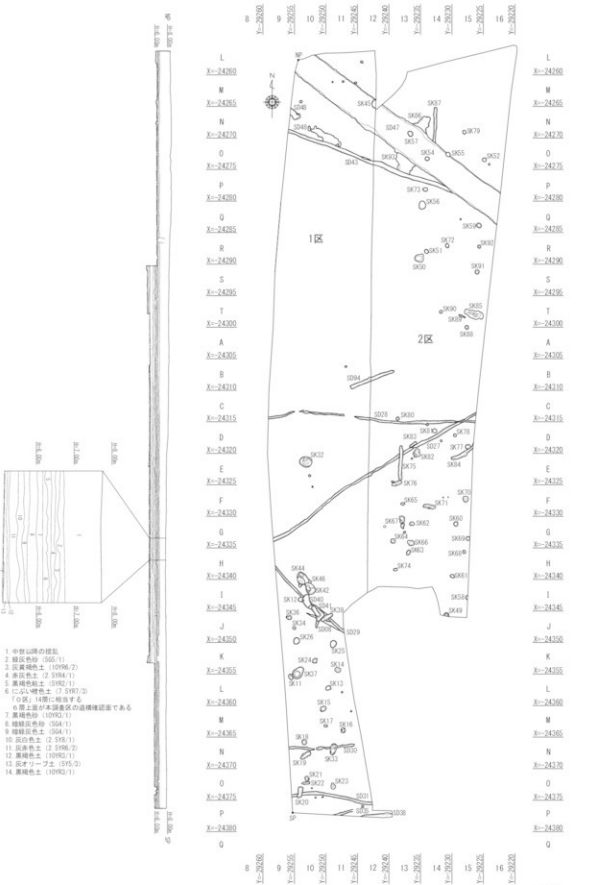



Fig.6　二本木遺跡群（田崎地区）１区・２区遺構配置図

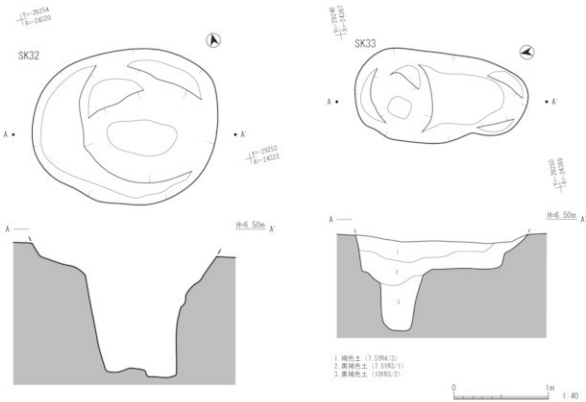



Fig.7　1区土坑SK32（左）・SK33（右）実測図

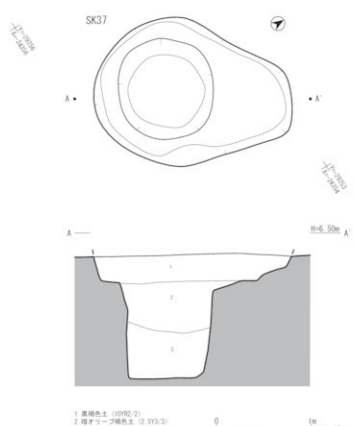



Fig.8　1区土坑SK37実測図

SK86・93（Fig.6）

183N-14 ～ 183O-13 グリッドで検出した。本来は一つの土坑であったが､その間を溝 SD47 によって削平・分断されたために、調査時は２遺構として検出したが、本来は長軸９m超の長楕円形の土坑であったと推測する。

SK81 ～ 83（Fig.6）

198D-14 ～ 198E-13 グリッドで検出した土坑群である。遺構埋土は褐灰色粘質土の単層である。各土坑で混入物や粘性にわずかな差異が認められるが、基本的には同一埋土である。

SK58・60・62 ～ 65・67・68・70・71・74・76 ～ 78（Fig.6）

198D-15 ～ 198I-15 グリッドで検出した土坑群である。遺構埋土は褐灰色粘質土の単層である。各土坑で混入物や粘性にわずかな差異が認められるが、基本的には同一埋土である。

SK11 ～ 21・23 ～ 26・49（Fig.6）

198I-10 ～ 198O-10 グリッドで検出した土坑群である。遺構埋土は、灰黄褐色土の単層である。各土坑で混入物や粘性にわずかな差異が認められるが、基本的には同一埋土である。

SK34・36（Fig.6）

198J-10 グリッドで検出した土坑である。遺構埋土は、黒色粘質土の単層で同一である。

2　3区

（1）概要

3区は0区と1区の南側に隣接した198P-11グリッドから213E-12グリッドにかけて設定された。調査区は南北に全長46m、東西に最大幅20mの長方形を呈し、面積は793㎡を測る。3区では、竪穴建物6軒、土坑1基、溝4条、井戸1基等を検出した。1・2区では認められなかった竪穴建物も検出され、遺跡の様相の変化域に位置している。それは出土遺物からも明らかであり、1・2区では古代の遺物が中心であったが、3区では弥生時代後期の遺物が出土し、井戸SE99の底部からは、15個体の完形土器が出土している。

ここでは、検出した主な遺構について報告を行う。その他の遺構については、遺構一覧表（Tab.6）を参照していただきたい。また、調査方法は0区の調査を踏襲し、詳細は第2章（P9）に記載している。

（2）遺構各説

a　溝（SD）

SD98（Fig.10）

213D-11グリッドで検出した。幅68㎝を測り、断面形「U字」形を呈する円形周溝である。遺構の西側半分は調査区外へ延びる。したがって、平面形は不明確であるが、検出直径3.3mの周溝であると推測される。検出面からの深度は38㎝を測る。遺構埋土は、黒色土、褐灰色土の2層に分層される。

円形に巡る溝の内側中央では長軸56㎝、検出面からの深度18㎝の円形を呈する土坑を検出した。溝と土坑の相関関係については不明であるが、ここではあわせて報告する。

b　井戸（SE）

SE99（Fig.11）

213C-12グリッドで検出した。平面形は直径208㎝の円形を呈し、検出面からほぼ真下に向って掘削され、基底までの深度は253㎝を測る。遺構埋土は黒褐色土シルト（上層）、黒色土シルト（下層）の2層に分層できた。

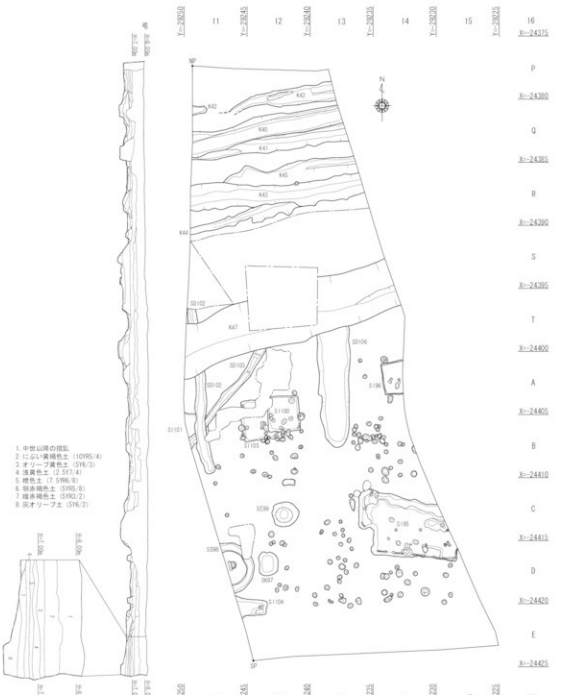
本遺構の底部からは、ひょうたん形土器（118）、ジョッキ形土器（121）、無頸壺（120）、丸底甕（大）（122）、鉢（125）の小計5個体から成る土器群と、形態と法量が近似した短頸壺（124・128）、長胴壺（小）（129・132）、長頸壺（123・130）、丸底壺と体部形態が近似した長胴壺（大）（119・131）の各1対の5組から成る小計10個体、都合15個体の完形土器群が据え置かれて出土した。これらの土器群は、いずれも精良な胎土と堅緻な焼成からなる一群である。ここでは、ひょうたん形土器について詳述する。ひょうたん形土器は、胴部高17.6㎝・最大径20㎝を測り、筒状の素口頸部と丸底の底部を有する。体部上半には長軸6.7㎝、短軸5㎝の楕円形を呈する円窓が開く。円窓は刀子などの鋭利な刃物を用いて開孔され、その端部には丁寧なナデが施される。円窓周辺には繊細な縦位の磨きが施される。体部は基本的に横位の磨きが施されるが、円窓周辺と比較すると磨きの単位は太い。また、口頸部の磨きはやや荒く、筋などは不可されていない。内器面上半は不規則方向のナデ、下半は斜位のハケ目の後、ナデが施され、内底面には指頭圧痕が認められる。

c　竪穴建物（SI）

SI96（Fig.12）

213A-14グリッドで検出した。遺構の東側は調査区外へ延びる。したがって、平面形・規模は不明確である。南北辺2.5m、検出東西辺1.8mを測る。壁面はほぼ垂直に立ちあがり、検出面から床面までの深度は33㎝を測る。南北辺から推測される遺構の主軸はN-9°-Wを測る。遺構埋土は暗褐色シルトの単層である。

本遺構では溝（D1）を検出した。D1は遺構壁面に沿って全周で検出した。D1は幅10㎝、床面からの深度は12㎝を測り、断面「V字」形を呈する。土坑は2基（K1・K2）を検出した。K1は遺構中央で検出した。K1は長軸68㎝、短軸31㎝の長楕円形を呈し、床面からの深度は9㎝を測る。その基底は平坦面を形成する。K2はK1南西部で検出した。長軸43㎝、短軸30㎝の不定形な円形を呈する。床面からの深度は13㎝を測り、


1. 中世山岸の盛土
2. にぶい黄褐色土 (10YR5/4)
3. オリーブ黄色土 (5Y6/3)
4. 浅黄色土 (2.5Y7/4)
5. 橙色土 (7.5YR6/8)
6. 明赤褐色土 (5YR5/8)
7. 暗赤褐色土 (5YR2/2)
8. 灰オリーブ土 (5Y6/2)
N
S
W
E
K40
K41
K42
K43
K44
K45
K46
K47
SD102
SD103
SD104
SD106
S1100
S1101
S1103
S1104
S1105
S1106
S1107
S1108
S1109
S1110
S1111
S1112
S1113
S1114
S1115
S1116
S1117
S1118
S1119
S1120
S1121
S1122
S1123
S1124
S1125
S1126
S1127
S1128
S1129
S1130
S1131
S1132
S1133
S1134
S1135
S1136
S1137
S1138
S1139
S1140
S1141
S1142

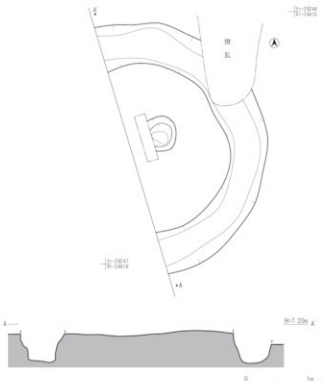



Fig.10　3区溝 SD98 実測図

その基底は平坦面を形成する。柱穴は1基（P1）を検出した。P1は中央で検出した。その平面形は長軸20㎝の円形を呈し、床面からの深度は9㎝を測る。

SI100（Fig.12）

213A-12グリッドで検出した。遺構の北西部および南西部は攪乱によって削平されている。重複するSI105に後出する。平面形は南北軸2.7ｍ、東西軸2.5ｍのほぼ正方形を呈する。壁面はほぼ垂直に立ちあがり、検出面から床面までの深度は16㎝を測る。検出南北辺から推測される遺構の主軸はN-5°-Wを測る。遺構埋土は暗褐色シルトの単層である。

本遺構内外では床面には硬化した箇所が50㎝四方で認められた。また、多くの柱穴を検出したが、ここでは主柱穴と推測されるP1・P2について報告する。P1は西側中央で検出した。その平面形は長軸25㎝の円形を呈し、床面からの深度は25㎝を測る。P2は東側中央で検出され、本遺構の上端プランから一部張り出す。その平面形は長軸56㎝の円形を呈し、床面からの深度は21㎝を測る。その基底の26㎝上方にはステップを有する。主柱穴P1・P2の芯心距離は2.3ｍを測る。

SI105（Fig.13）

213B-12グリッドで検出した。遺構の中央は攪乱によって大きく削平を受ける。また、東側は後出するSI100によって削平される。したがって、平面形・規模は不明確であるが、検出南北辺は3.2ｍ、検出東西辺は3.2ｍを測る方形を呈すると推測される。壁面はほぼ垂直に立ちあがり、検出面から床面までの深度は12㎝を測る。検出南北辺から推測される遺構の主軸はN-9°-Wを測る。遺構埋土は、黒褐色シルトの単層である。

本遺構内外では多くの柱穴を検出したが、ここではP1のみを報告する。P1は南側中央の遺構外で検出した。その平面形は長軸36㎝の円形を呈し、床面からの検出面からの深度は19㎝を測る。

SI95（Fig.14）

213C-14グリッドで検出した。遺構の東側は調査区外へ延びる。したがって、平面形・規模は不明確である。検出した遺構からは長辺6.8ｍ、短辺5ｍを測る長方形の北西側に南北3.0ｍ、東西1.3ｍの張り出し部を持つ平面形が推測される。壁面はほぼ垂直に立ちあがり、検出面から床面までの深度は30㎝を測る。検出東

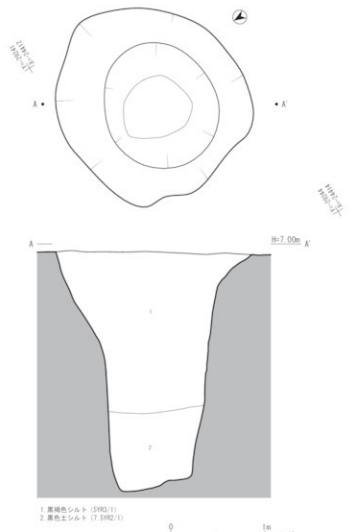



Fig.11　3区井戸 SE99 実測図

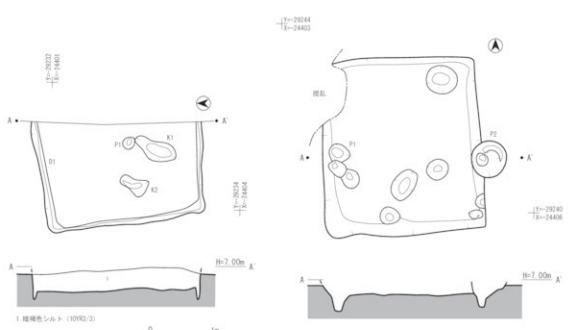



Fig.12　3区竪穴建物 SI96（左）・SI100（右）実測図

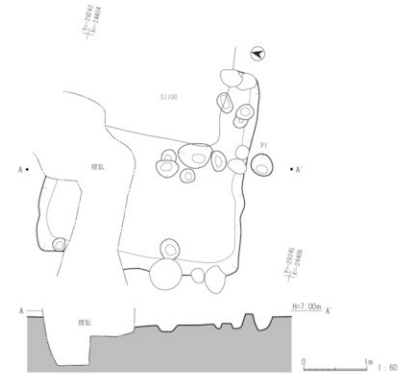



Fig.13　3区竪穴建物SI105実測図

西辺から推測される遺構の主軸はE-10°-Sを測る。遺構埋土は黒褐色シルトを主体として3層に分層できた。

本遺構ではベッド状遺構を2基（B1・B2）検出した。B1は遺構北側から張出部西側にかけて検出した。B1は遺構壁面に接しており、その平面形は東西方向の長い「鍵」形を呈し、その上面は幅60～70cmを測る。東西方向のベッドは、床面と比較して10cm高く構築されるのに対して、張出部に認められる南北方向のベッドは床面と比較して20cm高く構築される。B2は遺構南側中央で検出した。平面形は、長辺113cm、短辺35cmを測る長方形を呈し、床面と比較して10cm高く構築されている。

土坑は2基（K1・K2）を検出した。K1は遺構南端中央で検出した。K1は長軸86cm、短軸63cmの長楕円形を呈し、床面からの深度は28cmを測る。その基底は平坦面を形成する。K1はその北側に南北軸36cm、東西軸39cmの舌状の張り出し部をもつ。その基底は、K1基底から20cm上方にあり、平坦面を形成する。K2は遺構北側東部で検出した。その東側は調査区外へ延びるため、平面形・規模は不明確であるが、検出長軸174cm、短軸80cmの長楕円形を呈すると推測される。床面からの深度は10cmを測り、その基底は平坦面を形成する。基底の東側には、長軸33cmの楕円形を呈する掘込みがあり、基底からの深度は8cmである。

溝は7条（D1）を検出したが、ここでは一連のものとみなし、D1として報告する。D1は遺構の南端から東端の下端に沿って検出した。幅10～20cm、床面からの深度は5～15cmである。D1はB2直下からも検出されており、B2構築以前に作出されたことが分かる。また、K1と重複し、K1が後出することもわかる。よって、D1は建物構築の初期段階に作出された壁際溝と推測する。

柱穴は大小十数基を検出したが、ここではP1～P4の4基を報告する。P1は西側中央で検出した。その平面形は長軸38cmの円形を呈し、床面からの深度は43cmを測る。P2は東側中央で検出した。その平面形は長軸22cmの円形を呈し、床面からの深度は28cmを測る。P3はK1西部で検出した。その平面形は長軸41cmの円形を呈し、床面からの深度は23cmを測る。P4はK1東部で検出され、B2より後出する。その平面形は長軸48cmの長楕円形を呈し、床面からの深度は48cmを測る。P1・P2は本遺構の主柱穴と想定され、その芯心距離は2.5mを測る。また、K1、P3・P4はその検出箇所と相互の位置関係から、建物入り口施設であることが推測される。P3・P4の芯心距離は2.2mを測る。

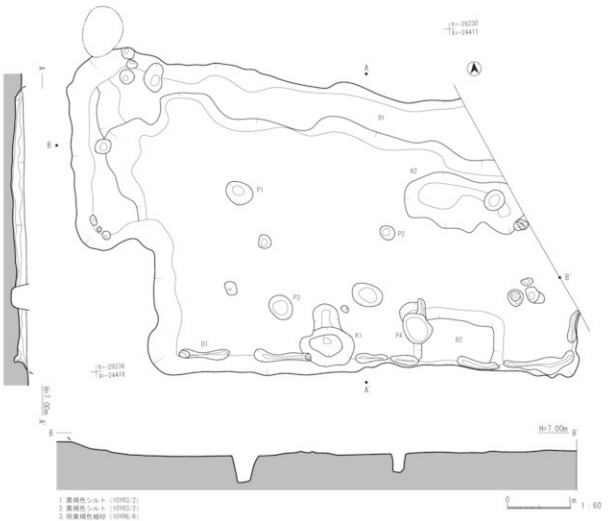



Fig.14　3区竪穴建物 SI95 実測図

d　土坑（S K）

SK97（Fig.15）

213D-12 グリッドで検出した。平面形は長軸 182㎝、短軸 145㎝の隅丸方形を呈する。壁面はゆるやかに立ちあがり、断面形状は「U 字」形を呈し、検出面から床面までの深度は 45㎝を測る。遺構の主軸は N-9° -W を測る。

本遺構からは、口縁部を西方に向けた斜位の状態で白磁の四耳壺が出土した。四耳壺は口径 9.9㎝、底形 7.6㎝、器高 23.8㎝を測る。釉は緑味を帯び、胎土は淡黄灰色を呈する。なだらかな卵形胴部に太い角高台が付く。胴部最大径は上位にあり、16.6㎝を測る。頸部は胴部から直に上方へ屈折し、玉縁状に肥厚させた口縁に至る。肩部には 2 条の凹線が巡り、横形の四耳を有する。本壺は大宰府編年「耳壺Ⅲ 1 類」に比定される。また、壺内土壌のウォーターフローテーションを行ったが、内容物は確認できなかった。遺構形状・出土遺物から墓壙と推測する。

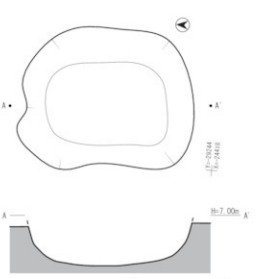



Fig.15　3区土坑 SK97 実測図

| 調査区 | グリッド | 種別 | 番号 | 埋土土色 | 註記 | 幅 | 深さ | 内容 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 0 | | | 1 | 熊本県教育委員会　1999 「二本木遺跡群」熊本県文化財調査報告第174集　を参照 | | | | |
| 0 | | | 2 | | | | | |
| 0 | | | 3 | | | | | |
| 0 | | | 4 | | | | | |
| 0 | | | 5 | | | | | |
| 0 | | | 6 | | | | | |
| 0 | | | 7 | | | | | |
| 1 | 198J-10・11 | SD | 8 | ①灰黄褐色シルト(Hue10YR4/2)<br>②灰黄褐色シルト(Hue10YR4/2) | しまり中　粘性中。オリーブ褐色砂質土（Hue2.4Y4/3）を大量に含む。<br>しまり中　粘性中。地山の明黄褐色砂質ブロック（Hue2.5Y6/6、φ0.5㎝弱）を少量含む。 | 46 | 14 | 0区の続き遺構、SD29＞SD08、埋土はSD29に近似している。 |
| 0 | | SD | 9 | 欠番 | | | | |
| 0 | | SD | 10 | | | | | |
| 1 | 198L-9 | SK | 11 | ①灰黄褐色粘質土(Hue10YR4/2) | しまり中　粘性大。粘質土であり、橙色粒(鉄分らしきものφ3㎜～10㎜)を多く含む。 | 81 | 17 | |
| 1 | 198I-10 | SK | 12 | ①灰黄褐色粘質土(Hue10YR4/2) | しまり中　粘性大。粘質土であり、橙色粒(鉄分らしきものφ3㎜～10㎜)を多く含む。 | 109 | 14 | SK11と同層。 |
| 1 | 198L-11 | SK | 13 | ①灰黄褐色粘質土(Hue10YR4/2) | しまり強い。　粘性大。粘質土であり、橙色粒（鉄分らしきものφ3㎜～10㎜）を多く含む。 | 80 | 9 | SK11と同層であるが、しまりがやや強く粘性大。 |
| 1 | 198K-11 | SK | 14 | ①灰黄褐色粘質土(Hue10YR4/2) | しまり強い。　粘性大。粘質土であり、橙色粒（鉄分らしきものφ3㎜～10㎜）を多く含む。 | 90 | 11 | SK11と同層であるが、しまりがやや強く粘性大。 |
| 1 | 198M-10 | SK | 15 | ①灰黄褐色粘質土(Hue10YR4/2) | しまり強い。　粘性大。粘質土であり、橙色粒（鉄分らしきものφ3㎜～10㎜）を多く含む。 | 98 | 12 | SK11と同層であるが、しまりがやや強く粘性大。 |
| 1 | 198M-11 | SK | 16 | ①灰黄褐色粘質土(Hue10YR4/2) | しまり強い。　粘性大。粘質土であり、橙色粒（鉄分らしきものφ3㎜～10㎜）を多く含む。 | 77 | 14 | SK11と同層であるが、しまりがやや強く粘性大。 |
| 1 | 198M-10・11 | SK | 17 | ①灰黄褐色粘質土(Hue10YR4/2) | しまり中　粘性大。粘質土であり、橙色粒(鉄分らしきものφ3㎜～10㎜)を多く含む。 | 59 | 33 | SK11と同層。 |
| 1 | 198N-10 | SK | 18 | ①灰黄褐色粘質土(Hue10YR4/2) | しまり中　粘性大。粘質土であり、橙色粒(鉄分らしきものφ3㎜～10㎜)を多く含む。炭を含む。 | 82 | 15 | SK11と同層で、炭を含む。 |
| 1 | 198N-10 | SK | 19 | ①灰黄褐色粘質土(Hue10YR4/2) | しまり強い。　粘性大。粘質土であり、橙色粒（鉄分らしきものφ3㎜～10㎜）を多く含む。 | 181 | 16 | SK11と同層であるが、しまりがやや強く粘性大。 |
| 1 | 198O-10 | SK | 20 | ①灰黄褐色粘質土(Hue10YR4/2) | しまり中　粘性大。粘質土であり、橙色粒(鉄分らしきものφ3㎜～10㎜)を多く含む。炭を含む。 | 190 | 16 | 南側削平のため幅は確認された長さ、SK11と同層で、炭を含む。 |
| 1 | 198O-10 | SK | 21 | ①灰黄褐色粘質土(Hue10YR4/2) | しまり強い。　粘性大。粘質土であり、橙色粒（鉄分らしきものφ3㎜～10㎜）を多く含む。 | 67 | 17 | SK11と同層であるが、しまりがやや強く粘性大。 |
| 1 | 198O-10 | SK | 22 | ①黒褐色土(Hue10YR3/1) | しまり強い。粘性中。橙色粒（鉄分らしきものφ3㎜）を多く含む。鉄分の混入が激しく、全体的には土色が汚い。 | 127 | 7 | |
| 1 | 198O-11 | SK | 23 | ①灰黄褐色粘質土(Hue10YR4/2) | しまり中　粘性大。粘質土であり、橙色粒(鉄分らしきものφ3㎜～10㎜)を多く含む。炭を含む。 | 90 | 10 | SK11と同層であるが、しまりがやや強く粘性大、炭を含む。 |
| 1 | 198K-10 | SK | 24 | ①灰黄褐色粘質土(Hue10YR4/2) | しまり中　粘性大。粘質土であり、橙色粒(鉄分らしきものφ3㎜～10㎜)を多く含む。 | 72 | 14 | SK11と同層。 |
| 1 | 198K-11 | SK | 25 | ①灰黄褐色粘質土(Hue10YR4/2) | しまり中　粘性大。粘質土であり、橙色粒(鉄分らしきものφ3㎜～10㎜)を多く含む。炭を含む。 | 120 | 18 | SK11と同層、炭を含む。 |
| 1 | 198J･K-10 | SK | 26 | ①灰黄褐色粘質土(Hue10YR4/2) | しまり中　粘性大。粘質土であり、橙色粒(鉄分らしきものφ3㎜～10㎜)を多く含む。 | 95 | 14 | SK11と同層。 |
| 1・2 | 198G-9～C-15 | SD | 27 | ①黒色粘質土(Hue7.5YR2/1) | しまり中　粘性大。全体に橙色の鉄分が浸透する。 | 50 | 16 | SK83＞SD27、SD28＞SD27。 |
| 1 | 198C-9～C-12 | SD | 28 | ①赤黒色粘土(Hue7.5YR2/1) | 粘性を持ち、堅くしまる。不純物は含まないが、全体に橙色の鉄分が浸透する。 | 37 | 18 | SD28＞SD27。 |
| 2 | 198C-12～C-15 | SD | 28 | ①黒色粘質土(Hue10YR2/1) | しまり中　粘性大。橙色粒（鉄分）を多く含む。 | 36 | 16 | |
| 1 | 198H-9～J-11 | SD | 29 | ①赤黒色粘土(Hue7.5YR2/1) | 粘性を持ち、大変よくしまる。不純物はほとんど含まないが、橙色の鉄分がタテに浸透している。 | 38 | 26 | SD29＞SD08。 |
| 1 | 198N-9～N-11 | SD | 30 | ①にぶい褐色粘質土(Hue7.5YR5/3)<br>②黒褐色粘質土(Hue5YR3/1) | 粘性、しまりともに強い。砂粒はほとんど含まず、橙色の鉄分が部分的に浸透している。<br>粘性、しまりともに強い。黄白色の1cm大の地山ブロックを多く含む。 | 53 | 68 | |
| 1 | 198O-9～P-12 | SD | 31 | | | 53 | | |
| 1 | 198E-10 | SK | 32 | ①黒褐色粘質土(Hue7.5YR3/1) | しまり中　粘性大。橙色粒（鉄分）を多く含む。遺物はなし。 | 191 | 142 | 長径約190の楕円形プラン、底径約100㎝。 |
| 1 | 198N-10 | SK | 33 | ①褐色粘質土(Hue7.5YR4/3)<br>②黒褐色粘質土(Hue7.5YR3/1)<br>③黒褐色粘質土(Hue10YR3/2) | しまり中　粘性大。橙色粒（鉄分）を多く含む。<br>しまり中　粘性大。<br>しまり中　粘性大。砂が混入する。 | 170 | 102 | SK32と同じタイプの構造（上部は浅くて広いが1ヶ所深く掘り下げた穴をもつ）。 |
| 1 | 198J-9・10 | SK | 34 | ①黒色粘質土(Hue10YR3/2) | しまり中　粘性大。橙色粒（鉄分と思われる）、明黄褐色（Hue10YR7/6）砂ブロック、黒色土を全体に混合しており、きたない感じの土。 | 54 | 54 | |
| 1 | 198P-11・12 | SD | 35 | | | 133 | 16 | 調査区南端に一部検出。南部は調査区外。 |
| 1 | 198J-9 | SK | 36 | ①黒色粘質土(Hue10YR3/2) | しまり中　粘性大。橙色粒（鉄分）、明黄褐色砂ブロック（φ10㎝＞）、黒色土ブロックを全体に混合。きたない感じの土。 | 88 | 58 | SK34の埋土と酷似。 |
| 1 | 198K･L-10 | SK | 37 | ①黒褐色粘質土(Hue10YR2/2)<br>②暗オリーブ褐色シルト（Hue2.5YR3/3)<br>③暗オリーブ褐色シルト（Hue2.5YR3/3) | しまり中　粘性大。黄褐色軽石（φ5㎜以下）、白い砂粒を含む。<br>粘性中　しまり中　①層の砂粒、軽石などは含まない。<br>②層に地山の暗褐色シルト（Hue10YR3/4）砂質土を多量に含む。 | 197 | 130 | 深い土坑。足がかりになるような凹み2箇所あり。短期間にうまった。浅い皿状に掘り込んだ後、その中心を直掘り。 |
| 1 | 198P-12・13 | SD | 38 | | | 71 | 10 | 調査区南東隅で一部を検出、検出部分が狭く性格は不明。 |
| 1 | 198J-10・11 | SK | 39 | | | 213 | | SD29>SK39。 |
| 1 | 198I-10 | SK | 40 | | | 211 | | |
| 1 | 198I・J-10 | SD | 41 | ①明褐色砂質土(Hue7.5YR5/8)<br>②黒褐色粘質土(Hue10YR2/2)<br>③暗オリーブ褐色シルト（Hue2.5Y3/3) | しまり中　粘性中。焼土・炭（0.5～3㎝）を含む。<br>しまり中　粘性大。橙色シルトブロック（φ0.1～1㎝）を含む。幅30～40㎝、厚さ3㎝の焼土を含む。<br>しまり中　粘性中。地山のオリーブ褐色（Hue2.5Y4/3）砂質土を大量に含む。 | 308 | 30 | |

| 調査区 | グリッド | 種別 | 番号 | 埋土色 | 註記 | 幅 | 深さ | 内容 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 198I-10 | SK | 42 | 1.にぶい褐色土(Hue7.5YR6/3)<br>2.灰オリーブ色土(Hue2.5Y6/2)<br>3.灰オリーブ色土(Hue5Y6/3)<br>4.灰オリーブ色土(Hue5Y5/2) | 青灰色の砂粒を多く含み、粘性弱いが固くしまっている。<br>粘性強くしまりあり。青灰色の砂が 5cm くらいの厚さで、層状に数枚入っている。<br>粘性弱いがよくしまっている。砂粒を少量含み、橙色の鉄分がマダラに浸透している。<br>粘性強いがしまりは余りない。橙色の鉄分がブロック状（2cm 大）にまだまっている。 | 201 | | SK39・40・42・44 切り合い、SK46 ＞ SK2 ＞ SK4、SK42・44 は同一埋土で分層できず。 |
| 1 | 183N-9 ～ P-14 | SD | 43 | 5.黒色粘土（Hue10YR1.7/1） | 粘性強く、比較的よくしまる。細かな砂粒やカーボンをわずかに含む他、まわりの地山土のブロック（5cm 大）や、橙色の鉄分をやや多く含む。 | 60 | 25 | |
| 3 | 183M-12 | SK | 43 | 1.にぶい黄褐色土(Hue10YR4/3)<br>2.灰黄褐色土(Hue10YR5/2)<br>3.灰黄褐色土(Hue10YR4/2)<br>4.灰色土(Hue7.5Y5/1) | 粘性、しまりともにあり、3 ～ 4mm 大の砂粒を含むほか、3 ～ 4cm 大の地山ブロックや土器片を多く含む。<br>粘性、しまりともに比較的強い。1 ～ 4mm 大の砂粒を多く含み、黄色の地山ブロック（3 ～ 4cm 大）を少量含む。<br>粘性を持ち、よくしまっている。微小な砂粒のほか、1 ～ 5cm 大の黄色の地山土のブロック（3-4cm 大）をかなり多く含む。<br>粘性強い。しまりは強い。5mm 大ほどの砂粒を多く含み、橙色の鉄分がマダラに浸透している。 | 60 | 23 | |
| 1 | 198H･I-10 | SK | 44 | 1.にぶい黄褐色土(Hue10YR4/3)<br>2.灰黄褐色土(Hue10YR4/2) | 粘性強くしまりあり。1 ～ 2mm 大の砂粒を含む。<br>粘性、しまりともにあり。10cm 大ほどの黄色の地山土をブロック状に多く含む。 | 205 | | SK39・40・42・44 切り合い、SK46 ＞ SK2 ＞ SK4、SK42・44 は同一埋土で分層できず。 |
| 1 | 183M-12 | SK | 45 | 1.灰黄色土(Hue2.5Y6/2)<br>2.黄色土(Hue2.5Y4/6)<br>3.にぶい黄褐色土(Hue10YR5/3) | 粘性を持ち、よくしまっている。全体にきめ細かい土で、砂粒を少量含む。<br>粘性強く比較的よくしまる。地山の黄白色土のブロック（2 ～ 3cm 大）を一定量含む。<br>よくしまっているが、粘性は弱い、黄色の地山ブロック（3cm 大）をやや多く含む。 | 141 | 23 | |
| 1 | 198I-10 | SK | 46 | 1.にぶい黄褐色土(Hue10YR5/3)<br>2.灰黄色粘土(Hue2.5Y6/2)<br>3.灰色粘土(Hue5Y6/1) | 粘性、しまりともにあり。1 ～ 2mm 大の砂粒を比較的多く含む。<br>粘性強いがしまりは弱い。3 ～ 5mm 大の砂粒をやや多く含み、また橙色の鉄分が斑点状に固結している。<br>粘性強く、しまりは弱い。1cm 大ほどの地山ブロックをやや多く含むほか、僅かに 5mm 大ほどのカーボンなどを含む。最下底には 1 ～ 2cm 大の厚さで褐色の鉄分が浸透している。 | 50 | | SK39・40・42・44 切り合い、SK46 ＞ SK2 ＞ SK4、SK42・44 は同一埋土で分層できず。 |
| 2 | 183L-10 ～ Q-16 | SD | 47 | 1.黒褐色粘土(Hue2.5YR3/1)<br>2.黒褐色土(Hue5YR4/1)<br>3.にぶい黄色土(Hue2.5Y6/3)<br>4.黒褐色土(Hue5YR4/1)<br>5.灰黄色土(Hue10YR5/2)<br>6.灰オリーブ色土(Hue5Y6/3)<br>7.灰色土(Hue5Y5/2)<br>8.灰黄色土(Hue2.5Y6/2)<br>9.灰黄色土(Hue10YR4/2)<br>10.黒褐色粘土(Hue10YR3/1) | 粘性が高く、よくしまっている。白色の地山ブロック（1 ～ 2cm 大）が下半を中心に多く含まれており、また上面には橙色の鉄分がスジ状に浸透する。<br>粘性、しまりともにあり。1mm 大ほどの砂粒を含むほか、橙色の鉄分や植疾色の粘土分がタテ方向に浸透している。<br>粘性弱く、しまりも弱い。2 ～ 3mm 大の砂粒を含むほか、褐色の土（1cm 大）がマダラに浸透している。<br>粘性、しまりともに強い。全体にほぞぼそした土で、黄色の地山土のブロック（5cm 大）を少量含む。<br>粘性強いがしまりは弱い。6 層の地山をブロック状に含む（2 ～ 3cm 大）他、粘性の強い黒色土もブロック状に含む。<br>粘性が強く、しまりは強い。3 ～ 5mm 大の砂粒を多く含む。<br>粘性、しまりともにあり。砂粒（2 ～ 3mm 大）を少量含むほか、褐色の鉄分のスジがタテ方向に浸透している。<br>粘性を持ち、よくしまっている。砂粒などをほとんど含まないが、褐色の鉄分がタテ方向に浸透している。<br>粘性を持ち、土の 1/4 ほどは褐色がよくしまっているが、下の方はしまりが弱い。1 ～ 2mm 大の砂粒を含む。 | 429<br>470<br>123 | 34<br>24<br>26 | D47 ＞ SD43。<br>底面は凹凸が激しい。自然流路である。 |
| 2 | 198J-14 | SK | 49 | 1.灰黄褐色粘質土(Hue10YR4/2) | しまり中　粘性大。橙色粘（鉄分らしきもの）を含む。また、炭を含む。 | 82 | 42 | 1 区南側土坑群と同一埋土。 |
| 2 | 183R-13 | SK | 50 | 1.褐灰色粘土(Hue5YR4/1) | 1 区南側で 13 b 期において検出された土坑群と埋土はほぼ同じである。 | 134 | 13 | |
| 2 | 183R-14 | SK | 51 | 1.褐灰色土(Hue5YR4/1) | SK50 の埋土に近いが 1 m 大の砂粒を多く含む。 | 64 | 25 | |
| 2 | 183O-15 | SK | 52 | 1.褐灰色土(Hue5Y4/1) | 粘性強く、しまりあり、砂粒はほとんど含まないが、鉄分がスジ状に振入する。 | 62 | 25 | |
| 2 | | SP | 53 | | | | | |
| 2 | 183O-14 | SK | 54 | 1.褐灰色土(Hue7.5YR2/1) | 粘性もつがしまりは弱い。細かい砂粒を含み、タテ方向に橙色の鉄分が浸透する。黄色の地山ブロック（1cm 大）を少量含む。 | 65 | 18 | |
| 2 | 183O-14 | SK | 55 | 1.褐灰色土(Hue10YR4/1) | 粘性強くしまりあり。橙色の鉄分が部分的に浸透する。 | 73 | 14 | |
| 2 | 183Q-14 | SK | 56 | 1.褐灰色粘土(Hue5YR4/1) | 粘性強くしまりあり。砂粒をやや多く含み、橙色の鉄分が僅かに浸透する。 | 114 | 10 | |
| 2 | 183N-13 | SK | 57 | 1.黒褐色粘土(Hue10YR3/1) | 粘性強く比較的よくしまる。橙色の鉄分がスジ状に浸透する。砂粒などはほとんど含まない。 | 67 | 11 | |
| 2 | 198I-15 | SK | 58 | 1.褐灰色粘質土(Hue7.5YR4/1) | しまり中　粘性大。橙色粘（鉄分のような感じ、φ 10mm ＞）を多く含む。 | 65 | 17 | |
| 2 | 183Q-15 | SK | 59 | | 粘性強くしまりあり。全体にタテ方向の鉄分が浸透しており、砂粒は ほとんど含まない。ただし下半では砂がかなり含まれる。 | 74 | 24 | |
| 2 | 198G-15 | SK | 60 | 1.褐灰色粘質土(Hue7.5YR4/1) | しまり中　粘性大。橙色粘（鉄分のような感じ、φ 10mm ＞）を多く含む。炭を含む。 | 73 | 9 | |
| 2 | 198H-15 | SK | 61 | 1.黄灰色粘質土(Hue2.5Y4/1) | しまり中　粘性大。橙色粘（鉄分のような感じ、φ 10mm ＞）を多く含む。 | 60 | 8 | |
| 2 | 198G-13 | SK | 62 | 1.褐灰色粘質土(Hue7.5YR4/1) | しまり中　粘性大。橙色粘（鉄分のような感じ、φ 10mm ＞）を多く含む。炭を含む。 | 74 | 28 | |
| 2 | 198H-13 | SK | 63 | 1.褐灰色粘質土(Hue7.5YR4/1) | しまり中　粘性大。橙色粘（鉄分のような感じ、φ 10mm ＞）を多く含む。炭を含む。 | 78 | 16 | SK58 と同一で、炭を含む |
| 2 | 198G-13 | SK | 64 | 1.褐灰色粘質土(Hue7.5YR4/1) | しまり中　粘性大。橙色粘（鉄分のような感じ、φ 10mm ＞）を多く含む。 | 78 | 22 | SK58 と同一 |
| 2 | 198F-13 | SK | 65 | 1.褐灰色粘質土(Hue7.5YR4/1) | しまり中　粘性大。橙色粘（鉄分のような感じ、φ 10mm ＞）を多く含む。 | 68 | 18 | |
| 2 | 198G-13 | SK | 66 | 1.褐灰色粘質土(Hue7.5YR4/2) | しまり中　粘性大。橙色粘（鉄分のような感じのもの、φ 10mm ＞）を多く含む。炭を含む。 | 102 | 26 | |
| 2 | 198G-13 | SK | 67 | 1.褐灰色粘質土(Hue7.5YR4/1) | しまり中　粘性大。橙色粘（鉄分のような感じ、φ 10mm ＞）を多く含む。 | 210 | 15 | SK58 と同一 |

| 調査区 | グリッド | 種別 | 番号 | 埋土土色 | 記記 | 幅 | 深さ | 内容 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 2 | 198H-15 | SK | 68 | ①褐灰色粘質土（Hue7.5YR4/1） | しまり中　粘性大。橙色粒（鉄分のような感じ。φ 10mm＞）を多く含む。炭を含む。 | 50 | 8 | SK58 と同一で、炭を含む |
| 2 | 198G-15 | SK | 69 | ①黒色粘質土（Hue7.5YR2/1）<br>②褐灰色粘質土（Hue7.5YR4/1） | しまり中　粘性大。橙色粒（鉄分のような感じ。φ 10mm＞）を多く含む。炭を含む。 | 61 | 50 | |
| 2 | 198F-15 | SK | 70 | ①褐灰色粘質土（Hue7.5YR4/1） | しまり中　粘性大。橙色粒（鉄分のような感じ。φ 10mm＞）を多く含む。炭を含む。 | 85 | 25 | |
| 2 | 198F-14 | SK | 71 | ①褐灰色粘質土（Hue7.5YR4/1） | しまり中　粘性大。橙色粒（鉄分のような感じ。φ 10mm＞）を多く含む。 | 207 | 26 | SK58 と同一 |
| 2 | 183R-14 | SK | 72 | | 上層は粘性を持ち、早くしまった土。鉄分はほとんど浸透しておらず、下半ではかなり浸透あり。砂利が多くなる。 | 64 | 16 | |
| 2 | 183P-14 | SK | 73 | | 粘性はないが早くしまっている。比較的暗い砂で、間に橙色に鉄分が浸透している。 | 76 | 20 | |
| 2 | 198H-13 | SK | 74 | ①褐灰色粘質土（Hue7.5YR4/1） | | 57 | 11 | SK58 と同一で、締まりがやや強い |
| 2 | 198D-E 13 | SK | 75 | ①褐灰色粘質土（Hue7.5YR4/1） | | 53 | 9 | |
| 2 | 198E-13 | SK | 76 | ①褐灰色粘質土（Hue7.5YR4/1） | しまり中　粘性大。橙色粒（鉄分のような感じ。φ 10mm＞）を多く含む。 | 163 | 20 | SK58 と同一 |
| 2 | 198D-15 | SK | 77 | ①褐灰色粘質土（Hue7.5YR4/1） | しまり中　粘性大。橙色粒（鉄分）を多く含む。炭を含む。 | 79 | 23 | |
| 2 | 198D-15 | SK | 78 | ①褐灰色粘質土（Hue7.5YR4/1） | しまり中　粘性大。橙色粒（鉄分）を多く含む。木炭（2 cm大）を多く含むの特徴。 | 50 | 15 | |
| 2 | 183N-15 | SK | 79 | | 粘性強く、比較的しまりあり。下層3センチ程度は砂を含むが、上半はほとんど含まない。全体に橙色の鉄分が浸透している。 | 58 | 12 | |
| 2 | 198C-13 | SK | 80 | ①黒色粘質土（Hue7.5YR2/1） | しまり中　粘性大。橙色（鉄）分　含む | 54 | 24 | |
| 2 | 198D-14 | SK | 81 | ①褐灰色粘質土（Hue7.5YR4/1） | しまり中（ＳＫ８１だけやや強）。粘性大。橙色粒（鉄分）を多く含む。炭を含む。 | 70 | 8 | SK81～83の埋土は同一 |
| 2 | 198D-E 13 | SK | 82 | ①褐灰色粘質土（Hue7.5YR4/1） | しまり中（ＳＫ８１だけやや強）。粘性大。橙色粒（鉄分）を多く含む。炭を含む。 | 116 | 11 | SK81～83の埋土は同一 |
| 2 | 198D-13 | SK | 83 | ①褐灰色粘質土（Hue7.5YR4/1） | しまり中（ＳＫ８１だけやや強）。粘性大。橙色粒（鉄分）を多く含む。炭を含む。 | 131 | 10 | SK81～83の埋土は同一 |
| 2 | 198D-E 15 | SK | 84 | ①褐灰色粘質土（Hue7.5YR4/1） | | 32 | 3 | 底面凸凹、自然流路？ |
| 2 | 183T-15 | SK | 85 | ①黒褐色粘質土（Hue10YR3/1） | しまり中　粘性大。橙色粒（鉄分）を含む。 | 320 | 40 | |
| 2 | 183N-13・14 | SK | 86 | | 粘性、しまりともにあるが、特に強く固くもない。橙色の地山ブロック（1cm）大と鉄分がタテ方向に浸透する。砂利をやや多く含む。 | 220 | 18 | SD47との切り合い表現。平面が不定形、底面凹凸激しい。模様?、SK47＞SK86・93。本来は一遺構か |
| 2 | 183N-O 14 | SK | 87 | ①褐灰色粘質土（Hue10YR4/1） | 粘性強く、比較的しまりあり。上半は砂粒をほとんど含まないが、大半は砂粒を多く含む。橙色の鉄分がタテに浸透している。 | 64 | 12 | |
| 2 | 198A-15 | SK | 88 | ①褐灰色粘質土（Hue7.5YR4/1） | しまり中　粘性大。橙色粒（鉄分）含む。 | 59 | 13 | SK88～92の埋土は同一 |
| 2 | 183T-15 | SK | 89 | ①黒褐色粘質土（Hue7.5YR3/1） | しまり中　粘性大。橙色粒（鉄分）を含む。 | 84 | 14 | SK88～92の埋土は同一 |
| 2 | 183T-14 | SK | 90 | ①褐灰色粘質土（Hue7.5YR4/1） | しまり中　粘性大。橙色粒（鉄分）含む。 | 100 | 14 | SK88～92の埋土は同一 |
| 2 | 183S-15 | SK | 91 | ①褐灰色粘質土（Hue7.5YR4/1） | しまり中　粘性大。橙色粒（鉄分）含む。 | 70 | 23 | SK88～92の埋土は同一 |
| 2 | 183R-15 | SK | 92 | ①褐灰色粘質土（Hue7.5YR4/1） | しまり中　粘性大。橙色粒（鉄分）含む。 | 100 | 25 | SK88～92の埋土は同一 |
| 2 | 183O-P.13 | SK | 93 | ①黒褐色粘土（Hue7.5YR3/1）<br>②明灰黄色砂（Hue2.5Y4/2） | | 235 | 10 | SD43・93・47の切り合い表現。平面が不定形、底面凹凸激しい。模様?、SK47＞SK86・93。本来は一遺構か |
| 2 | 198B-11～B-13 | SD | 94 | ①黒褐色粘質土（Hue2.5YR3/2） | | 58 | 5 | SD75の続きの可能性あり |
| 3 | 213C-14 | SI | 95 | ①黒褐色シルト（Hue10YR3/2）<br>②黒褐色シルト（Hue10YR3/2）<br>③明黄褐色細砂（Hue10YR6/6） | しまり中　粘性中。黒色シルト、明黄褐色細砂のブロックが若干混じる。<br>しまり中　粘性中。明黄褐色細砂のブロックが1層より多く混じる。<br>しまり中　粘性小。黒褐色シルトにブロックが混じる | | | 本文参照 |
| 3 | 213A-14 | SI | 96 | ①暗褐色シルト（Hue10YR3/3） | しまり中　粘性中。黄褐色（φ 0.2～2cm）とにぶい黄褐色のローム ブロック（φ 0.8cm）を含む。 | | | 本文参照 |
| 3 | 213D-12 | SK | 97 | | | 175 | 46 | 本文参照・白磁の四耳壺 |
| 3 | 213D-11 | SD | 98 | ①褐灰色土（Hue10YR4/1）<br>②黒色土（Hue7.5Y2/1） | 粘性、しまりともに弱い。黄色の地山ブロック（1cm大）がまばらに混入するほか、部分的に緑灰色の粘土が混濁している。<br>粘性、しまりともに弱い。2～3cm大の黄色の地山ブロックがまばらに混入している。 | | | 本文参照 |
| 3 | 213C-12 | SE | 99 | ①黒褐色シルト（Hue5YR3/1）<br>②黒色土シルト（Hue7.5YR3/1） | しまり弱　粘性大。<br>しまり弱　粘性大。地山ブロックを多く含む。 | | | 本文参照・井戸底から完形土器群出土 |
| 3 | 213A-12 | SI | 100 | ①暗褐色シルト | しまり中　粘性中。褐色シルトブロック（φ 1～5cm）、黄褐色砂質土ブロック（φ 1～3cm）混じる。 | | | SI100＞SI105。本文参照 |
| 3 | 213A-B 11 | SI | 101 | ①黒褐色土（Hue10YR3/1） | 粘性を持ち、比較的よくしまる。11層の地山土のブロック（5cm大）や、灰色の粘土の塊（3～5cm大）をまばらに含む。 | | | SD102＞SD103＞SI101 |
| 3 | 213A-B 11 | SD | 102 | | | 90 | 30 | SD102＞SD103＞SI101 |
| 3 | 213B-11～A 12 | SD | 103 | | | 61 | 25 | SD102＞SD103＞SI101 |
| 3 | 213D-E 11・12 | SI | 104 | ①黒色土（Hue5Y2/1）<br>②褐灰色土（Hue7.5YR4/1） | 粘性、しまりともにあり、黄色の地山ブロックを少量含む。<br>粘性、しまりともに弱い、黄色の地山ブロック（2～4cm大）を少量含む。 | 247 | 33 | |
| 3 | 213B-12 | SI | 105 | ①黒褐色シルト | しまり中　粘性中。褐色シルトブロック（φ 1～5cm）、黄褐色砂質土ブロック（φ 1～3cm）混じる。 | | | 本文参照 |
| 3 | 198T-13～213B-13 | SD | 106 | | | 260 | 37 | |

3　4区

（1）概要

4区は、調査時は「4区」と「4区拡張部」に分けていたが、本報告では両調査区をあわせて「4区」として報告する。

4区は213G-14グリッドから228C-16グリッドにかけて設定された。その平面形は南北に全長78m、東西に最大幅16mを測る所謂「鍵」形を呈し、発掘調査面積は943㎡である。

本調査区からは、多数の竪穴建物や掘立柱建物、溝などを検出した。竪穴建物の集中は調査区の中央から北側に認められる。検出された竪穴建物は弥生時代後期の所産である。

（2）遺構各説

a　溝（SD）

SD57（Fig.16）

228A-18～228B-17グリッドで検出した。北東-南西方向に走行し、南西方向は調査区内で収束するが、北東側は調査区外へ延びる。したがって、その規模は不明である。検出長は12.3m、幅は263㎝、検出面からの深度は16㎝を測り、その基底は平坦である。遺構の主軸はN-48°-Eを測る。

竪穴建物SI68・78に後出し、その中央部を大きく削平する。遺構内からは弥生時代後期の遺物が出土し、甕（13・14）（Fig.76）2点を図示した。

b　竪穴建物（SI）

SI54（Fig.17）

213T-18グリッドで検出した。遺構の西隅は後出する溝SD50によって削平されており、西側中央部は近代の撹乱坑によって大きく削平されている。また、竪穴建物SI76を大きく削平する。平面形は長辺4.6m、短辺4.3mの方形を呈する。壁面はほぼ垂直に立ちあがり、検出面から床面までの深度は13㎝を測り、遺構の北側の一部で6㎝下方に掘形を確認した。遺構の主軸はN-15°-Wを測る。遺構埋土は都合5層に分層でき、床面までに4層が堆積している。5層の堆積域は遺構北側に限られている。

遺構内の4隅からは、4基の柱穴（P1～P4）を検出した。P1は直径59㎝の円形を呈し、床面からの深度は12㎝を測る。P2は直径55㎝の円形を呈し、床面からの深度は12㎝を測る。P3は直径25㎝の円形を呈し、床面からの深度は10㎝を測る。P4は直径38㎝の円形を呈し、床面からの深度は11㎝を測る。これらP1～P4のそれぞれの芯心距離は、P1-P2は290㎝、P1-P3は306㎝、P2-P4は284㎝、P3-P4は290㎝を測る。

弥生時代後期の遺物が出土しており、甕（18）および鉢3点（15～17）（Fig.76）を図示した。

SI102（Fig.18）

213R-18グリッドで検出した。遺構の北東側は調査区外へ延びる。遺構の規模は不明確であるが、平面形は長辺3.6m、短辺3.0mの長方形を呈すると推測される。壁面はほぼ垂直に立ちあがる。検出面から床面までの深度は20㎝を測り、床面から5～10㎝下方に掘形を一部確認した。遺構の主軸はN-50°-Eを測る。遺構埋土は都合6層に分層でき、床面までに5層が堆積している。

遺構の南西側からは、ベッド状遺構（B1）を検出した。B1の南西端は壁面と接しており、その上面は長辺214㎝、短辺166㎝、幅66㎝の台形を呈し、床面と比較して7㎝高く構築されている。土坑は2基（K1・K2）を検出した。K1は遺構の中央で検出した。その平面形は、長軸100㎝、短軸71㎝の長楕円形を呈し、床面からの深度は8㎝を測る。その基底は平坦面を形成する。埋土は炭化物を多く含み、焼土をわずかに含むことから、炉跡と推測する。また、K2は遺構の東側中央で検出した。K2の端部はSI102の壁面に接しており、北東側は調査区外へ延びる。その平面形は長楕円形を呈する。南側に長軸69㎝の平坦な基底を形成し、床面からの深度は14㎝を測る。基底北側の10㎝上方には、基底に向かって緩やかに傾斜した幅42㎝の段を有する。埋土には炭化物をわずかに含む。

弥生時代後期の遺物が出土しており、床面の出土状況及び甕2点（19・20）（Fig.77）を図示した。

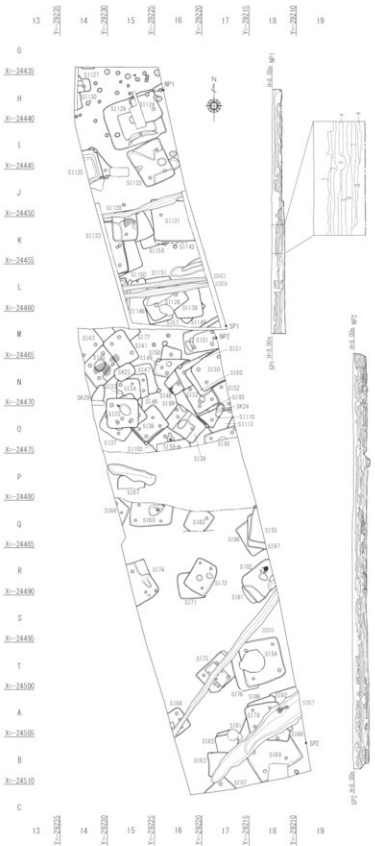



Fig.16　二本木遺跡群（田崎地区）4区遺構配置図

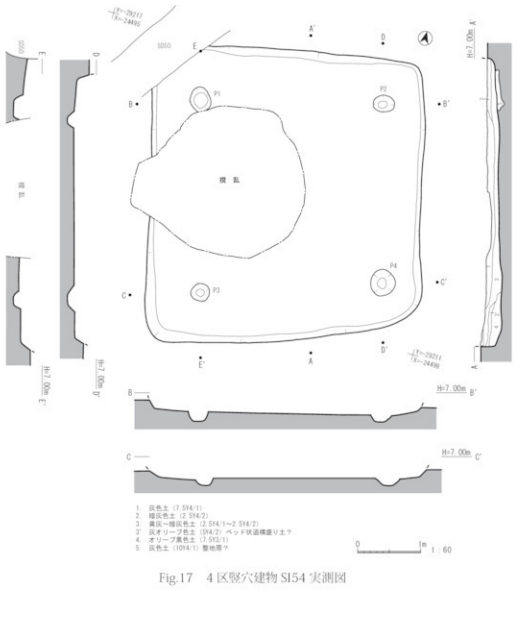



Fig.17　4区竪穴建物SI54実測図

SI71（Fig.19）

213R-16グリッドで検出した。竪穴建物SI72と重複関係にある。遺構の西側から大半は、後出する竪穴建物SI72によって削平されている。しかし、その平面形は残存状況から長辺2.8 m、短辺2.7 mの方形を呈することが推測される。壁面はほぼ垂直に立ちあがり、検出面から床面までの深度は16㎝を測る。遺構の主軸はN-5°-Wを測り、後出するSI72と比較すると、主軸方向は明らかに異なる。遺構埋土は3層に分層できた。

遺構内からは土坑や柱穴などは確認できなかったが、弥生時代後期の遺物が出土しており、甕（35）や鉢（32～34）（Fig.80）を図示した。

SI72（Fig.19）

213R-16・17グリッドで検出した。竪穴建物SI71と重複関係にあり、SI71より後出する。平面形は長辺3.5 m、短辺2.7 mの長方形を呈する。壁面はほぼ垂直に立ちあがり、検出面から床面までの深度は15㎝を測る。遺構の主軸はN-30°-Eを測る。

土坑は2基（K1・K2）を検出した。K1は遺構の中央で検出した。その平面形は長軸67㎝、短軸63㎝の長楕円形を呈し、床面からの深度は4㎝を測る。焼土や炭、炭化物を多く含み、基底は平坦面を形成することから炉跡と推測する。K2は遺構中央東側で検出した。その平面形は長軸76㎝、短軸57㎝の長楕円形を呈し、

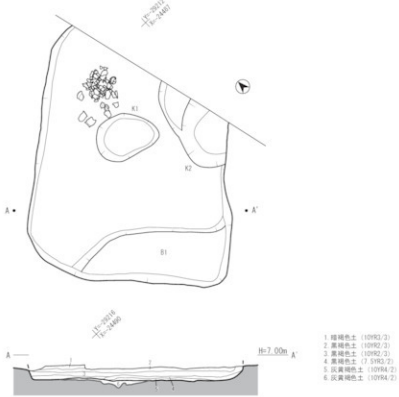



Fig.18　4区竪穴建物 SI102 実測図

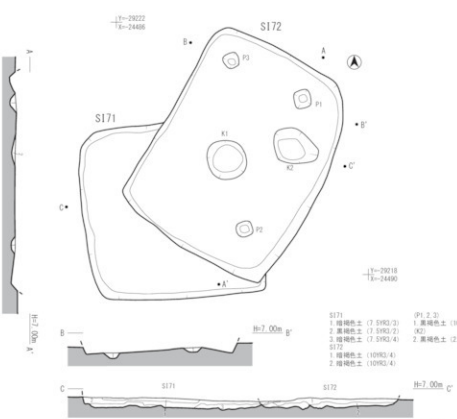



Fig.19　4区竪穴建物 SI71・SI72 実測図

床面からの深度は８㎝を測る。その基底は平坦面を形成する。柱穴は３基（P1 ～ P3）を検出した。P1 は遺構北東側で検出した。直径 30㎝の円形を呈し、床面からの深度は６㎝を測る。P2 は遺構南東側で検出した。直径 27㎝の円形を呈し、床面からの深度は５㎝を測る。P3 は遺構北西側で検出した。直径 28㎝の円形を呈し、床面からの深度は９㎝を測る。検出した柱穴の P1・P2 の芯心距離は 227㎝、P1・P3 の芯心距離は 128㎝を測る。

弥生時代後期の遺物が出土しており、壺（37）、高杯（36）（Fig.80）を図示した。

SI68（Fig.20）

228B-18 グリッドで検出した。遺構の北側は後出する溝 SD57 によって大きく削平されており、南側中央部は近代の攪乱坑によって削平されている。したがって、遺構の平面形・規模は不明確であるが、検出東西辺 5.2 m、検出南北辺 3.5 mを測る。壁面はほぼ垂直に立ちあがり、検出面から床面までの深度は 32㎝を測る。遺構の主軸は N-57° -E を測る。

柱穴は４基（P1 ～ P4）を検出した。P1 は遺構西側北端で検出した。直径 29㎝の円形を呈し、床面からの深度は 15㎝を測る。P2 は遺構東側北端で検出した。直径 29㎝の円形を呈し、床面からの深度は 13㎝を測る。P3 は遺構南西で検出した。直径 29㎝の円形を呈し、床面からの深度は 9㎝を測る。P 4 は遺構南東で検出した。直径 27㎝の円形を呈し、床面からの深度は６㎝を測る。検出した柱穴の内、P3・P4 の芯心距離は 264㎝を測る。

弥生時代後期の遺物が出土しており、甕（22）、壺（21）（Fig.78）を図示した。

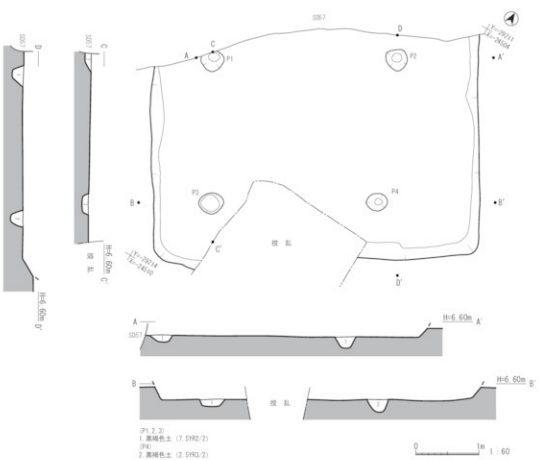



Fig.20　4 区竪穴建物 SI68 実測図

SI129（Fig.21）

213H・I-15 グリッドで検出した。平面形は長辺 5.8 m、短辺 4.8 mの長方形を呈する。壁面はほぼ垂直に立ちあがり、検出面から床面までの深度は 44㎝を測る。遺構の主軸は N-73° -E を測る。

遺構の南側を除く壁 3/4 周にわたって、ベッド状遺構（B1）を検出した。B1 は遺構壁面に接しており、その上面は幅 136㎝の「コの字」状を呈し、床面と比較して 7 ㎝高く構築されている。B1 が途切れる遺構南側では溝（D1）を検出した。D1 は長さ 3.2 m、幅 50㎝を測り、遺構北側を頂点とした緩やかな弧状を呈する。床面からの深度は 3 ㎝と浅い。土坑は 2 基（K1・K2 ）を検出した。K1 は遺構中央で検出し、東側は試掘トレンチによって削平される。したがって、平面形・規模は不明確であるが、検出長軸 78㎝の円形を呈すると推測され、床面からの深度は 38㎝である。K1 の上面には、層厚 2 ㎝の炭化物が確認されており、炉跡と推測する。K2 は遺構北側中央の B1 上で検出した。その東側は試掘トレンチによって削平される。したがって、平面形・規模は不明確であるが、検出長軸 78㎝の円形を呈すると推測され、床面からの深度は 4 ㎝である。その北側には長軸 37㎝の堀込が認められ、その深度は 5 ㎝を測る。柱穴は 1 基（P1）を検出した。P1 は遺構南側で検出した D1 基底部で検出した。その平面形は長軸 33㎝の円形を呈し、D1 基底からの深度は 17㎝を測る。遺構の南側で検出した D1・P1 は、遺構の出入り口に関連することが推測される。

D1 上では鉢（26）が出土しており、出土状況と共に図示した。あわせて、甕（29 ～ 31）、壺（28）、鉢（24・25・27）（Fig.79）も図示した。

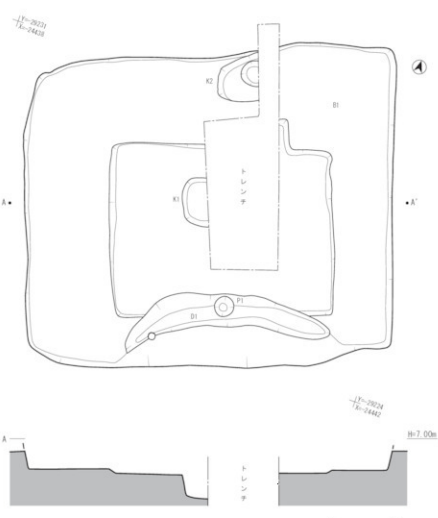



Fig.21　4 区竪穴建物 SI129 実測図

SI60（Fig.22）

213-Q15・16 グリッドで検出した。遺構の北側は後出する溝 SD44 によって大きく削平されている。したがって、遺構の規模・平面形は不明確であるが、検出東西辺 4.4 m、検出南北辺 2.5 mを測る。壁面はほぼ垂直に立ちあがり、検出面から床面までの深度は 30cmを測り、その下方 5 cmに掘形を確認した。遺構の主軸は N-90° -W を測る。遺構埋土は都合 5 層に分層でき、床面までに 4 層が堆積している。

本遺構では、土坑 1 基（K1）を検出した。K1 は遺構検出範囲の北側で検出した。その平面形は長軸 183cm、短軸 112cmの長楕円形を呈すると推測され、床面からの深度は 15cmを測る。K1 の基底は長軸 108cm、短軸 83cmの楕円形を呈し、基底は緩やかに北東側へ上がる。K1 の基底からは甕（22）が据えられた状態で出土し、北側では壺の口縁部（23）が出土した。柱穴は 3 基（P1 ～ P3）を検出した。P1 は遺構西側北端で検出した。直径 33cmの円形を呈し、床面からの深度は 11cmを測る。P2 は遺構南西隅で検出した。直径 31cmの円形を呈し、床面からの深度は 11cmを測る。P3 は遺構南東隅で検出した。直径 30cmの円形を呈し、床面からの深度は 13cmを測る。検出した柱穴の内、P2・3 の芯心距離は 268cmを測る。

弥生時代後期の遺物が出土しており、甕（42）、壺（43）、鉢（41）（Fig.81）を図示した。

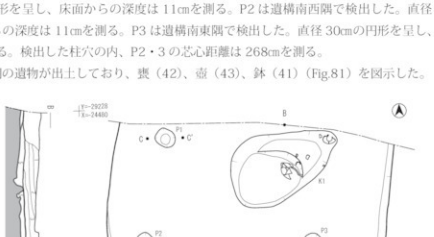



Fig.22　4 区竪穴建物 SI60 実測図

SI126（Fig.23）

213L-15・16 グリッドで検出した。遺構の北側一部および南側中央は、後出する溝 SD59・63 や土坑によって削平される。平面形は長軸 4.4 m、短軸 2.7 mを測る長方形を呈する。壁面はほぼ垂直に立ちあがり、検出面から床面までの深度は 15cmを測る。長軸から推測される遺構の主軸は N-56° -E を測る。

本遺構では、柱穴 2 基（P1・P2）を検出した。P1 は遺構西側中央で検出した。その平面形は長軸 44cmの円形を呈し、床面からの深度は 22cmを測る。P2 は遺構東側中央で検出した。その平面形は長軸 45cmの円形を呈し、床面からの深度は 14cmを測る。P1・P2 の芯心距離は 234cmを測る。

弥生時代後期の遺物が出土しており、壺（40）、高杯（39）、鉢（38）（Fig.80）を図示した。

SI123（Fig.23）

213I-15・16 グリッドで検出した。平面形は長辺 4.4 m、短辺 3.8 mの長方形を呈する。壁面はほぼ垂直に立ちあがり、検出面から床面までの深度は 10cmを測る。遺構の主軸は、N-27° -W を測る。

遺構の南北からは、ベッド状遺構（B1・B2）を検出した。B1 は遺構北端壁面に接しており、その上面は検出最大長辺 340cm、検出最大幅 195cmの不定形な「山」形を呈し、床面と比較して 4 cm高く構築されている。

B2 は遺構南端壁面に接しており、その上面は長辺 227㎝、短辺 196㎝、幅 80㎝の長方形を呈し、床面と比較して 5㎝高く構築されている。土坑は 2 基（K1・K2）を検出した。K1 は遺構の中央部で検出した。平面形は長軸 89㎝、短軸 78㎝を測る楕円形を呈し、床面からの深度は 5㎝を測る。K1 には炭や炭化物、焼土が集積しており、基底は平坦面を形成することから、炉跡と推測する。K2 は遺構の西側中央の床面直下より検出した。K2 の西端は遺構西側の壁面に接しており、平面形は長軸 55㎝長楕円形を呈し、検出面からの深度は 20㎝を測る。柱穴は 3 基（P1 ～ P3）を検出した。P1 は遺構北東側の B1 上で検出した。その平面形は直径 28㎝の円形を呈し、B1 上面からの深度は 11㎝を測る。P2 は遺構南東側の B2 上で検出した。その平面形は直径 36㎝の円形を呈し、B1 上面からの深度は 36㎝を測る。P3 は遺構南西側で検出した。その平面形は長軸 37㎝の長楕円形を呈し、床面からの深度は 6㎝を測る。その内、K1 を挟んで検出した P1・P2 の芯心距離は 242㎝、P2・P3 の芯心距離は 171㎝を測る。

弥生時代後期の遺物が出土しており、甕（23）（Fig.78）を図示した。

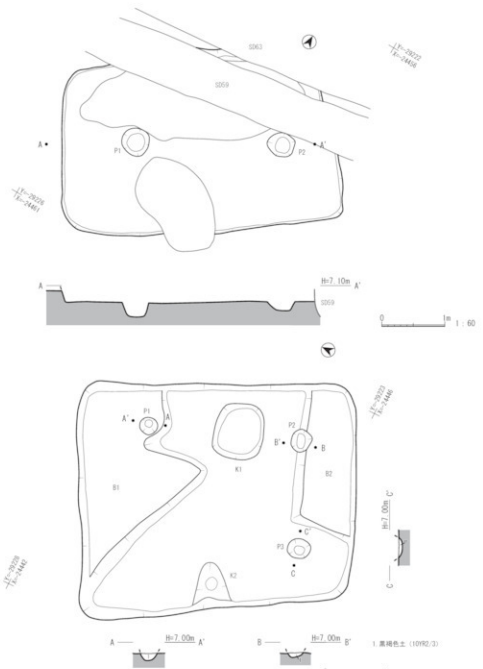



Fig.23　4 区竪穴建物 SI126（上）・SI123（下）実測図

SI34（Fig.24）

213N-15 グリッドで検出した。遺構の北端および南側は、後出する土坑 SK23 や竪穴建物 SI33・35 によって削平されている。したがって、遺構の長辺は不明確であるが、平面形は短辺 2.5 mの長方形を呈すると推測される。壁面はほぼ垂直に立ちあがり、検出面から床面までの深度は 6 ㎝を測る。遺構の主軸は N-3° -W であり、正方位とほぼ等しい。

土坑は 1 基(K1)を検出した。K1 は遺構西側中央で検出した。竪穴建物 SI33・35 による削平のために全体の形状および規模は不明確であるが、平面形は検出長軸 90㎝の長楕円形を呈すると推測され、床面からの深度は 6 ㎝を測る。その基底は平坦面を形成する。柱穴は遺構北側に 2 基（P1 ～ P2）を検出した。P1 は直径 35㎝の円形を呈し、床面からの深度は 10㎝を測る。P2 は直径 25㎝の円形を呈し、床面からの深度は 8 ㎝を測る。P1・P2 の芯心距離は 125㎝を測る。

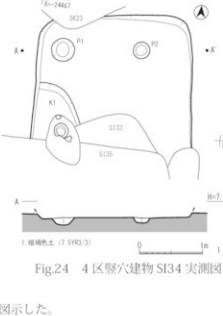


Fig.24　4 区竪穴建物 SI34 実測図

弥生時代後期の遺物が出土しており、鉢（45）（Fig.81）を図示した。

SI39（Fig.25）

213O-16 グリッドで検出した。遺構の西隅は、後出する竪穴建物 SI36 によって削平されている。平面形は長辺 3.7 m、短辺 2.7 mの長方形を呈する。壁面はほぼ垂直に立ちあがり、検出面から床面までの深度は 15㎝を測る。遺構の主軸は、N-53° -W を測る。

遺構の北側と南側からは、ベッド状遺構を検出した。北側のベッド状遺構（B1）の北端は壁面と接しており、その上面は東西辺 255㎝、南北辺 109㎝の長方形を呈し、床面と比較して 4㎝高く構築されている。南側のベッド状遺構（B2）は遺構東側中央部から南側の壁面に接している。その上面は東西長 233㎝、最大幅 203㎝、最少幅 79㎝の「鍵」形を呈し、張出部の東西長は 85㎝を測る。床面と比較して 7 ㎝高く構築されている。土坑は 2 基（K1・K2）を検出した。K1 は遺構の中央で検出した。その平面形は長軸 120㎝、短軸 67㎝の長楕円形を呈し、床面からの深度は 15㎝を測る。K1 の周囲には炭や炭化物、焼土が集積しており、基底は平坦面を形成することから炉跡と推測する。K2 は遺構の東側北端で検出した。平面形は長軸 96㎝、短軸 35㎝の長楕円形を呈する。壁面に接して B1 上から掘り込まれており、その深度は 11㎝を測り、基底は平坦面を形成する。柱穴は北側 B1 上に 2 基（P1・P3）、南側床面上に 1 基（P2）を検出した。P1 は直径 35㎝の円形を呈し、B1 上面からの深度は 30㎝を測る。P2 は直径 25㎝の円形を呈し、床面からの深度は 21㎝を測る。P3 は直径 32㎝の円形を呈し、B1 上面からの深度は 14㎝を測る。その内、K2 を挟んで検出した P1・P2 の芯心距離は 198㎝を測る。

弥生時代後期の遺物が出土しており、鉢（44）（Fig.81）を図示した。

SI83（Fig.26）

228B-17 グリッドで検出した。遺構の東側から南側は後出する溝 SD57 によって削平される。したがって、平面形・規模は不明確であるが、南北辺 2.5 m、検出東西辺 2.1 mを測り、長方形を呈すると推測される。壁面はなだらかに立ちあがり、検出面から床面までの深度は 11㎝を測る。検出南北辺から推測される遺構の主軸は N-0° -W を測り、正方位と等しい。

本遺構では、ベッド状遺構や炉跡・土坑・柱穴などは検出できなかった。本遺構の北西隅では、小形仿製鏡が出土した。鏡は鏡面を下方に向けた状態で床面の上方 5㎝で出土した。鏡の背面には赤色顔料が付着しているが、鏡の周囲からは赤色顔料の広がりや特記すべき掘り込みは検出できなかった。共伴遺物は認められず、ここでは小形仿製鏡（105）（Fig.98）を図示した。

SI80（Fig.103）

213N-16 グリッドで検出した。重複する SI48 に後出し、遺構の東側は調査区外へ延びる。平面形は長軸 4.0 m、短軸 3.4 mの長方形を呈する。壁面はほぼ垂直に立ちあがり、検出面から床面までの深度は 30㎝を測る。遺構の主軸は、N-54° -E を測る。

柱穴は 4 基（P1 ～ P4）を検出した。P1 は直径 28㎝の円形を呈し、床面からの深度は 10㎝を測る。P2 は直径 35㎝の円形を呈し、床面からの深度は 11㎝を測る。P3 は直径 36㎝の円形を呈し、床面からの深度は 13㎝を測る。P4 は直径 30㎝の円形を呈し、床面からの深度は 9㎝を測る。検出した柱穴の内、P1・P2 の芯心距離は 244㎝、P1・P3 の芯心距離は 176㎝、P3・P4 の芯心距離は 213㎝、P2・P4 の芯心距離は 234㎝を測る。

本遺構からは、ニホンジカの骨で作成された骨鏃（112）が出土している。この遺物については、丸山真史氏（奈良文化財研究所　環境考古学研究室）によって詳細な分析がなされている。その分析結果については「第 4 章　自然科学分析」に収録している。

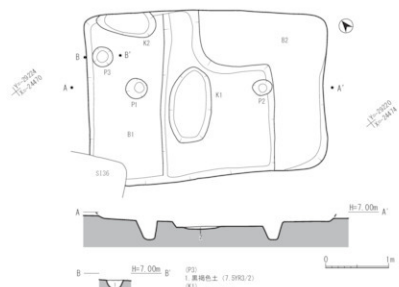



Fig.25　4 区竪穴建物 SI39 実測図

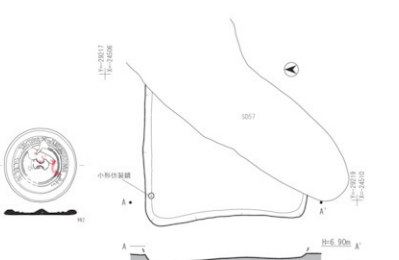



Fig.26　4 区竪穴建物 SI83 実測図

4　5・6区

（1）概要

5・6区は連続した調査区である。よって、本書では両調査区をあわせて報告する。5・6区は、228B-19グリッド～229T-1グリッドにかけて設定された、南北に全長87ｍ、東西に最大幅11ｍを測り、その発掘調査面積は769㎡である。

発掘調査は主に3つの遺構検出面（第1面～第3面）を基に行った。第1面～第3面はそれぞれ、基本層序の「4-1層下面」、「4-2層下面」、「5-1層下面」に該当する。各遺構検出面からは竪穴建物を中心に多くの遺構が検出された。特に、第3面は遺構密度が最も高く、調査区中央から南側で竪穴建物の集中が顕著である。検出された竪穴建物は弥生時代後期の所産である。

（2）遺構各説

2-1　第1面（Fig.27）

a　竪穴建物（SI）

SI25（Fig.28）

228J・K-19・20グリッドで検出した。重複する竪穴建物SI26・27より後出する。遺構の東側は調査区外へ延びる。したがって、平面形・規模は不明確であるが、南北辺5.2ｍ、検出東西辺4.9ｍを測る。壁面はほぼ垂直に立ちあがり、検出面から床面までの深度は、13㎝を測る。検出南北辺から推測される遺構の主軸は、N-14°-Wを測る。

柱穴は9基（P1～P9）を検出した。各柱穴の長軸は25～34㎝を測る楕円形を呈し、床面からの深度は10～24㎝を測る。9基中最大のP4は長軸40㎝、床面からの深度は14㎝を測る。

本遺構は床面より大量の土器が出土しており、甕3点（60～62）、壺（59・63）、鉢（58）（Fig.86・87）を出土状況とあわせて図示した。

SI14（Fig.29）

228S-20・229S-1グリッドで検出した。後出する竪穴建物SI113及び溝SD20によって北側は削平されている。平面形・規模は不明確であるが、検出南北辺3.3ｍ、東西辺3.2ｍを測り、長方形を呈すると推測される。壁面はほぼ垂直に立ち上がり、検出面から床面までの深度は12㎝を測る。遺構の主軸はN-40°-Wを測る。

本遺構では、土坑2基（K1・K2）を検出した。K1は遺構の中央部で検出した。北側を後出する竪穴建物SI13や溝SD20によって削平されており、平面形・規模は不明確であるが、検出径142㎝、床面からの深度は7㎝を測る。その基底は平坦面を形成する。K1では南端部で土器が出土している。K2は遺構の中央部K1の南側で検出した。平面形は長軸94㎝、短軸89㎝の楕円形を呈し、検出面からの深度は5㎝を測る。その基底は平坦面を形成する。柱穴は3基（P1～P3）を検出した。P1は遺構西側中央で検出した。北側を後出する竪穴建物SI13によって削平されているが、その平面形は長軸46㎝の楕円形を呈すると推測され、床面からの深度は9㎝を測る。P2は遺構南側西部で検出した。その平面形は長軸46㎝の長楕円形を呈し、床面からの深度は17㎝を測る。P3は遺構南側東部で検出した。その平面形は長軸43㎝の長楕円形を呈し、床面からの深度は14㎝を測る。その内、P2・P3の芯心距離は177㎝を測る。

弥生時代後期の遺物が出土しており、鉢（64）（Fig.88）を出土状況とあわせて図示した。

SI13（Fig.29）

228R-20グリッドで検出した。遺構の北側は後出する竪穴建物SI12、南側は溝SD20によって削平されており、遺構西側は未掘域へ延びる。また、重複する竪穴建物SI14より後出する。したがって、平面形・規模は不明確であるが、検出東西辺4ｍ、南北辺3.6ｍを測り、長方形を呈すると推測される。壁面は緩やかに立ち上がり、検出面から床面までの深度は15㎝を測る。検出東西辺から想定される遺構の主軸はW-20°-Sを測る。

本遺構では、遺構東壁に沿って南北に走行する溝（D2）を検出した。D2は検出長264㎝、幅24㎝を呈する。D1の東端は竪穴建物SI113の壁面に接し、南側で収束する。床面からの深度は4㎝を測る。壁際溝の可能性

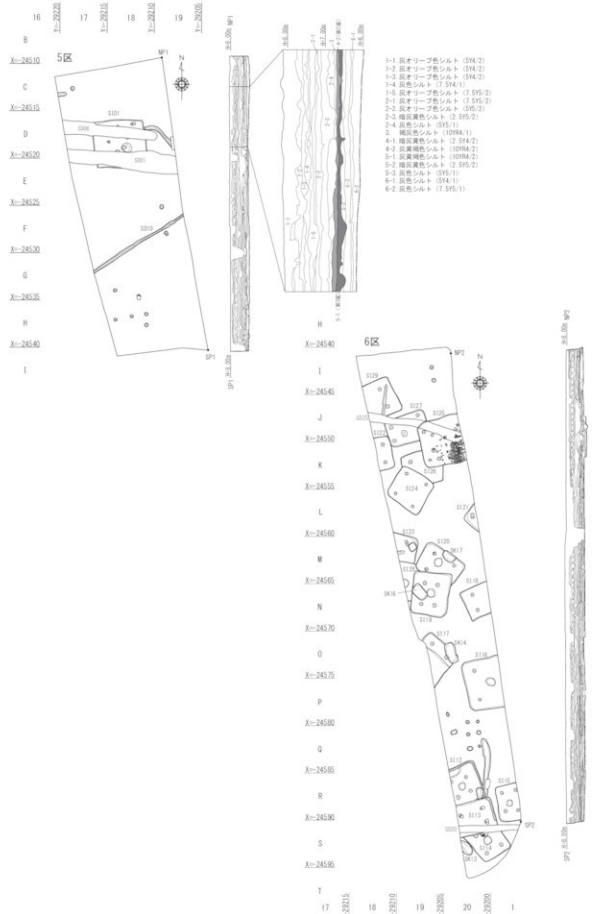



Fig.27　二本木遺跡群（田崎地区）5区・6区第1面遺構配置図

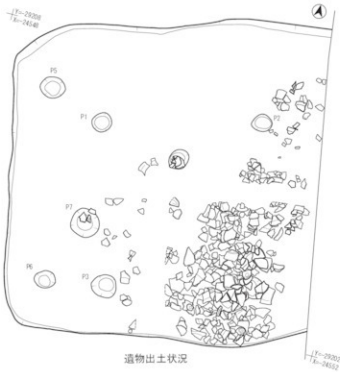



Fig.28　6区竪穴建物 SI25 実測図

もあるが、遺構の全周で検出は出来なかった。柱穴は３基（P1 ～ P3）を検出した。P1 は遺構西側北部で検出した。直径 33㎝の円形を呈し、床面からの深度は 14㎝を測る。P2 は遺構東側北部で検出した。直径 29㎝の円形を呈し、床面からの深度は 13㎝を測る。P3 は遺構東側南部で検出した。直径 30㎝の円形を呈し、床面からの深度は 17㎝を測る。検出した柱穴の内、P2・P3 の芯心距離は 147㎝、P1・P2 の芯心距離は 230㎝を測る。

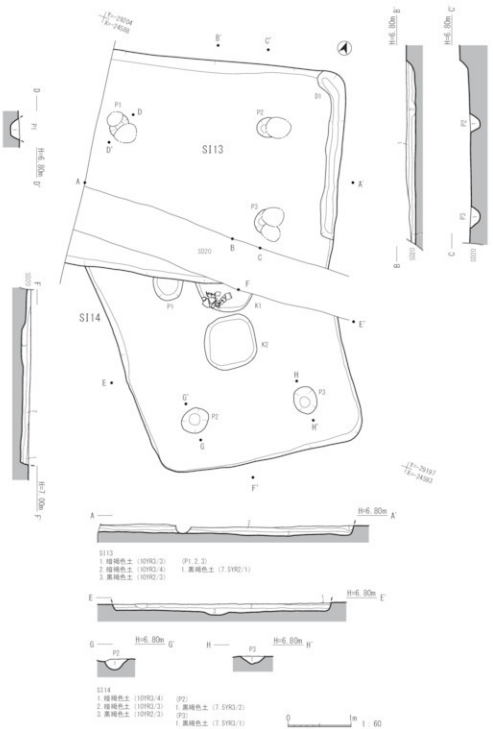



Fig.29　６区竪穴建物 SI13・SI14 実測図

SI15（Fig.30）

229R-1 グリッドで検出した。遺構の東側は調査区外へ延びる。竪穴建物 211・241 と重複し、両遺構より後出する。したがって、平面形・規模は不明確であるが、検出南北辺 3.85 m、検出東西辺 2.3 m を測る。壁面はほぼ垂直に立ち上がり、検出面から床面までの深度は 5 ㎝を測る。遺構の主軸は N-10° -E を測る。遺構埋土は暗褐色シルトの単層である。

本遺構では土坑は 1 基（K1）を検出した。K1 は遺構の中央部で検出した。その平面形は、長軸 71㎝の円形を呈し、床面からの深度は 5 ㎝を測る。その基底は平坦面を形成する。柱穴は 4 基（P1 ～ P4）を検出した。P1 は遺構東側北部で検出した。その平面形は長軸 37㎝の円形を呈し、床面からの深度は 11㎝を測る。P2 は遺構南側東部で検出した。その平面形は長軸 38㎝の円形を呈し、床面からの深度は 11㎝を測る。P3 は遺構北側西部で検出した。その平面形は長軸 36㎝の円形を呈し、床面からの深度は 16㎝を測る。P4 は遺構南側西部で検出した。その平面形は長軸 35㎝の円形を呈し、床面からの深度は 15㎝を測る。その内、P1・P2 の芯心距離は 215㎝、P3・P4 の芯心距離は 197㎝を測る。

弥生時代後期の遺物が出土しており、甕（65 ～ 67）（Fig.88）を図化している。

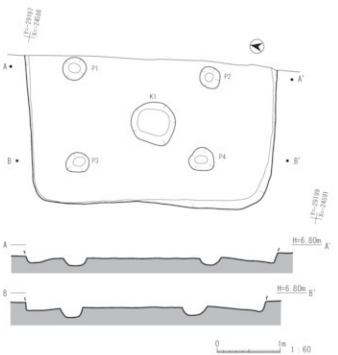



Fig.30　6 区竪穴建物 SI15 実測図

SI16（Fig.31）

228O・P-20 グリッドで検出した。遺構の東側は調査区外へ延びる。したがって、平面形・規模は不明確である。南北辺は 5.2 m、検出東西辺は 3.8 m を測る。壁面はほぼ垂直に立ちあがるが、床面はすり鉢状を呈し、遺構中央が最も低い。検出面から床面最深部までの深度は 15㎝を測る。検出南北辺から推定される遺構の主軸は N-9° -W を測る。

土坑は 1 基（K1）を検出した。K1 は検出部の中央で検出した。K1 の平面形は、長軸 112㎝、短軸 80㎝の長楕円形を呈し、床面からの深度は 8 ㎝を測る。その基底は炭化物を含み、平坦面を形成することから炉跡と推測する。柱穴は 2 基（P1・P2）を検出した。P1 は遺構西側北部で検出した。その平面形は長軸 38㎝の長楕円形を呈し、床面からの深度は 15㎝を測る。P2 は遺構西側南部で検出した。その平面形は長軸 24㎝の長楕円形を呈し、床面からの深度は 19㎝を測る。P1・P2 の芯心距離は 308㎝を測る。

本遺構では、外器面調整にタタキ痕跡を残す甕小片と共に出土した破鏡（106）（Fig.98）を図示した。

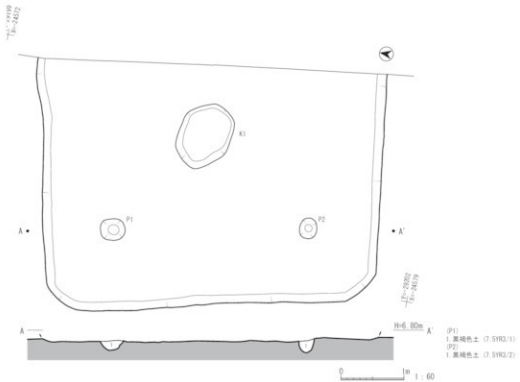



Fig.31　6区竪穴建物 SI16 実測図

2 - 2　第２面（Fig.32）

a　掘立柱建物（ＳＢ）

SB03（Fig.33）

228F-17 グリッドで P1 ～ P7 の７基の柱穴を検出した。北東の隅柱が検出できなかったが、桁行２間×梁行２間の側柱建物が推測される。P1 － P3 軸から想定する建物の主軸は N-30° -E を測る。各柱穴の平面形は円形を呈し、直径は 31 ～ 46㎝、検出面からの深度は 11 ～ 18㎝を測る。桁側の柱間は、最大桁間（P2-P3）が 138㎝、最小桁間（P5-P6）が 115㎝を測る。梁側の柱間は、最大梁間（P4-P5）が 138㎝、最小梁間（P3-P4）が 124㎝測る。また、P2-P6 間は 268㎝を測る。

SB07（Fig.34）

229Q-1 グリッドで P1 ～ P12 の 12 基の柱穴を検出した。桁行３間×梁行２間の総柱建物である。P1-P4 軸から想定する建物の主軸は N-3° -W を測る。各柱穴の平面形は円形を呈し、直径は 24 ～ 33㎝、検出面からの深度は５～ 12㎝を測る。桁側の柱間は、最大桁間（P11-P12）131㎝、最小桁間（P5-P6）92㎝を測る。梁側の柱間は、最大梁間（P8-P12）111㎝、最小梁間（P9-P5）86㎝を測る。

SB09（Fig.35）

228I-19 グリッドで P1 ～ P6 の６基の柱穴を検出した。P4 がやや東側に張り出すために歪な形を呈するが、ここでは梁行２間×桁行１間の側柱建物とする。P3 － P1 軸から想定する建物の主軸は N-88° -E を測る。各柱穴の平面形は円形を呈し、直径は 21 ～ 29㎝、検出面からの深度は５～９㎝を測る。桁側の柱間は最大桁間（P3-P4）が 158㎝、最小桁間（P1-P6）が 103㎝を測る。梁側の柱間（P1-P2）は 137㎝を測る。

SB10（Fig.36）

228J-19 グリッドで検出した。一部重複する竪穴建物 SI203 に後出する。柱穴は P1 ～ P15 の 15 基を検出した。桁行４間×梁行２間の総柱建物である。P1-P5 軸から想定する建物の主軸は N-15° -W を測る。各柱穴の平面形は円形を呈し、直径は 22 ～ 31㎝、検出面からの深度は４～８㎝を測る。桁側の柱間は最大桁間（P14-P15）99㎝、最小桁間（P2-P3）78㎝を測る。梁側の柱間は最大梁間（P1-P6）154㎝、最小梁間（P5-P10）134㎝を測る。

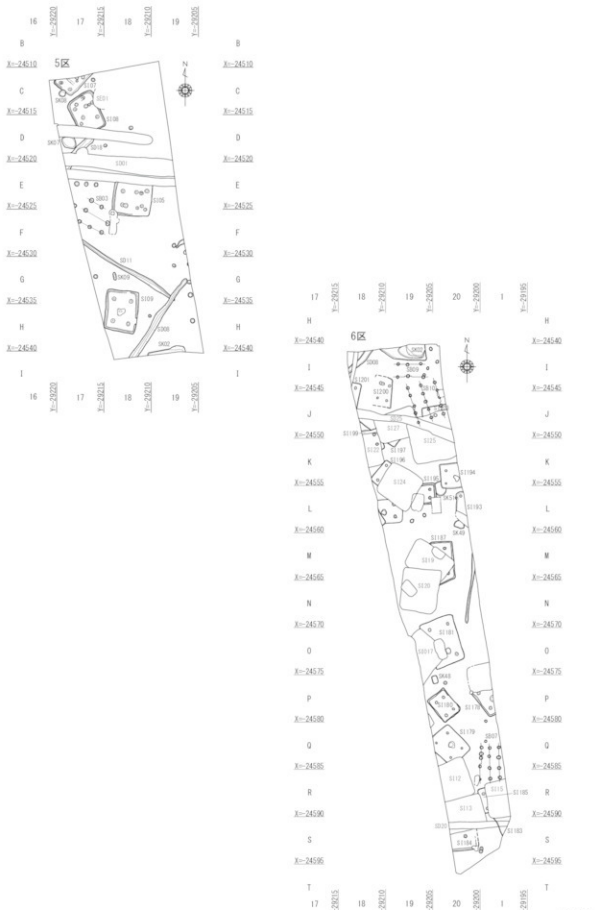



Fig.32　二本木遺跡群（田崎地区）5区・6区第2面遺構配置図

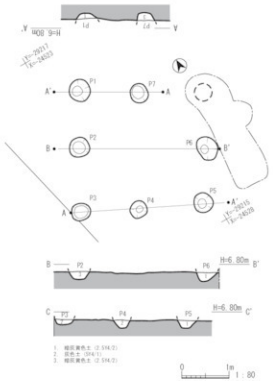



Fig.33　5 区掘立柱建物 SB03 実測図

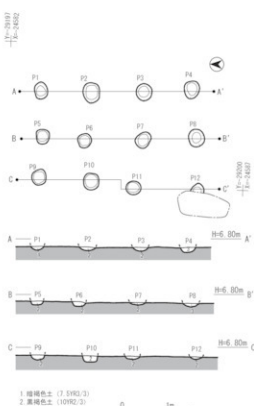



Fig.34　6 区掘立柱建物 SB07 実測図

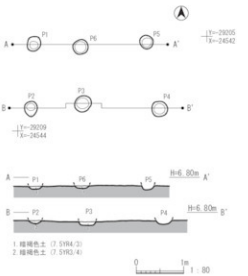



Fig.35　6区掘立柱建物SB09実測図

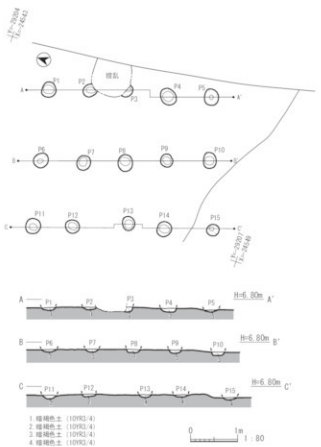



Fig.36　6区掘立柱建物SB10実測図

2 － 3　第3面（Fig.37）

a　掘立柱建物（ＳＢ）

SB01（Fig.38）

228C-18 グリッドで P1 ～ P5 の５基の柱穴を検出したが、調査区隅の検出であるため、その全容は明らかでない。P1 － P3 軸から想定する建物の主軸は N-30° -W を測る。各柱穴の平面形は円形を呈し、直径は 40 ～ 50㎝、検出面からの深度は 20 ～ 36㎝を測る。桁側の柱間は P4-P5 間が 213㎝、P2-P3 間が 175㎝、P1-P2 間が 216㎝を測る。梁側の柱間は P3-P4 間が 213㎝を測る。

b　竪穴建物（ＳＩ）

SI02（Fig.39）

228F・G-19 グリッドで検出した。遺構の東側の大半は調査区外へ延びる。したがって、平面形・規模は不明確である。南北辺 3.9 m、検出東西辺 3.5 m を測る。壁面はほぼ垂直に立ちあがり、検出面から床面までの深度は 12㎝を測る。検出南北辺から推測される遺構の主軸は N-35° -W を測る。

遺構の南側および西側からは、ベッド状遺構（B1・B2）を検出した。B1 は遺構壁面に接しており、その上面は南北辺 390㎝、最大幅 120㎝、最小幅 18㎝の所謂「鍵」形を呈し、張出部の南北辺は 162㎝を測る。床面と比較して７㎝高く構築されている。B2 は遺構北端壁面に接しており、隅部は確認できるが、その大半は調査区外へ延びる。したがって、その平面形・規模は不明確であるが、上面は南北辺 95㎝、検出東西辺 68㎝を測り、床面と比較して 16㎝高く構築されている。土坑は１基（K1）を検出した。K1 は遺構南側中央で検出した。K1 の平面形は、検出径 55㎝の長楕円形を呈すると推測され、床面からの深度は６㎝である。その基底は平坦面を形成する。柱穴は３基（P1 ～ P3）を検出した。P1 は遺構北側中央で検出した。その平面形は長軸 39㎝の円形を呈し、床面からの深度は 12㎝を測る。P2 は遺構北側東部で検出した。その平面形は長軸 30㎝の円形を呈し、床面からの深度は７㎝を測る。P3 は遺構南側中央で検出した。その平面形は長軸 27㎝の円形を呈すると推測され、床面からの深度は５㎝を測る。その内、P1・P2 の芯心距離は 130㎝、P1・P3 の芯心距離は 148㎝を測る。

弥生時代後期の遺物が出土しており、ここでは、壺（82）および高杯（81）（Fig.91）を図化した。

SI230（Fig.40）

228L-20 グリッドで検出した。遺構の南側の一部は後出する竪穴建物 SI240 によって削平され、東側の大半は調査区外へ延びる。したがって、規模は不明確であるが、平面形は南北辺 4.5 m、検出東西辺 1.5 m を測り、長方形を呈すると推測される。壁面はほぼ垂直に立ちあがり、検出面から床面までの深度は 18㎝を測る。遺構の主軸は N-10° -W を測る。

本遺構では柱穴２基（P1・P4）を検出した。P1 は遺構北側で検出した。その平面形は長軸 34㎝の円形を呈し、床面からの深度は４㎝を測る。P2 は遺構南側で検出した。その平面形は長軸 40㎝の長楕円形を呈し、床面からの深度は７㎝を測る。P1・2 の芯心距離は 300㎝を測る。遺構中央部では焼土の集中部（F1）を検出した。F1 は長軸 33㎝、短軸 22㎝の不整形な方形を呈するが、その周囲に明確な掘りこみは検出できなかった。また、F1 の周辺では、多量の土器が出土しており、その接合率は高く、一括性の高い遺物群となった。

ここでは、接合された甕（78・79）、壺（75 ～ 77・80）、鉢（68 ～ 74）（Fig.89・90）を出土状況とあわせて図化した。

SI11（Fig.41）

228G・H-18 グリッドで検出した。遺構の北側は溝 SD11 に削平され、西側も溝 SD08 によって削平される。また、遺構の西側の半分は未掘域へ延びる。したがって、平面形・規模は不明確であるが、検出南北辺 4.3 m、東西辺 3.1 m を測り、長方形を呈すると推測される。壁面はなだらかに立ちあがり、検出面から床面までの深度は 30㎝を測る。検出南北辺から推測される遺構の主軸は N-34° -E を測る。

本遺構では、ベッド状遺構（B1）を検出した。B1 は遺構壁面に接しており、その上面は最大幅 130㎝の「コの字」

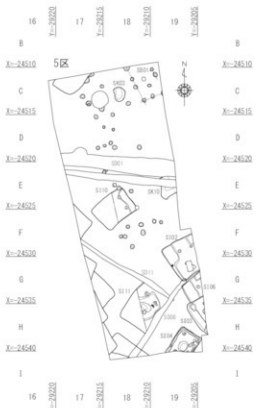



Fig.37　二本木遺跡群（田崎地区）5区・6区第3面遺構配置図

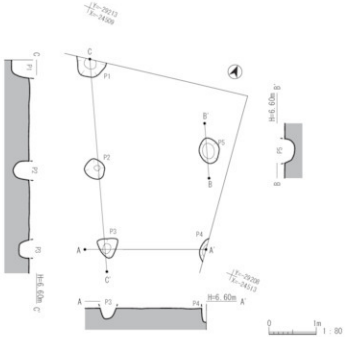



Fig.38　5 区掘立柱建物 SB01 実測図

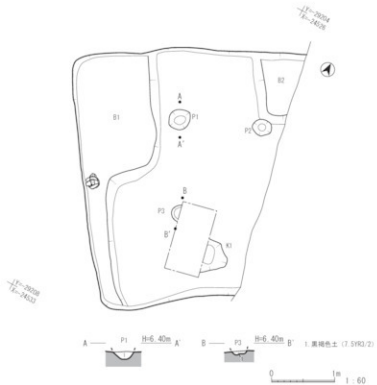



Fig.39　5 区竪穴建物 SI02 実測図

状を呈し、床面と比較して 4 ㎝高く構築されている。土坑は 1 基（K1）を検出した。K1 は遺構中央で検出した。K1 の南側は未掘域へ延び、さらに南側の一部は後出する P2 によって削平される。したがって、平面形・規模は不明確であるが、検出長軸 118㎝、検出短軸 81㎝の長楕円形を呈すると推測され、床面からの深度は 17㎝である。その基底は平坦面を形成する。柱穴は 4 基（P1 ～ P4）を検出した。P1 は遺構西側の B1 上で検出した。その平面形は長軸 43㎝の円形を呈し、B1 上面からの深度は 17㎝を測る。P2 は遺構南側で検出した。K1 より後出し、その南側は未掘域へ延びる。その平面形は検出長軸 16㎝を測り、床面からの深度は 3㎝を測る。

P3は遺構東側中央で検出した。その平面形は長軸52㎝の円形を呈し、床面からの深度は11㎝を測る。P3からは鉢（83）が残置された状態で出土した。P4は遺構東側北部で検出した。その平面形は長軸33㎝の円形を呈すると推測され、床面からの深度は9㎝を測る。検出した柱穴の内、P1・P4の芯心距離は126㎝、P2・P4の芯心距離は153㎝を測る。

弥生時代後期の遺物が出土しており、壺（85）、高杯（84）および鉢（83）を図化した。特に、鉢（83）（Fig.92）はP3より正位置に据えられて出土しており、その出土状況も図示した。

SI241（Fig.42）

229R-1グリッドで検出した。平面形は長辺3.2ｍ、短辺2.7ｍの長方形を呈する。壁面はほぼ垂直に立ちあがり、検出面から床面までの深度は11㎝を測る。遺構の主軸はN-8°-Wを測る。

遺構の西側からは、ベッド状遺構（B1）を検出した。B1は不定形な「ひょうたん」状を呈し、検出南北辺238㎝、北側検出東西幅37㎝、南側検出東西幅72㎝を測り、その端部は遺構壁面と接している。また、B1は床面と比較して11㎝高く構築されている。土坑は3基（K1～K3）を検出した。K1は遺構中央で検出した。K1は長軸107㎝、短軸100㎝の円形を呈する。K1は床面から9㎝掘削した後に、幅20㎝の平坦面を残し、さらに4㎝下方で基底に至る。基底は長軸48㎝の楕円形を呈し、床面からの深度は13㎝を測る。その基底は平坦面を形成する。K2は南東隅で検出した。重複するK3より後出する。K2の平面形は、長軸114㎝、短軸87㎝の長楕円形を呈する。K2は床面から5㎝掘削した後に幅10㎝の平坦面を残し、さらに3㎝下方で基底に至る。基底はK2の西側にあり、長軸36㎝、短軸26㎝の楕円形を呈し、床面からの深度は8㎝を測る。その基底は平坦面を形成する。K3は南側を後出するK2によって削平される。検出長軸は65㎝を測り、円形を呈すると推測する。床面からの深度は6㎝を測り、その基底は平坦面を形成する。柱穴は2基（P1・P2）を検出した。P1は遺構北側中央で検出した。その平面形は長軸30㎝の円形を呈し、床面からの深度は5㎝を測る。P2は遺構南側中央で検出した。その平面形は長軸30㎝の円形を呈し、床面からの深度は6㎝を測る。P1・P2の芯心距離は183㎝を測る。

遺構中央部を中心に多量の土器が出土しており、一括性は高い。ここでは甕（88）、鉢（86・87）（Fig.93）を出土状況とあわせて図化した。

SI224（Fig.43）

228N-20グリッドで検出した。重複する竪穴建物SI220・221・223によって南北を削平され、遺構の東側は調査区外へ延びる。したがって、平面形・規模は不明確である。検出南北辺は1.7ｍを測る。壁面はほぼ垂直に立ちあがり、検出面から床面までの深度は13㎝を測る。検出南北辺から推定される遺構の主軸はN-14°-Wを測る。

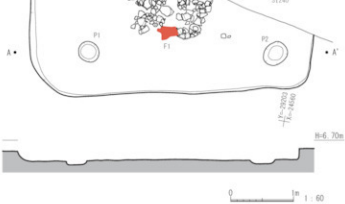



Fig.40　6区竪穴建物SI230実測図

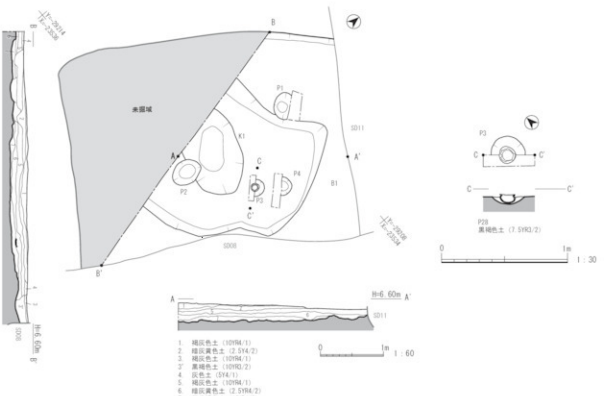



Fig.41　5区竪穴建物 SI11 実測図

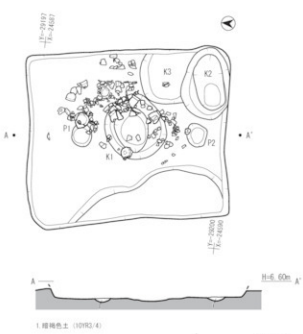



Fig.42　6区竪穴建物 SI241 実測図

土坑は１基（K1）を検出した。K1 は検出部の中央で検出した。K1 の平面形は長軸 106㎝、短軸 93㎝の楕円形を呈し、床面からの深度は 11㎝を測る。その基底は平坦面を形成し、多量の遺物が出土した。

弥生時代後期の遺物が出土しており、甕（96 ～ 98）と鉢（95）（Fig.95）を図化した。

SI223（Fig.43）

228M･N-20 グリッドで検出した。重複する竪穴建物 SI266 に先行し、竪穴建物 SI224･225･227 に後出する。また、遺構の東側は調査区外へ延びる。したがって、規模は不明確であるが、平面形は南北辺 3.9 m、東西辺 2.5 mの長方形を呈する。壁面はほぼ垂直に立ちあがり、検出面から床面までの深度は 31㎝を測る。遺構の主軸は N-18° -E を測る。

遺構の北西隅からは、ベッド状遺構（B1）を検出した。B1 は南北辺 150㎝、幅 50㎝を測る不定形な半円形を呈し、その端部は遺構壁面と接する。また、B1 は床面と比較して 14㎝高く構築されている。土坑は１基（K1）を検出した。K1 は遺構北側中央で検出した。K1 の東側は調査区外へ延びる。したがって、平面形は不明確であるが、検出長軸 49㎝、検出短軸 24㎝、床面からの深度は６㎝を測る。その基底は平坦面を形成する。柱穴は２基（P 9 ～ P10）を検出した。P1 は遺構北側西部で検出した。その平面形は長軸 22㎝の円形を呈し、床面からの深度は 10㎝を測る。P2 は遺構南側中央で検出した。その平面形は長軸 27㎝の円形を呈し、床面からの深度は５㎝を測る。P1 ・P2 の芯心距離は 257㎝を測る。

弥生時代後期の遺物が出土しており、壺（90）、鉢（89）（Fig.94）を図化した。

SI225（Fig.43）

228N-20 グリッドで検出した。遺構の東側および西側の一部は後出する竪穴建物 SI223･226･221 によって削平される。平面形は南北辺 3.9 m、東西辺 2.4 mの長方形を呈する。壁面はほぼ垂直に立ちあがり、検出面から床面までの深度は 10㎝を測る。遺構の主軸は N-14° -W を測る。

本遺構では柱穴２基（P1･P2）を検出した。P1 は遺構北側で検出した。その平面形は長軸 30㎝の円形を呈し、床面からの深度は９㎝を測る。P2 は遺構南側で検出した。その平面形は長軸 41㎝の楕円形を呈し、床面からの深度は８㎝を測る。P1 ・P2 の芯心距離は 183㎝を測る。

SI266（Fig.44 ・94）

228M ・N-20 グリッドで検出した。重複する竪穴建物 SI223 に後出し、遺構の東側の大半は調査区外へ延びる。したがって、平面形 ・規模は不明確である。南北辺 3.4 m、検出東西辺 2.3 mを測る。壁面はほぼ垂直に立ちあがり、検出面から床面までの深度は 25㎝を測る。遺構の主軸は N-10° -E を測る。

遺構の西側からはベッド状遺構（B1）を検出した。B1 は遺構西壁面に接しており、その上面は南北辺 194㎝、幅 50㎝の長方形を呈し、床面と比較して 11㎝高く構築されている。土坑は１基（K1）を検出した。K1 は遺構中央で検出した。K1 の平面形は長軸 76㎝、短軸 50㎝の長楕円形を呈する。その基底は平坦面を形成する。

遺構中央部を中心に多量の土器が出土しており、一括性は高い。ここでは甕（93）、壺（94）、鉢（91 ・92）（Fig.94）を出土状況とあわせて図化した。

SI206（Fig.45）

229Q-1 グリッドで検出した。竪穴建物 SI207 に後出し、遺構の東側の大半は調査区外へ延びる。したがって、平面形 ・規模は不明確であるが、検出南北辺 4.5 m、検出東西辺 1.7 mを測り、長方形を呈すると推測される。壁面はほぼ垂直に立ちあがり、検出面から床面までの深度は 20㎝を測る。検出南北辺から推測される遺構の主軸は N-10° -E を測る。

本遺構では、ベッド状遺構や炉跡、土坑、柱穴などは検出できなかった。

弥生時代後期の遺物が出土しており、壺（99）（Fig.96）を図示した。

SI204（Fig.45）

229P ・Q-1 グリッドで検出した。遺構の東側は調査区外へ延びる。平面形は長辺 4.0 m、短辺 2.4 mの長方形を呈する。壁面はほぼ垂直に立ちあがり、検出面から床面までの深度は 28㎝を測る。遺構の主軸は N-40° -W を測る。

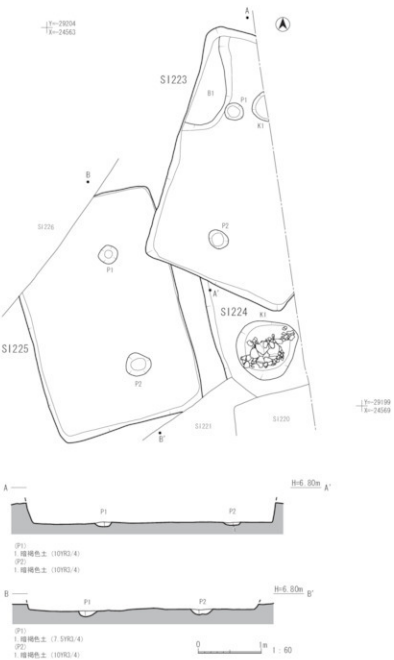



Fig.43　6区竪穴建物 SI223・SI224・SI225 実測図

本遺構では土坑２基（K1・K2）を検出した。K1 と K2 は遺構中央で一部重複した状態で検出され、K1 が後出する。K1 の平面形は、長軸 108㎝、短軸 88㎝の長楕円形を呈し、床面からの深度は３㎝を測る。その基底は平坦面を形成する。K2 の平面形は、長軸 106㎝、短軸 72㎝の長楕円形を呈し、床面からの深度は３㎝を測る。その基底は平坦面を形成する。柱穴は３基（P11 ～ P13）を検出した。P1 は遺構北側西部で検出した。その平面形は長軸 25㎝の楕円形を呈し、床面からの深度は 10㎝を測る。P2 は遺構東側北部で検出した。その平面形は長軸 38㎝の楕円形を呈し、床面からの深度は 12㎝を測る。P3 は遺構南側西部で検出した。その平面形は長軸 26㎝の円形を呈し、床面からの深度は７㎝を測る。その内、P1・P2 の芯心距離は 161㎝、P1・P3 の芯心距離は 208㎝を測る。

SI203（Fig.45）

228P・Q-20 グリッドで検出した。重複する竪穴建物 SI215 に後出し、遺構の大半は未掘域へ延びる。したがって、平面形・規模は不明確である。検出長辺は 2.3 m、検出短辺は 1.3 m を測る。壁面はほぼ垂直に立ちあがり、検出面から床面までの深度は 7 ㎝を測る。検出長辺から推測される遺構の主軸は N-40° -W を測る。

本遺構では柱穴 1 基（P1）を検出した。P1 は遺構中央で検出した。その平面形は直径 24㎝の円形を呈し、床面からの深度は 8 ㎝を測る。

SI207（Fig.45）

229Q・R-1 グリッドで検出した。遺構の北東側は後出する竪穴建物 SI206 によって削平されている。また、重複する竪穴建物 SI209 より後出する。したがって、平面形・規模は不明確であるが、南北辺 3.1 m、検出東西辺 2.4 mを測る、長方形を呈すると推測される。壁面はほぼ垂直に立ちあがり、検出面から床面までの深度は 23㎝を測る。南北辺から推測される遺構の主軸は N-13° -E を測る。

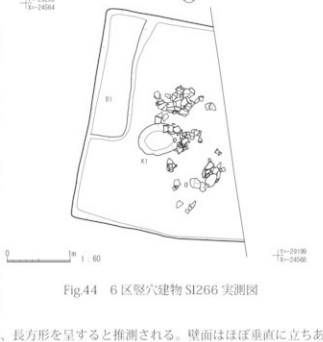


Fig.44　6 区竪穴建物 SI266 実測図

本遺構では、ベッド状遺構やカ跡、土坑、柱穴などは検出できなかった。

SI209（Fig.45）

228Q・R-20 グリッドで検出した。遺構の東側は、後出する竪穴建物 SI207 によって削平され、西側は未掘域に延びる。したがって、平面形・規模は不明確であるが、南北辺 3.1 m、検出東西辺 1.9 mを測る。壁面はほぼ垂直に立ちあがり、検出面から床面までの深度は 23㎝を測る。検出東西辺から推測される遺構の主軸は N-6° -W を測る。

本遺構では、ベッド状遺構やカ跡、土坑、柱穴などは検出できなかった。

SI215（Fig.45）

228Q-20 グリッドで検出した。遺構の北側および南側は、後出する竪穴建物 SI203・209 によって削平され、西側は未掘域に延びる。したがって、平面形・規模は不明確である。検出南北辺 2.0 mを測る。壁面はほぼ垂直に立ちあがり、検出面から床面までの深度は 27㎝を測る。検出南北辺から推測される遺構の主軸は N-7° -W を測る。

本遺構では、ベッド状遺構やカ跡、土坑、柱穴などは検出できなかった。

SK251（Fig.46）

228J-20 グリッドで検出した土坑である。遺構の東側の大半は調査区外へ延びる。重複する竪穴建物 SI243 との前後関係は不明である。検出長軸 63㎝、幅 55㎝を測り、長楕円形を呈すると推測される。検出面から基底までの深度は 10㎝を測る。土製勾玉（110）（Fig.99）が出土した。

SI242（Fig.46）

228J-20 グリッドで検出した。竪穴建物 SI243 に後出し、遺構の西側の大半は調査区外へ延びる。また、遺構内も後出する土坑 SK01・SK02 によって削平されている。したがって、平面形・規模は不明確であるが、南北辺 2.3 m、検出東西辺 0.5 mを測る。壁面はほぼ垂直に立ちあがり、検出面から床面までの深度は 10㎝を測る。南北辺から推定される遺構の主軸は N-10° -W を測る。

SI243（Fig.46）

228J-19・20 グリッドで検出した。重複する土坑 SK251 との前後関係は不明である。遺構の北東部は後出する竪穴建物 SI242、土坑 SK01・SK02 によって削平され、東側の大半は調査区外へ延びる。したがって、平

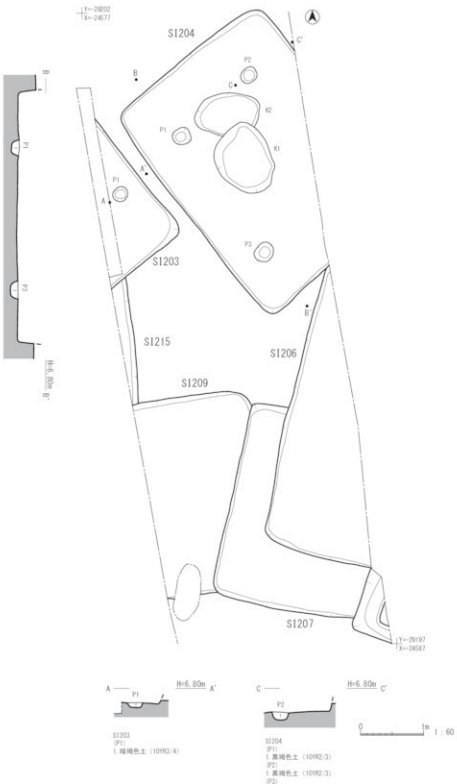



Fig.45　6区竪穴建物 SI203・SI204・SI206・SI207・SI209・SI215 実測図

面形・規模は不明確であるが、検出東西辺 3.6 m、検出南北辺３mを測る。壁面はほぼ垂直に立ちあがり、検出面から床面までの深度は 19㎝を測る。検出東西辺から推定される遺構の主軸は N-49° -W を測る。

土坑は１基(K1)を検出した。K1 は遺構東側中央で検出した。K1 の東側は調査区外へ延びる。したがって、平面形・規模は不明確である。検出長軸 40㎝の楕円形を呈すると推測される。柱穴は１基（P1）を検出した。P1 は遺構西側隅で検出した。その平面形は長軸 25㎝の円形を呈し、床面からの深度は７㎝を測る。

SK01（Fig.46）

228J-20 グリッドで検出した土坑である。遺構の東側の大半は調査区外へ延び、重複する竪穴建物 SI242 に後出する。検出南北軸 82㎝を測り、楕円形を呈すると推測される。検出面から基底までの深度は８㎝を測り、その基底は平坦面を形成する。

SK02（Fig.46）

228J-20 グリッドで検出した土坑である。遺構の東側の大半は調査区外へ延び、重複する竪穴建物 SI242 に後出する。検出南北軸 80㎝を測り、楕円形を呈すると推測される。検出面から基底までの深度は 10㎝を測り、その基底は平坦面を形成する。

SI04（Fig.47）

228H-19 グリッドで検出した。遺構の南側は未掘域へ延びる。平面形は南北辺 3.2 m、検出東西辺 2.5 m を測り、長方形を呈する。壁面はほぼ垂直に立ちあがり、検出面から床面までの深度は 27㎝を測る。南北辺から推測される遺構の主軸は N-27° -E を測る。

遺構壁全周に渡って溝（D1）を検出した。D1 は壁側の上端の一部を遺構壁面と共有し、幅 25㎝、床面からの深度は４～９㎝を測り、その基底は一定しない。また、遺構東側北部では長さ 25㎝間のみ途切れる。壁際溝と推測される。土坑は１基（K1）を検出した。K1 は遺構中央で検出した。K1 の平面形は、長軸 111㎝、短軸 95㎝の楕円形を呈し、床面からの深度は４㎝である。その基底は平坦面を形成する。柱穴は６基（P1～P6）を検出した。P1 は遺構北側で検出した。その平面形は長軸 40㎝の円形を呈し、床面からの深度は 14㎝を測る。P2 は遺構東側で検出した。その平面形は長軸 36㎝の長楕円形を呈し、床面からの深度は 25㎝を測る。P3 は遺構東側中央で検出した。その平面形は長軸 70㎝、最大幅 35㎝の不整形な円形を呈し、床面からの深度は 34㎝を測る。P4 は遺構南側東部で検出した。南側は未掘部分に延びるが、その平面形は長軸 29㎝の円形を呈すると推測され、床面からの深度は４㎝を測る。P5 は遺構南西部で検出した。D1 との前後関係は不明である。平面形は長軸 23㎝の円形を呈し、D1 基底面からの深度は６㎝を測る。P6 は遺構南側西部で検出した。南側は未掘部分に延びるが、その平面形は長軸 42㎝の円形を呈すると推測され、床面からの深度は 14㎝を測る。柱穴 P1・P2 の芯心距離は 105㎝、P1・P6 の芯心距離は 175㎝を測る。

弥生時代後期の遺物が出土しており、ここでは、鉄製摘鎌（108）（Fig.99）を図化した。

SI211（Fig.48）

229R-1 グリッドで検出した。遺構の南側はトレンチにより削平される。また、東側の大半は調査区外へ延びる。したがって、平面形・規模は不明確である。検出南北辺 2.7 m、検出東西辺 2.1 mを測る。壁面はほぼ垂直に立ちあがり、検出面から床面までの深度は 11㎝を測る。検出南北辺から推測される遺構の主軸は N-32° -W を測る。

本遺構では、ベッド状遺構や炉跡、土坑、柱穴などは検出できなかった。

SI210（Fig.48）

229R-1 グリッドで検出した。遺構の南側はトレンチにより削平され、重複する竪穴建物 SI216 より後出する。また、西側の大半は未掘域に延びる。したがって、平面形・規模は不明確である。検出南北辺 2.7 m、検出東西辺 0.6 mを測る。壁面はほぼ垂直に立ちあがり、検出面から床面までの深度は 22㎝を測る。検出南北辺から推測される遺構の主軸は N-45° -W を測る。

本遺構では柱穴１基(P1)を検出した。P1 は遺構南側で検出した。その平面形は長軸 25㎝の楕円形を呈し、床面からの深度は８㎝を測る。

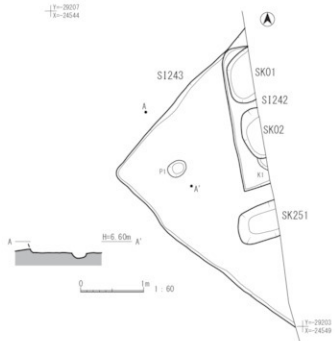



Fig.46　6区竪穴建物SI242・SI243、土坑SK01・SK02・SK251実測図

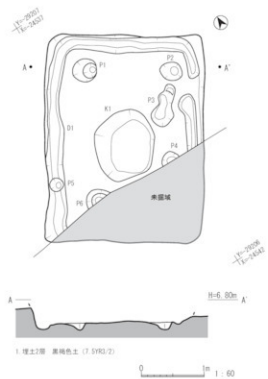



Fig.47　5区竪穴建物SI04実測図

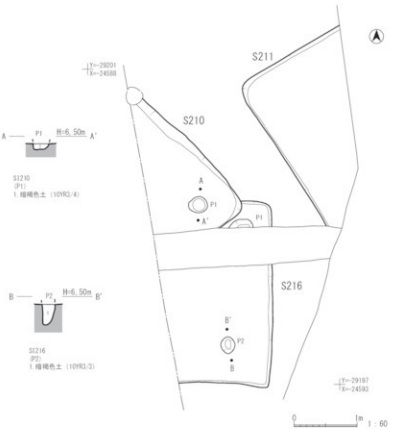



Fig.48　6区竪穴建物 SI210・SI211・SI216 実測図

SI216（Fig.48）

229S-1 グリッドで検出した。遺構の北側は後出する竪穴建物 SI210 によって削平される。また、西側の大半は未掘域に延びる。したがって、平面形・規模は不明確である。南北辺 3.0 m、検出東西辺 1.4 mを測る。壁面はほぼ垂直に立ちあがり、検出面から床面までの深度は 6㎝を測る。南北辺から推測される遺構の主軸は N-2° -E を測る。

本遺構では柱穴２基（P1・P2）を検出した。P1 は遺構北側で検出したが、トレンチによって削平されている。その平面形は長軸 40㎝の楕円形を呈すると推測され、床面からの深度は 11㎝を測る。P2 は遺構南側で検出した。その平面形は長軸 20㎝の長楕円形を呈し、床面からの深度は 32㎝を測る。P1・P2 の芯心距離は 188㎝を測る。

c　土坑（ＳＫ）

SK56（Fig.49）

228K-20 グリッドで検出した。重複する竪穴建物 SI232 に後出し、遺構の東側は調査区外へ延びる。平面形は検出長軸 103㎝、短軸 80㎝の楕円形を呈すると推測され、床面からの深度は 20㎝を測る。その基底は平坦面を形成する。基底からは甕が縦方向に２つに裁断された状態で出土した。裁断された２点の甕片は、共に内器面を上方に向けた状態で出土した。ここでは、その甕（101）（Fig.96）を接合し、出土状況とあわせて図化した。

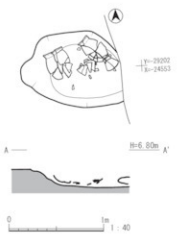



Fig.49　6区土坑 SK56 実測図

5　7区

（1）概要

7区は、6区から10m南方の244A-2グリッドから244J-2グリッドにかけて設定された。南北に全長44m、東西に最大幅9.7mを測り、その発掘調査面積は360㎡である。

調査区の北側は、調査区を東西に走行する幅8mの撹乱溝によって大きく削平される。また、南側も調査区を南西－北東に走行する溝SD74によって削平されている。

発掘調査は5・6区と同様に3つの検出面を基に行った。第1面～第3面はそれぞれ、基本層序の「4-1層下面」、「4-2層下面」、「5-1層下面」に該当する。各遺構検出面からは竪穴建物を中心に遺構が検出されたが、北方に位置する5・6区と比較して竪穴建物の検出密度は低くなる。検出された竪穴建物は弥生時代後期のものである。

（2）遺構各説

2－1　第1面（Fig.50）

a　掘立柱建物（SB）

SB12（Fig.51）

244E-1グリッドで検出した。P1～P6の6基で構成される。桁行2間×梁行1間での側柱建物である。建物の主軸はN-65°-Wを測る。各柱穴の平面形は円形を呈し、直径は24～35cm、検出面からの深度は8～11cmを測る。遺構埋土は暗褐色シルトの単層である。各柱穴の柱間はP1-P6間が121cm、P2-P3間が118cm、P3-P4間が143cm、P5-P6間が135cmを測る。

b　竪穴建物（SI）

SI277（Fig.52）

244C・D-1グリッドで検出した。遺構の北側は後世の撹乱溝によって削平されている。したがって、平面形・規模は不明確であるが、南北辺1.9m、検出東西辺2.2mを測り、長方形を呈すると推測される。壁面はほぼ垂直に立ちあがり、検出面から床面までの深度は5cmを測る。南北辺から推測される遺構の主軸はN-40°-Eを測る。

遺構内からは柱穴2基（P1・P2）を検出した。。P1は遺構西側南部で検出した。その平面形は長軸28cmの円形を呈し、床面からの深度は8cmを測る。P2は遺構北側で検出した。その平面形は長軸26cmの円形を呈し、床面からの深度は6cmを測る。P1・P2の芯心距離は130cmを測る。

SI275（Fig.52）

244E・F-2グリッドで検出した。平面形は長方形を呈し、南北辺3.5m、東西辺2.2mを測る。壁面はほぼ垂直に立ちあがり、検出面から床面までの深度は9cmを測る。南北辺から推測される遺構の主軸はN-38°-Eを測る。遺構埋土は暗褐色シルトを主体とした2層に分層できた。

遺構内からは土坑1基（K1）を検出した。K1は遺構中央で検出した。その平面形は長楕円形を呈し、長軸62cm、短軸52cmを測る。床面からの深度は5cmを測る。柱穴は、4基（P1～P4）を検出した。P1は遺構北部で検出した。その平面形は長軸30cmの円形を呈し、床面からの深度は6cmを測る。P2は遺構東側北部で検出した。その平面形は長軸29cmの円形を呈し、床面からの深度は8cmを測る。P3は遺構西側南部で検出した。その平面形は長軸29cmの円形を呈し、床面からの深度は7cmを測る。P4は遺構南側で検出した。その平面形は長軸30cmの円形を呈し、床面からの深度は7cmを測る。P1・P2の芯心距離は117cm、P3・P4の芯心距離は131cmを測る。

SI274（Fig.53）

244F・G-1グリッドで検出した。遺構の西側の半分は調査区外へ延びる。したがって、平面形・規模は不明確であるが、南北辺3.3m、検出東西辺1.9mを測り、長方形を呈すると推測される。壁面はほぼ垂直に立

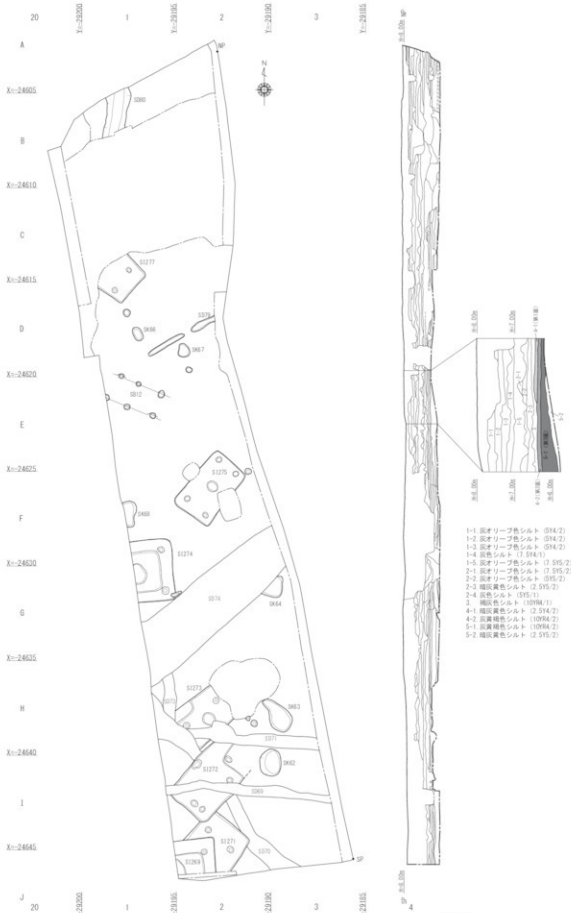



Fig.50　二本木遺跡群（田崎地区）７区第１面遺構配置図

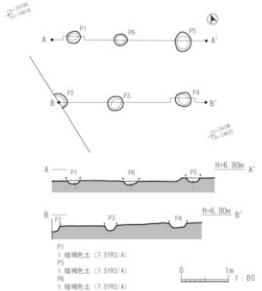



Fig.51　7区掘立柱建物SB12実測図

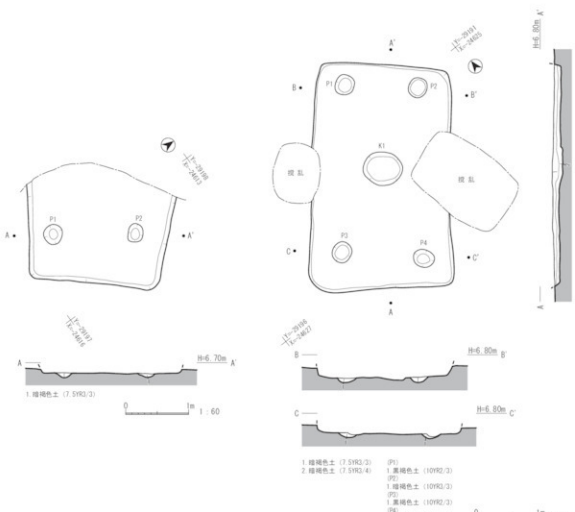



Fig.52　7区竪穴建物SI277（左）・SI275（右）実測図

ちあがり、検出面から床面までの深度は６㎝を測る。南北辺から推測される遺構の主軸はN-6°-Wを測る。

本遺構では、ベッド状遺構（B1）を検出した。B1は遺構壁面に接しており、その上面は最大幅62㎝を測り、床面と比較して５㎝高く構築されている。土坑は１基（K1）を検出した。K1は遺構中央で検出したが、その西側は調査区外へ延びる。したがって、その平面形・規模は不明確であるが、検出長軸109㎝を測り、床面からの深度は３㎝を測る。柱穴は、２基（P1・P2）を検出した。P1は遺構東側北部で検出した。その平面形は長軸31㎝の円形を呈し、床面からの深度は11㎝を測る。P2は遺構東側南部で検出した。その平面形は長軸34㎝の円形を呈し、床面からの深度は13㎝を測る。P1・P2の芯心距離は213㎝を測る。

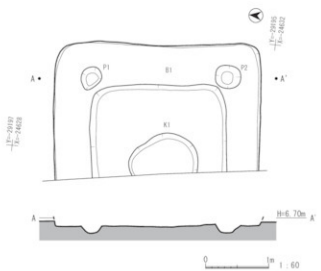



Fig.53　７区竪穴建物 SI274 実測図

SI273（Fig.54）

244H-2グリッドで検出した。遺構の大半は撹乱や後出する溝SD70・71によって削平される。したがって、平面形・規模は不明確であるが、検出東西辺2.3ｍを測る。壁面はほぼ垂直に立ちあがり、検出面から床面までの深度は５㎝を測る。検出東西辺から推測される遺構の主軸はN-54°-Eを測る。

遺構内からはベッド状遺構（B1）を検出した。B1は遺構西側で検出したが、後出する溝SD70によって削平される。したがって、B1の平面形・規模は不明確であるが、その上面は検出辺117㎝、幅55㎝を測り、床面と比較して４㎝高く構築されている。土坑は１基（K1）を検出した。その南側は後出する溝SD71によって削平される。その平面形は長軸65㎝の楕円形を呈し、床面からの深度は12㎝を測る。柱穴は、２基（P1・P2）を検出した。P1は遺構西側で検出した。その平面形は長軸37㎝の円形を呈し、床面からの深度は11㎝を測る。P2は遺構東側で検出した。その平面形は長軸29㎝の円形を呈し、床面からの深度は７㎝を測る。P1・P2の芯心距離は208㎝を測る。

SI272（Fig.54）

244I-2グリッドで検出した。竪穴建物SI271に先行し、遺構の北側および中央は後出する溝SD71・69によって削平される。平面形は長方形を呈し、長軸3.3ｍ、短軸2.5ｍを測る。その長方形の北側に検出辺1.1ｍ、幅1.2ｍの張り出し部を持つ。壁面はほぼ垂直に立ちあがり、検出面から床面までの深度は５㎝を測り、張り出し部も同様である。遺構の主軸はN-50°-Eを測る。

遺構内からは土坑は１基（K1）を検出した。K1は遺構北側中央で検出した。長軸60㎝、短軸40㎝の長楕円形を呈し、床面からの深度は５㎝を測る。柱穴は、遺構内外で４基（P1～P4）を検出した。P1は遺構東側で検出した。その平面形は長軸28㎝の円形を呈し、床面からの深度は８㎝を測る。P2は遺構南側で検出した。その平面形は検出長軸29㎝の円形を呈し、床面からの深度は６㎝を測る。P3は遺構南側で検出した。その平面形は検出長軸34㎝の円形を呈し、床面からの深度は11㎝を測る。P4は張り出し部に近い遺構外で検出した。その平面形は検出長軸31㎝の円形を呈し、床面からの深度は10㎝を測る。P1・P2の芯心距離は201㎝、

P3・P4 の芯心距離は 297㎝を測る。

SI269（Fig.54）

244J-2 グリッドで検出した。重複する竪穴建物 SI271 に後出する。遺構の西側および南側は調査区外へ延びる。したがって、平面形・規模は不明確であるが、検出南北辺 1.9 m、検出東西辺 2.0 mを測る。壁面はほぼ垂直に立ちあがり、検出面から床面までの深度は 5 ㎝を測る。検出南北辺から推測される遺構の主軸は N-4° -W を測る。

検出遺構壁全周にわたってベッド状遺構（B1）を検出した。B1 は遺構壁面に接しており、その上面は最大幅 70㎝を測り、床面と比較して 4 ㎝高く構築されている。土坑は 1 基（K1）を検出した。その大半は調査区外に延びるため、平面形・規模は不明である。検出長軸 85㎝、床面からの深度は 2 ㎝を測る。柱穴は 1 基（P1）を検出した。P1 は遺構北東隅の B1 上で検出した。その平面形は長軸 29㎝の円形を呈し、床面からの深度は 9 ㎝を測る。

SI271（Fig.54）

244I・J-2 グリッドで検出した。遺構の南西部および北側は後出する竪穴建物 SI269・SI272 によって削平される。また南部は調査区外へ延びる。したがって、平面形・規模は不明確であるが、検出南北辺 1.9 m、検出東西辺 2.9 mを測る。壁面はほぼ垂直に立ちあがり、検出面から床面までの深度は 4 ㎝を測る。検出南北辺から推測される遺構の主軸は N-50° -W を測る。

遺構内からは柱穴 2 基（P1・P2）を検出した。P1 は遺構北側で検出した。その平面形は長軸 32㎝の円形を呈し、床面からの深度は 7 ㎝を測る。P2 は遺構東側で検出した。その平面形は検出長軸 36㎝の円形を呈し、床面からの深度は 9 ㎝を測る。P1・P2 の芯心距離は 158㎝を測る。

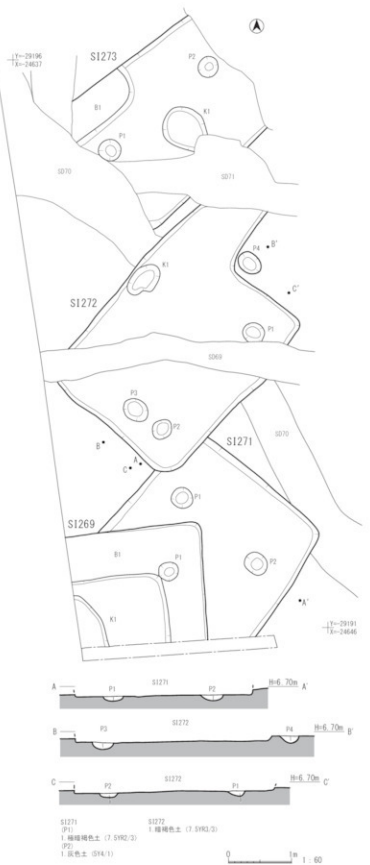



Fig.54　7 区竪穴建物 SI269・SI271・SI272・SI273 実測図

2 － 2　第２面（Fig.55）

a　竪穴建物（ＳＩ）

SI287（Fig.56）

244C-1・2 グリッドで検出した。遺構の大半は撹乱溝によって削平される。したがって、平面形・規模は不明確であるが、検出長辺 2.5 m、検出短辺 1.4 mを測る。壁面はほぼ垂直に立ちあがり、検出面から床面までの深度は 4㎝を測る。検出長辺から推測される遺構の主軸は N-55° -E を測る。

遺構内からは、柱穴２基（P1・P2）を検出した。P1 は遺構西側で検出した。その平面形は長軸 27㎝の円形を呈し、床面からの深度は 9㎝を測る。P2 は遺構東側で検出した。その平面形は長軸 34㎝の円形を呈し、床面からの深度は 9㎝を測る。P1・P2 の芯心距離は 159㎝を測る。

SI285・286（Fig.57）

244G-2・3 グリッドで検出した。両遺構は重複関係にあり、竪穴建物 SI286 が後出する。SI286 はその大半が後出する溝 SD83 によって削平され、東側は調査区外へ延びる。したがって、平面形・規模は不明確である。検出長辺 1.5 m、検出短辺 1.3 mを測る。壁面はほぼ垂直に立ちあがり、検出面から床面までの深度は 11㎝を測る。検出長辺から推測される遺構の主軸は N-47° -W を測る。

遺構内からは、柱穴２基（P1・P2）を検出した。P1 は P2 に後出する。P1 の平面形は長軸 26㎝の円形を呈し、床面からの深度は 8㎝を測る。P2 の平面形は長軸 25㎝の円形を呈し、床面からの深度は 7㎝を測る。

SI285 は後出する溝 SD83 および SI286 によって削平され、東側は調査区外へ延びる。したがって、平面形・規模は不明確である。検出南北辺 3.7 m、検出東西辺 1.8 mを測る。壁面はほぼ垂直に立ちあがり、検出面から床面までの深度は 8㎝を測る。検出長辺から推測される遺構の主軸は N-24° -W を測る。

遺構内からは、柱穴２基（P1・P2）を検出した。P1 は遺構西側で検出した。P1 の平面形は長軸 36㎝の円形を呈し、床面からの深度は 8㎝を測る。P2 は遺構東側で検出した。P2 の平面形は長軸 30㎝の円形を呈し、床面からの深度は 8㎝を測る。P1・P2 の芯心距離は 245㎝を測る。

SI282（Fig.58）

244J-2 グリッドで検出した。遺構の南側の大半は調査区外へ延びる。したがって、平面形・規模は不明確であるが、検出南北辺 0.9 m、東西辺 3.4 mを測る。壁面はほぼ垂直に立ちあがり、検出面から床面までの深度は 4㎝を測る。東西辺から推測される遺構の主軸は N-82° -E を測る。

遺構内からは、柱穴２基（P1・P2）を検出した。P1 は遺構西側で検出した。その平面形は長軸 26㎝の円形を呈し、床面からの深度は 7㎝を測る。P2 は遺構東側で検出した。その平面形は長軸 24㎝の円形を呈し、床面からの深度は 6㎝を測る。P1・P2 の芯心距離は 206㎝を測る。

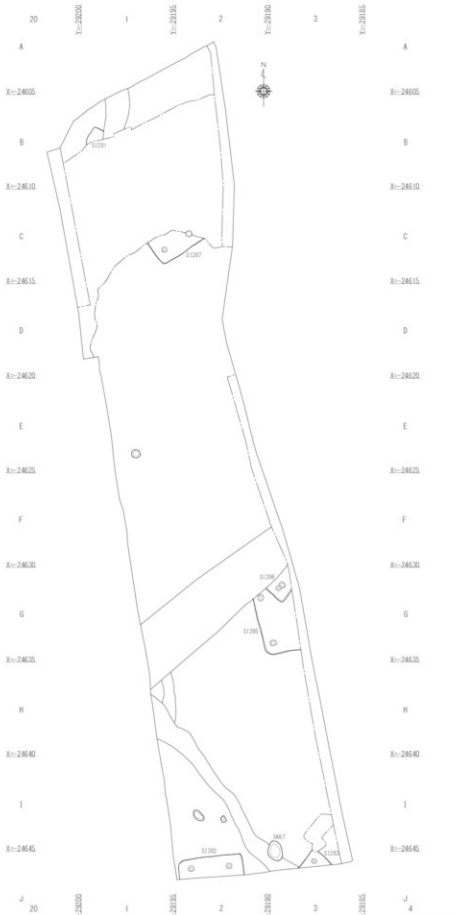



Fig.55　二本木遺跡群（田崎地区）7 区第 2 面遺構配置図

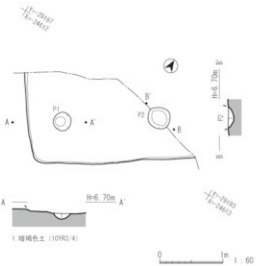



Fig.56　7 区竪穴建物 SI287 実測図

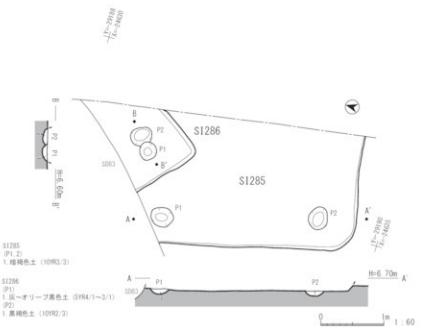



Fig.57　7 区竪穴建物 SI285・SI286 実測図

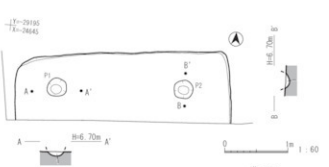



Fig.58　7 区竪穴建物 SI282 実測図

2 － 3　第３面（Fig.60）

a　竪穴建物（ＳＩ）

SI280（Fig.59）

244A・B-1 グリッドで検出した。遺構の西側は撹乱溝によって削平され、北側は調査区外へ延びる。平面形は検出南北辺 3.0 m、検出東西辺 1.8 m を測る、長方形を呈すると推測される。壁面はほぼ垂直に立ちあがり、検出面から床面までの深度は３㎝を測る。検出南北辺から推測される遺構の主軸は N-18° -E を測る。

遺構内からは土坑１基（K1）を検出した。K1 は遺構中央で検出した。その大半は調査区外へ延びており、平面形・規模は不明確である。床面からの深度は３㎝を測り、K1 東側には、最大検出長 106㎝、最大幅 50㎝の焼土の広がりを確認する。よって、K1 は炉跡であると推測する。柱穴は１基（P1）を検出した。P1 は遺構南側で検出した。その平面形は長軸 23㎝の長楕円形を呈し、床面からの深度は 10㎝を測る。

SI288（Fig.61）

244F-2 グリッドで検出した。遺構の西側は撹乱によって削平され、東側は調査区外へ延びる。平面形は長方形を呈すると推測され、検出長辺 2.4 m、検出短辺 1.9 m を測る。壁面はほぼ垂直に立ちあがり、検出面から床面までの深度は 10㎝を測る。検出長辺から推測される遺構の主軸は N-40° -E を測る。

遺構内からは土坑１基（K1）を検出した。K1 は遺構中央で検出した。その平面形は長楕円形を呈し、長軸 73㎝、短軸 65㎝を測る。床面からの深度は４㎝を測る。柱穴は、５基（P1 ～ P5）を検出した。ここでは、主柱穴と推測される P1・P2 について報告する。P2 は遺構南側で検出した。後出する P5 に一部を削平される。その平面形は長軸 26㎝の円形を呈し、床面からの深度は８㎝を測る。P1 は遺構西側で検出した。後出する P4 に一部を削平される。その平面形は長軸 29㎝の円形を呈し、床面からの深度は８㎝を測る。P1・P2 の芯心距離は 142㎝を測る。

SI289（Fig.62）

244I-2・3 グリッドで検出した。遺構の北側は試掘坑によって削平され、西側は未掘域へ延びる。平面形は長軸 3.4 m、短軸 3.1 m を測り、ほぼ方形を呈する。その東側には長さ 186㎝、幅 90㎝の床面を同レベルとした張り出し部を持つ。壁面はほぼ垂直に立ちあがり、検出面から床面までの深度は４㎝を測る。検出南北辺から推測される遺構の主軸は N-30° -E を測る。

遺構内からは土坑１基（K1）を検出した。K1 は遺構東側中央で検出した。その端部は壁面と接し、最大径は 64㎝を測る半楕円形を呈する。床面からの深度は４㎝を測る。柱穴は１基（P1）を検出した。P1 は張り出し部との接続部で検出した。その平面形は長軸 40㎝の円形を呈し、床面からの深度は８㎝を測る。

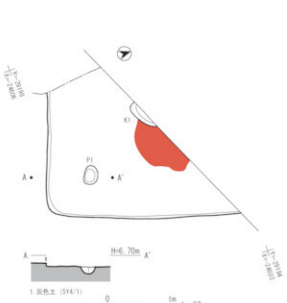



Fig.59　7 区竪穴建物 SI280 実測図

Fig.60　二本木遺跡群（田崎地区）7区第3面遺構配置図

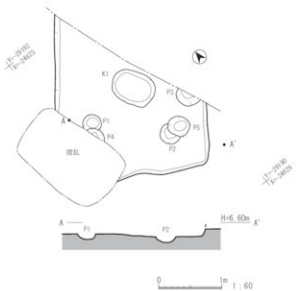



Fig.61　7区竪穴建物 SI288 実測図

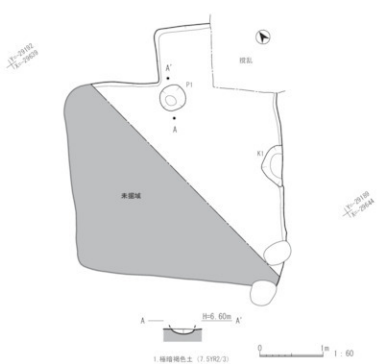



Fig.62　7区竪穴建物 SI289 実測図

6　8区

（1）概要

8区は今回報告する調査区の中では最も北に位置する。その北端は、本遺跡の所在する田崎町と北側の春日町の町境となる東西に走行する道路と接する。この道路は、北側の字「万日屋敷」と南側の字「西原」の字堺の水路として『横手手永略絵図』に描かれている（熊本市教育委員会 2007a）。

8区は 168P-15 グリッドから 183E-11 グリッドにかけて設定された。南北に全長 40.5 m、東西に最大幅 13 mを測る平行四辺形を呈し、その発掘調査面積は 492㎡である。また、本調査区の西側は、熊本市教育委員会によって行われた「二本木遺跡群第 26 次調査区」（熊本市教育委員会 2007a）と隣接している。

本調査区では、北から約 20 m南方の地点を境に遺構の検出状況が異なる。北側では多数の柱穴群や竪穴建物などを検出したが、南側では東西に走行する溝群の集中が主体をなし、柱穴群や竪穴建物などは検出できなかった。検出した遺構群は古代から中世に比定される。

（2）遺構各説

a　柵列（S A）

ここでは同規模の柱穴を直線的に連続して検出したが、その周辺への展開が認められなかったものを柵列として報告する。

SA01（Fig.63）

168Q-13・14 グリッドで検出した。調査区の北端に位置し、全長 3.6 mの東西方向に並ぶ柱穴 P1 ～ P3 の 3 基を検出した。その主軸は E- 6 ° -N を測る。各柱穴の平面形は長楕円形を呈し、長軸は 42 ～ 56cm、検出面からの深度は 6 ～ 27cmを測る。各柱穴間は約 180cmを測る。

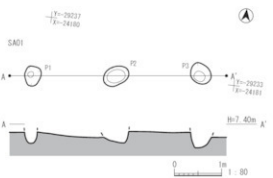



Fig.63　8区柵列 SA01 実測図

SA02（Fig.64）

198S・T-14 グリッドで検出した。調査区中央東端に位置し、全長 5.5 mの南北方向に並ぶ P1 ～ P5 の 5 基を検出した。その主軸は N- 1 ° -W を測り、正方位とほぼ等しい。各柱穴の平面形は楕円形を呈し、長軸は 40（P1・2・4）～ 51（P3）cmを測り、検出面からの深度は 23（P5）～ 36（P4）cmを測る。各柱穴間は 160cm（P2-P3）～ 189cm（P3-P4）を測る。

SA03（Fig.64）

168S・T-12 グリッドで検出した。調査区中央西端に位置し、全長 3.9 mの南北方向に並ぶ P1 ～ P3 の 3 基を検出した。その主軸は N-1 ° -W を測り、正方位とほぼ等しい。各柱穴の平面形は楕円形を呈し、長軸は 57（P1）～ 69（P2）cmを測り、検出面からの深度は 44（P3）～ 71（P1）cmを測る。各柱穴間は 190cm（P1-P2）、202cm（P2-P3）を測る。

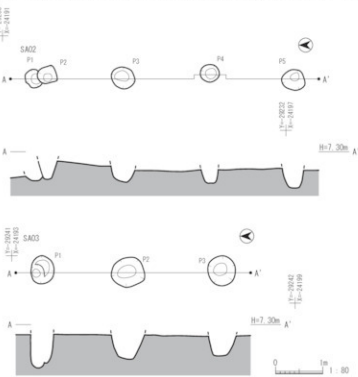



Fig.64　8区柵列 SA02・SA03 実測図

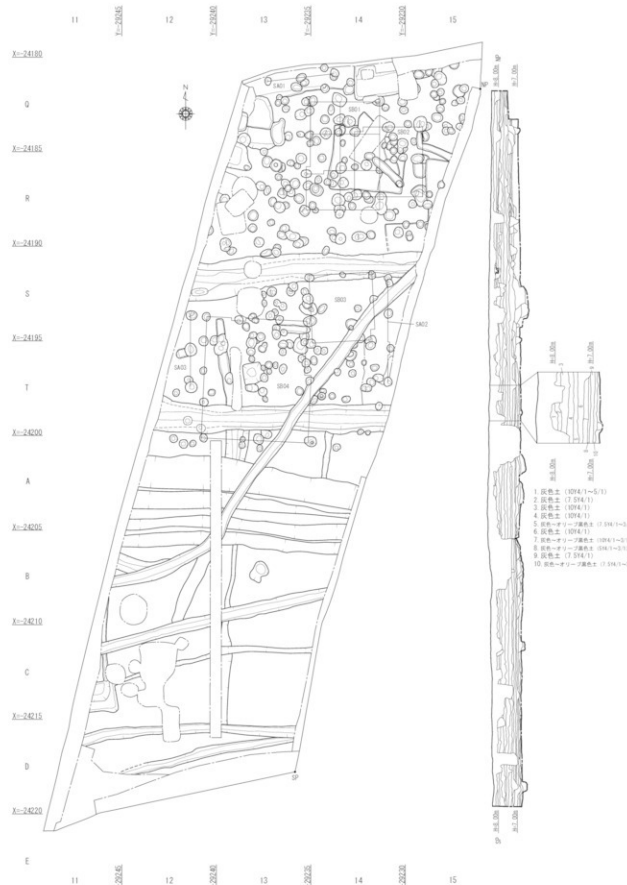



Fig.65　二本木遺跡群（田崎地区）８区遺構配置図

b　掘立柱建物（ＳＢ）

SB01（Fig.66）

168Q・R-14 グリッドで検出した。柱穴は P1 ～ P11 の 11 基を検出した。桁行３間×梁行２間の総柱建物である。P1-P9 軸から想定する建物の主軸は、ほぼ正方位に等しい。建物の規模は 3.6 × 5.6 m を測る。各柱穴の平面形は楕円形を呈し、直径は 39（P8）～ 78（P11）㎝、検出面からの深度は 19（P4）～ 59（P7）㎝を測る。桁側の柱間は、最大桁間（P7-P10）216㎝、最小桁間（P2-P5）164㎝を測る。梁側の柱間は、最大梁間（P2-P3）202㎝、最小梁間（P1-P2）158㎝を測る。

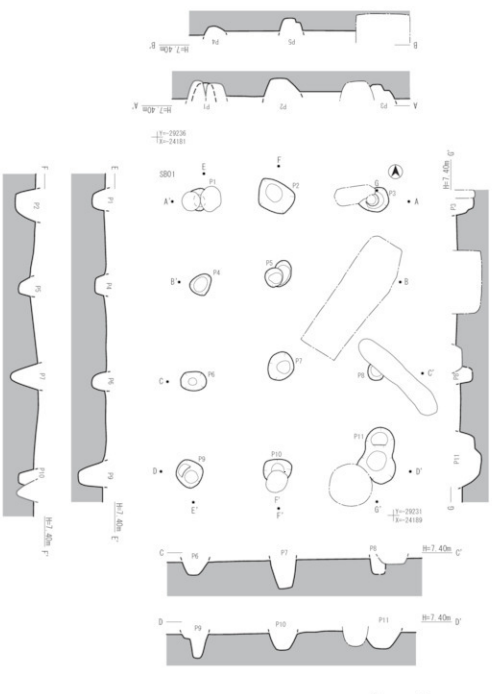



Fig.66　8 区掘立柱建物 SB01 実測図

SB02（Fig.67）

168Q・R-14・15 グリッドで検出した。柱穴は P1 ～ P8 の 8 基を検出した。桁行 2 間×梁行 2 間の側柱建物である。P1-P3 軸から想定する建物の主軸は、ほぼ正方位に等しい。建物の規模は 3.6 × 3.6 m を測る。各柱穴の平面形は楕円形を呈し、直径は 37（P2）～ 113（P5）cm、検出面からの深度は 22（P2）～ 54（P5）cmを測る。桁側の柱間は、最大桁間（P5-P6）210cm、最小桁間（P2-P3）151cmを測る。梁側の柱間は、最大梁間（P4-P5）212cm、最小梁間（P3-P4）137cmを測る。

SB03（Fig.68）

168S-14 グリッドで検出した。柱穴は P1 ～ P7 の 7 基を検出した。桁行 2 間×梁行 2 間の側柱建物である。P1-P3 軸から想定する建物の主軸は、ほぼ正方位に等しい。建物の規模は 3.6 × 3.6 m を測る。各柱穴の平面形は楕円形を呈する。他の遺構による削平のため、規模を計測できる柱穴は少ないが、直径は 30（P5）～ 60（P4）cm、検出面からの深度は 26（P3 ～ 5）～ 86（P2）cmを測る。桁側の柱間は、最大桁間（P4-P5）205cm、最小桁間（P5-P6）150cmを測る。梁側の柱間は最大梁間（P6-P7）153cm、最小梁間（P1-P2）179cmを測る。

SB04（Fig.69）

168S・T-13 グリッドで検出した。柱穴は P1 ～ P12 の 12 基を検出した。構成柱穴 2 基を溝による削平のために消失しているが、桁行 4 間×梁行 3 間の側柱建物であると推定する。P1-P5 軸から想定する建物の主軸は、N- 2 °-E を測り、ほぼ正方位に等しい。建物の規模は 5.4 × 6.5 m を測る。各柱穴の平面形は楕円形を呈する。直径は 28（P6）～ 66（P7）cm、検出面からの深度は 15（P5）～ 60（P7）cmを測る。桁側の柱間は、最大桁間（P8-P9）207cm、最小桁間（P9-P10）116cmを測る。梁側の柱間は、最大梁間（P11-P12）215cm、最小梁間（P10-P11）153cmを測る。

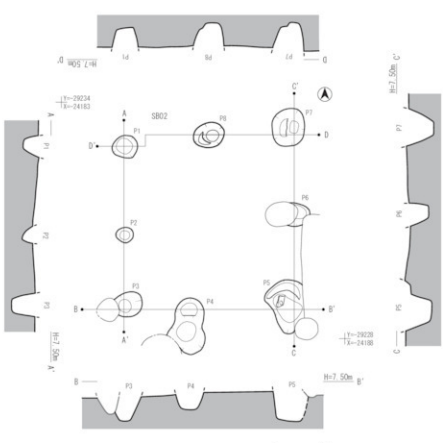



Fig.67　8 区掘立柱建物 SB02 実測図

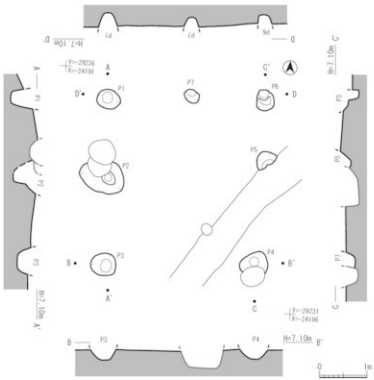



Fig.68　8 区掘立柱建物 SB03 実測図

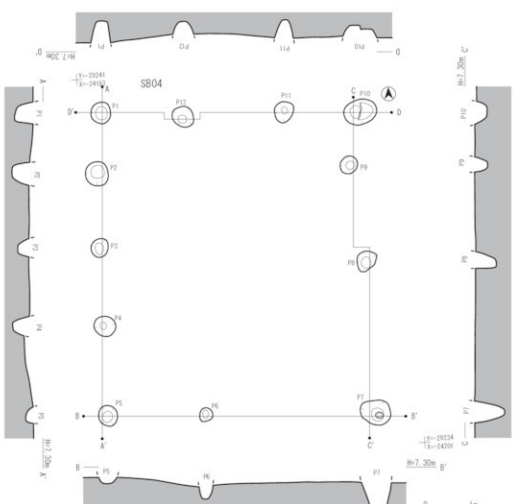



Fig.69　8 区掘立柱建物 SB04 実測図

7　田崎市道切替

（1）概要

田崎市道切替の調査は新幹線建設に伴う市道の切り替え工事に伴って実施された。調査地は6区と7区の間の未調査部分であった229S-2グリッドから244A-1グリッドにかけて設定された。平面形は南北に全長12ｍ、東西に最大幅6.6ｍを測る菱形を呈する。その内、作業が可能な2区域について発掘調査を行った。ここでは、その区域を「①区」「②区」として報告する。

①区は229S-2グリッドに設定した。調査予定地の北側に位置し、南北に全長2.3ｍ、東西に最大幅1.2ｍを測る。②区は229T-1・2グリッドに設定した。調査予定地の南側西部に位置し、南北に全長2.4ｍ、東西に最大幅3ｍを測る。

遺跡の残存状況は良好で、発掘調査は主に4つの遺構検出面を基に行い、竪穴建物10軒、溝8条、土坑4基、柱穴5基を検出した。

調査中は、調査区内外で水道管の移設や下水道管に伴う工事などの他工事が輻輳しており、作業員の安全管理を徹底して行った。

（2）遺構各説

2－1　第1面（Fig.70）

第1面は2層下面で検出した遺構群である。東西に走行する溝6状（SD01～06）、溝SD02より後出する土坑1基（SK01）を検出した。溝の大半は、検出面からの深度が数㎝であり、2層によって削平を受けている。

2－2　第2面（Fig.71）

第2面は3層下面で検出した遺構群である。第2面は②区でのみ遺構を検出した。②区からは南北に走行する溝2状（SD07・08）を検出した。SD07とSD08は重複しており、SD07がSD08に後出する。また、第2面で検出した溝は、第1面で検出した溝群と比較して、その走行軸を約90°違えている。

2－3　第3面（Fig.72）

第3面は4－2層下面で検出した遺構群である。竪穴建物2軒(SI01･02)、柱穴3基(SP01～03)を検出した。

a　竪穴建物（ＳＩ）

SI01（Fig.72）

229S-2グリッドで検出した。①区西側で検出され、その西側の大半は調査区外へ延びる。したがって、平面形・規模は不明である。検出南北辺は0.8ｍを測る。壁面はほぼ垂直に立ちあがり、検出面から床面までの深度は8㎝を測る。

SI02（Fig.72）

229T-1グリッドで検出した。②区西側で検出した。遺構の西側の大半は第2面で検出した溝SD08によって削平されている。したがって、平面形・規模は不明である。検出南北辺は2.6ｍを測る。壁面はほぼ垂直に立ちあがり、検出面から床面までの深度は4㎝を測る。検出南北辺から推測される遺構の主軸はN-10°-Eを測る。遺構埋土は黒褐色シルトの単層である。床面からは、長軸10㎝、短軸7㎝の楕円形に広がる焼土を確認した。

2－4　第4面（Fig.73）

第4面は5－1層下面で検出した遺構群である。竪穴建物8軒（SI03～10）を検出した。以下、竪穴建物について記述する。

SI04（Fig.73）

229S-2グリッドで検出した。①区北側で検出した。重複する竪穴建物SI03・06に後出する。遺構の北側

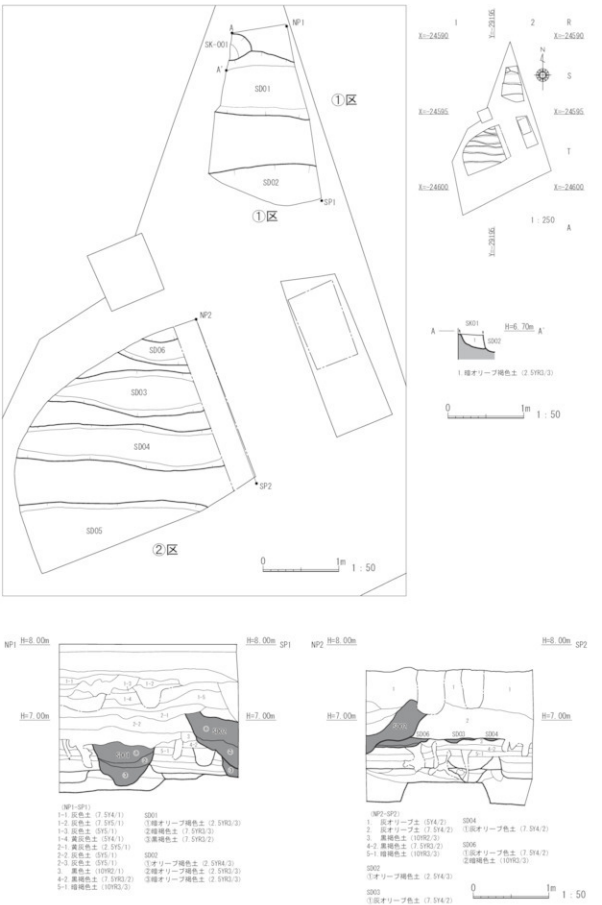



Fig.70　二本木遺跡群（田崎市道切替）第１面

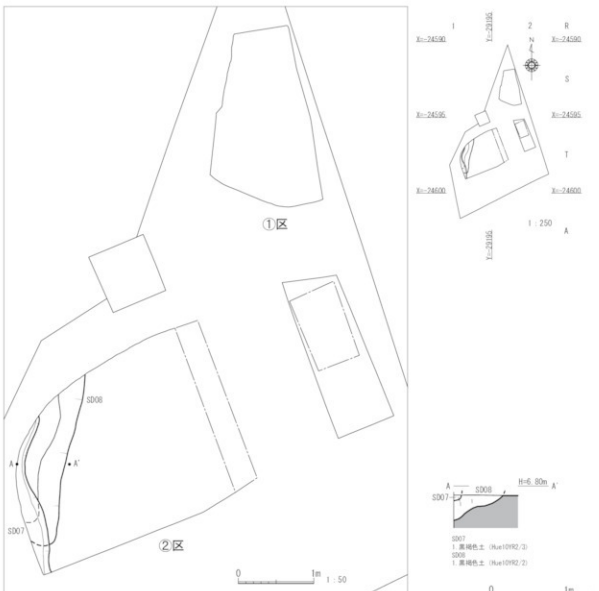



Fig.71　二本木遺跡群（田崎市道切替）第２面

は調査区外へ延びる。したがって、平面形・規模は不明である。検出東西辺は 0.7 mを測る。壁面はほぼ垂直に立ちあがり、検出面から床面までの深度は 14cmを測る。遺構埋土は、暗褐色シルトの単層である。

SI03（Fig.73）

229S-2 グリッドで検出した。①区西側で検出した。遺構の北側は後出する竪穴建物 SI04 によって削平される。また、南側も後出する溝 SD02 によって削平される。さらに、西側は調査区外へ延びる。したがって、平面形・規模は不明である。検出南北辺は 1.8 mを測る。壁面はほぼ垂直に立ちあがり、検出面から床面までの深度は 10cmを測る。検出南北辺から推測される遺構の主軸は N-4° -E を測る。遺構埋土は、黒褐色シルトの単層である。小型壺（PL.27）が出土しており、撮影を行っている。

SI05（Fig.73）

229T-1・2 グリッドで検出した。②区南側で検出した。重複する竪穴建物 SI07・08 に後出する。遺構の南側は調査区外へ延びる。したがって、平面形・規模は不明である。検出南北辺は 1.9 m、検出東西辺は 2.1 mを測る。壁面はほぼ垂直に立ちあがり、検出面から床面までの深度は 28cmを測る。検出南北辺から推測さ

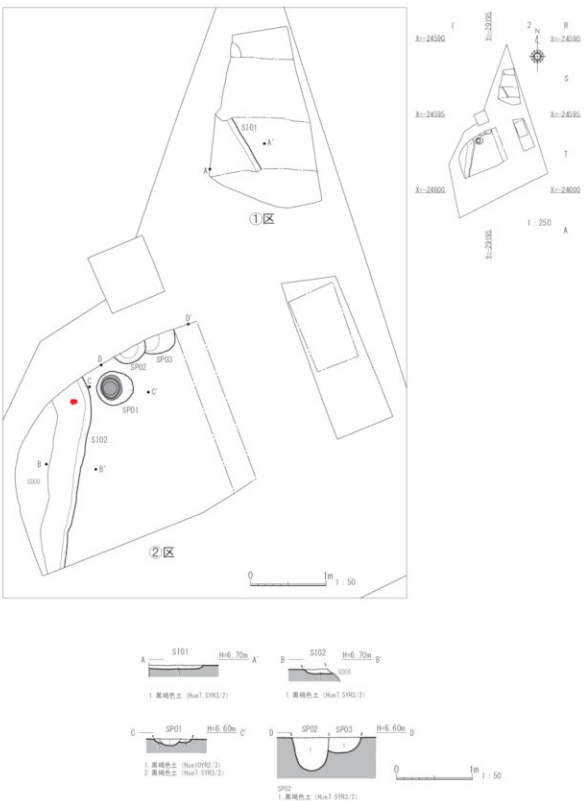



Fig.72　二本木遺跡群（田崎市道切替）第３面

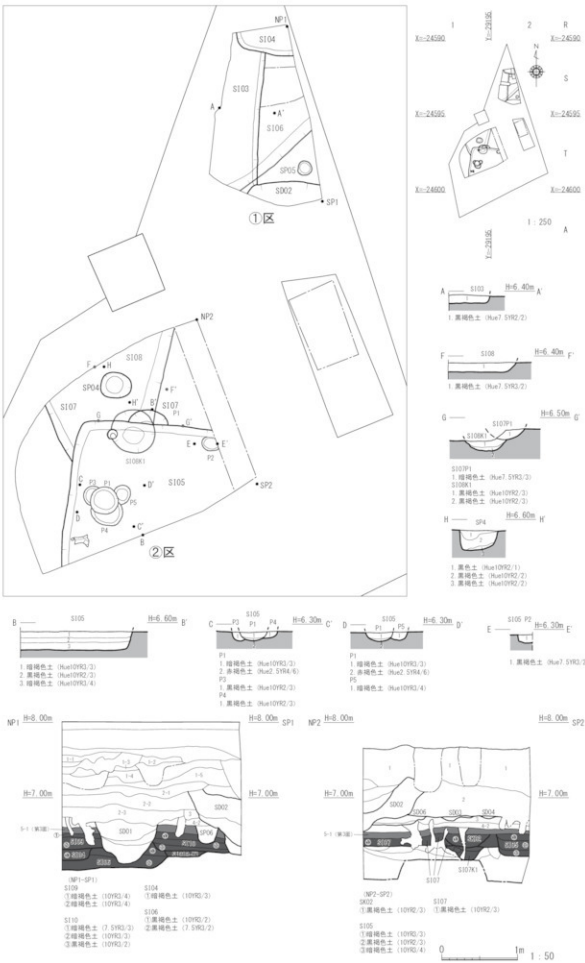



Fig.73　二本木遺跡群（田崎市道切替）第４面

る遺構の主軸は N-8° -E を測る。遺構埋土は暗褐色～黒褐色シルトを主体として３層に分層できた。

遺構内からは柱穴５基(P1～P5)を検出した。P1 は遺構西側中央で検出した。重複する P3～P5 に後出する。その平面形は長軸 35㎝の円形を呈し、床面からの深度は 11㎝を測る。P2 は遺構東側で検出した。その平面形は検出長軸 18㎝の円形を呈し、床面からの深度は８㎝を測る。P3 は P1 の北西で重複して検出した。後出する P1 に削平される。その平面形は検出長軸 11㎝の円形を呈し、床面からの深度は 12㎝を測る。P4 は P1 の南で重複して検出した。後出する P1 に削平される。その平面形は検出長軸 22㎝の円形を呈し、床面からの深度は 10㎝を測る。P5 は P1 の北東で重複して検出した。後出する P1 に削平される。その平面形は検出長軸 20㎝の円形を呈し、床面からの深度は 10㎝を測る。弥生時代後期の甕（PL.27）などが出土しており、撮影を行っている。

SI06（Fig.73）

229S-2 グリッドで検出した。①区で検出した。後出する竪穴建物 SI09・04・03・10 に削平され、遺構の南側以外は調査区外へ延びる。したがって、平面形・規模は不明である。検出東西辺は 1.2 m を測る。壁面はほぼ垂直に立ちあがり、検出面から床面までの深度は 18㎝を測る。遺構埋土は黒褐色シルトを主体として、２層に分層できた。床面には鉄分の沈着した範囲が認められる。弥生時代後期の鉢（PL.27）などが出土しており、撮影を行っている。

SI07（Fig.73）

229T-1 グリッドで検出した。②区で検出した。後出する竪穴建物 SI05 に削平され、遺構の大半は調査区外へ延びる。したがって、平面形・規模は不明である。検出東西辺は 1.3 m を測る。壁面はゆるやかに立ちあがり、検出面から床面までの深度は 27㎝を測る。遺構埋土は、黒褐色シルトの単層である。

土坑（K1）は②区東壁土層断面でのみ検出した。検出長軸は 50㎝、床面からの深度は 17㎝を測り、その断面はすり鉢状を呈する。埋土は暗褐色シルトで２層に分層でき、炭化物を含む。柱穴は１基（P1）を検出した。P1 は遺構中央で検出した。その平面形は検出長軸 52㎝、床面からの深度は 15㎝を測る。

SI08（Fig.73）

229T-1 グリッドで検出した。②区東側で検出した。後出する竪穴建物 SI05・7 に削平され、遺構の西側は調査区外へ延びる。したがって、平面形・規模は不明である。検出南北辺は 1.3 m を測る。壁面はゆるやかに立ちあがり、検出面から床面までの深度は 12㎝を測る。遺構埋土は、黒褐色シルトの単層である。

土坑は１基（K1）を検出した。K1 は遺構東端で検出した。K1 の平面形は、直径 35㎝の円形を呈する。その断面形状はすり鉢状を呈し、床面からの深度は 15㎝である。遺構埋土は、黒褐色シルトを主体として２層に分層できた。下層は炭化物を多く含む。弥生時代後期の甕（PL.27）が出土しており、撮影を行っている。

SI09（Fig.73）

29S-2 グリッドで検出した。①区東壁土層断面でのみ検出した。したがって、平面形・規模は不明である。SI09 は後出する溝 SD01 によって削平され、重複する竪穴建物 SI04･06 に後出する。検出最大長は 0.55 m、検出面から床面までの深度は 20㎝を測る。遺構埋土は暗褐色シルトを主体として、２層に分層できた。

SI10（Fig.73）

229S-2 グリッドで検出した。①区東壁土層断面でのみ検出した。したがって、平面形・規模は不明である。SI10 は後出する溝 SD01･02によって削平され、重複する竪穴建物 SI06 に後出する。検出最大長は 1.0 m を測る。壁面はほぼ垂直に立ちあがり、検出面から床面までの深度は 25㎝を測る。遺構埋土は暗褐色～黒褐色シルトを主体として、３層に分層できた。9 - 1 区東壁土層断面からは、土坑１基(K1)を検出した。検出長軸は 55㎝、床面からの深度は８㎝を測り、その基底は平坦面を形成する。埋土は黒褐色シルトの単層である。弥生時代後期の鉢（PL.27）などが出土しており、撮影を行っている。

8　田崎陸橋

（1）発掘調査の成果（Fig.74）

田崎陸橋の発掘調査は田崎陸橋の付け替え工事に伴って実施され、1区の北方約10 mに位置する。調査予定地は183H-10グリッドから183J-12グリッドにかけて設定された。その平面形は南北に全長8.8 m、東西に最大幅12.9 mを測る長方形を呈し、発掘調査面積は78.6㎡である。

本調査は、今回田崎地区で行われた新幹線建設に伴う発掘調査の最終調査にあたる。そのため、これまで行われた1～8区及び田崎市道切替の発掘調査成果や本調査地周辺で実施された熊本市教育委員会による発掘調査の成果から、本調査地は南北から地形が落ち込む谷地形であったことが推測された。

調査地は、その中央を既設陸橋に伴う石垣やコンクリート基礎の撹乱によって東西方向に大きく削平されていた。したがって、発掘調査は、それらの撹乱を境として北半部と南半部に分けて行った。北半部は既設陸橋の下位周辺に該当する。しかし、上下水道やガス管などの配管による撹乱は少なく、陸橋基礎部分の掘り込みも地山まで達することなく、遺跡の残状況は良好であった。一方、南半部は既設陸橋の南側の隣接部に該当する。こちらは上下水道やガス管などの配管による撹乱が著しく、遺跡の残存状況は悪かった。

本調査で検出した遺構は、溝3条、柱穴5基の計8遺構である。これらの遺構の時期は、古代と近世以降の2時期に大別できる。古代の遺構には、須恵器や土師器が出土した溝（MO8）や柱穴が挙げられる。近世以降では、陶器片や煙管、骨片が出土した近世以降の溝（MO1）が挙げられる。しかし、いずれの遺構も出土遺物はわずかであった。

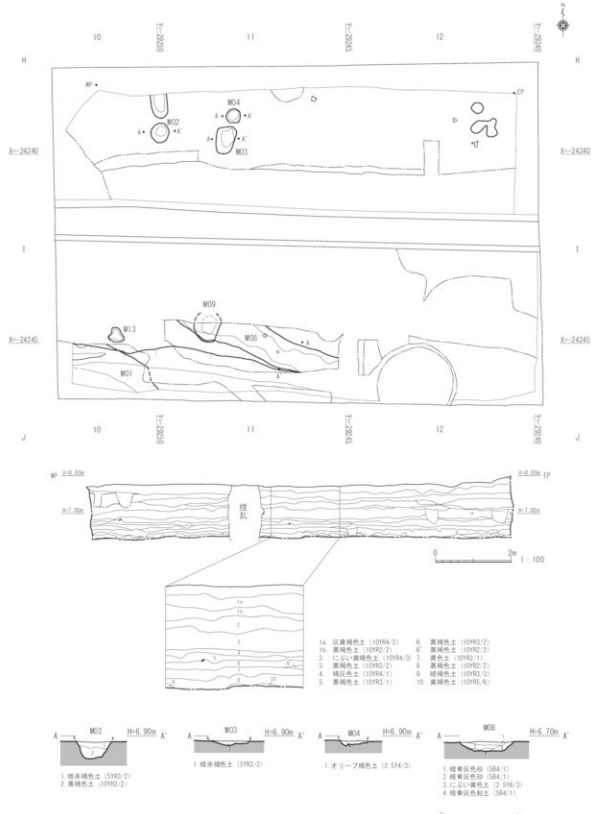



Fig.74　二本木遺跡群（田崎陸橋）

# 第４章　　遺物

## *遺物実測図凡例*

・掲載縮尺は基本 1/3 に大型の土器など一部の土器については 1/4 で掲載している。
特殊遺物についてはその限りではない。
・土器の断面について土器の幅を明確に示すため須恵器・土師器等を問わず断面を黒に統一している。
種別の違いは図中に器面調整等で、明示している。

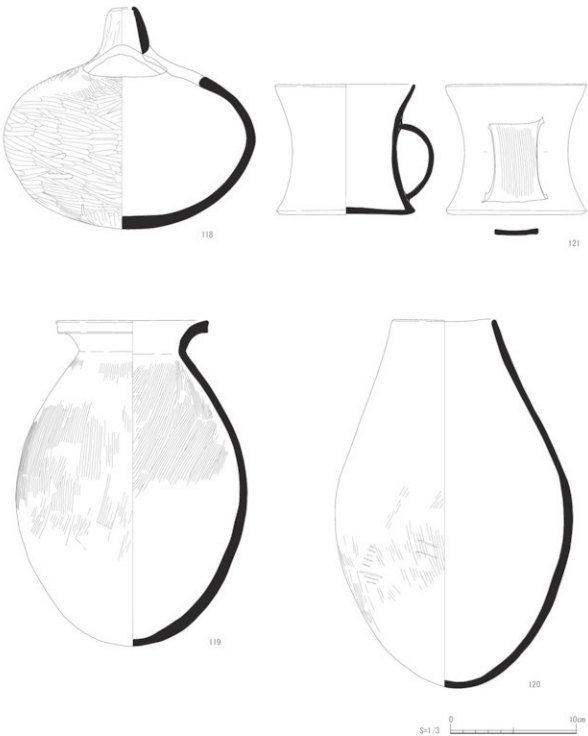



Fig.75　3区井戸 SE99 出土遺物実測図

Fig.76　4区溝SD57（13・14）、竪穴建物SI54（15～18）出土遺物実測図

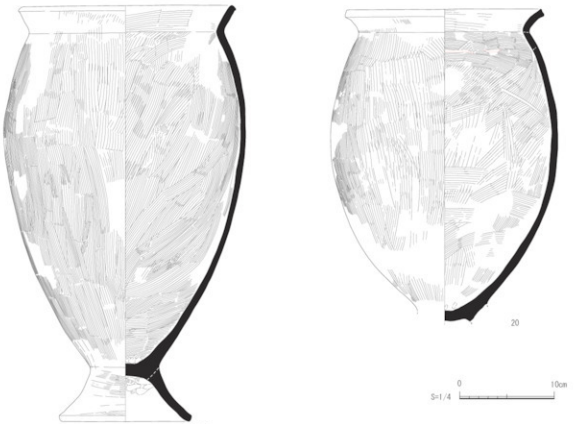



Fig.77　4 区竪穴建物 SI102 出土遺物実測図

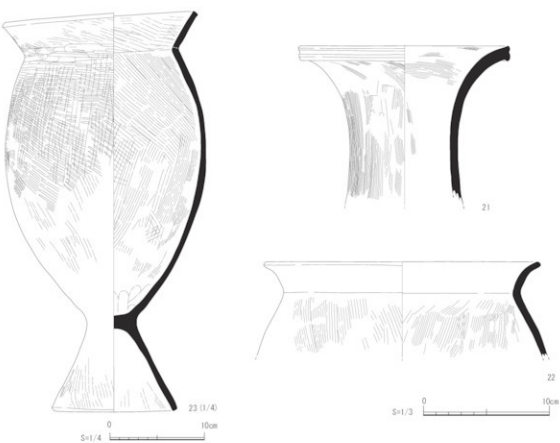



Fig.78　4 区竪穴建物 SI68（21・22）・SI123（23）出土遺物実測図

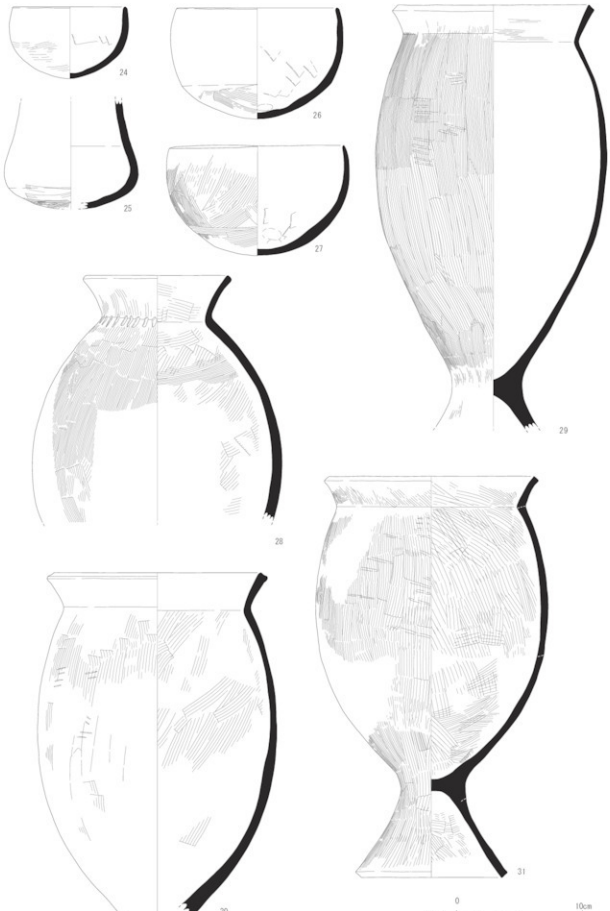



Fig.79　4区竪穴建物 SI129 出土遺物実測図

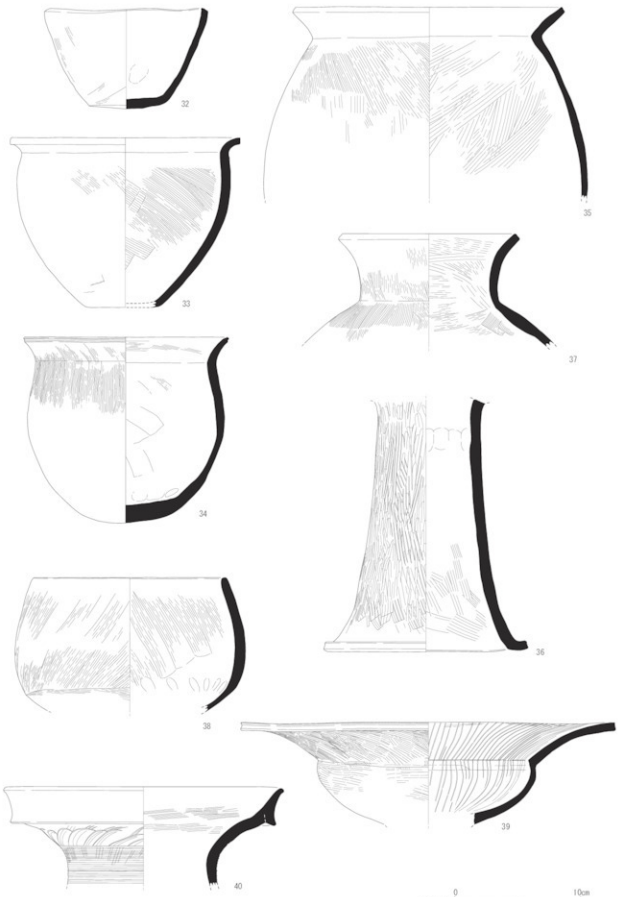



Fig.80　4区竪穴建物SI71（32～35）・SI72（36・37）・SI126（38～40）出土遺物実測図

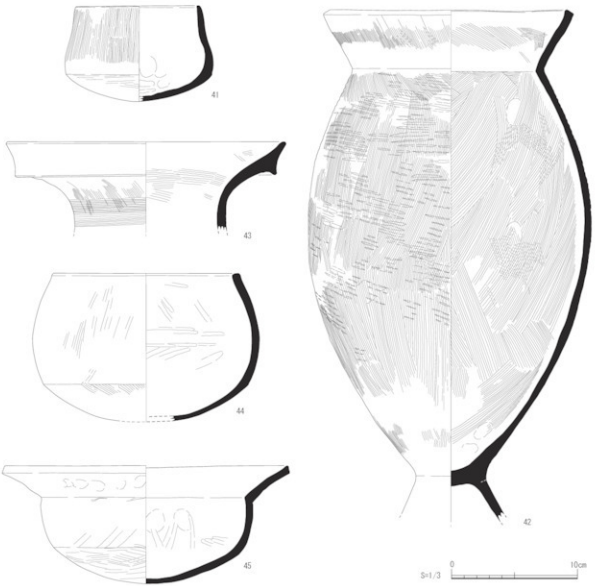



Fig.81　4区竪穴建物 SI60（41 ～ 43）・SI39（44）・SI34（45）出土遺物実測図

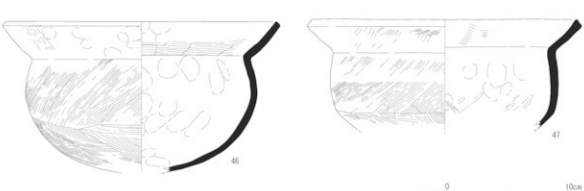



Fig.82　4区 O-16・17Grid 出土遺物実測図－①

Fig.83　4区 N-16・17Grid 出土遺物実測図

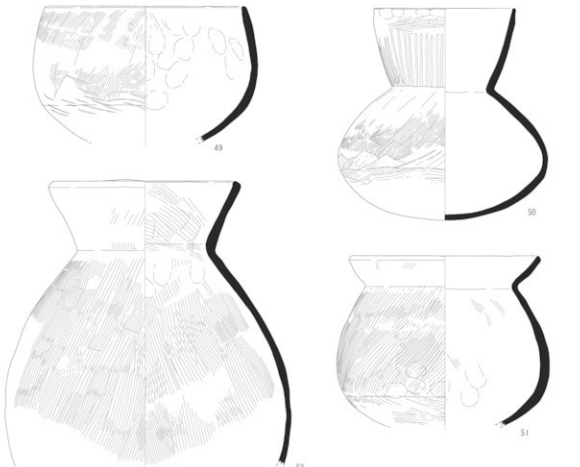



Fig.84　4区O-16・17 Grid出土遺物実測図－②

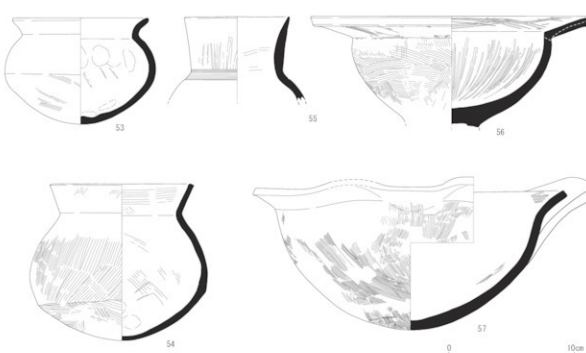



Fig.85　4区調査区出土遺物実測図

Fig.86　6区竪穴建物 SI25 出土遺物実測図－①

Fig.87　6区竪穴建物 SI25 出土遺物実測図－②

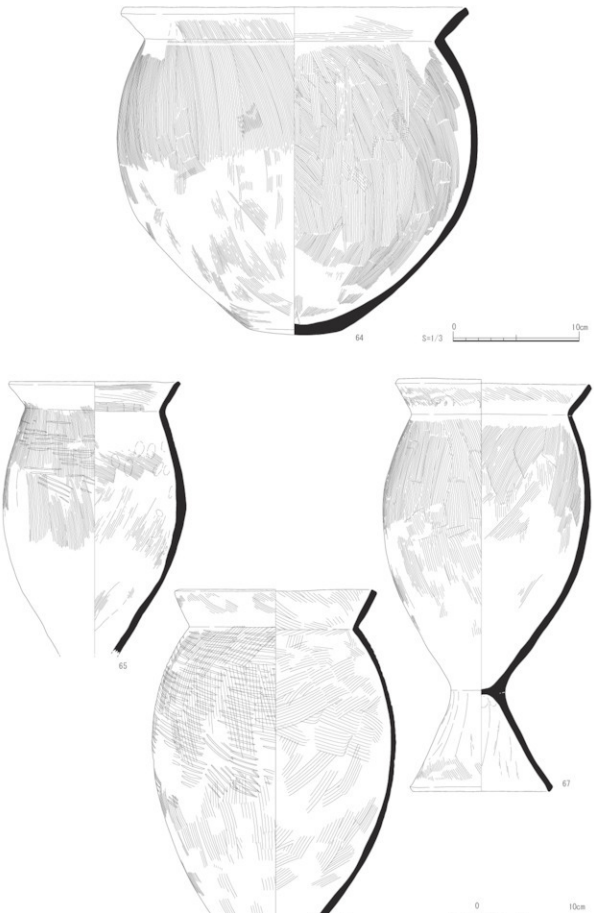



Fig.88　6区竪穴建物SI14（64）・SI15（65～67）出土遺物実測図

Fig.89　6 区竪穴建物 SI230 出土遺物実測図－①

Fig.90　6区竪穴建物SI230出土遺物実測図－②

Fig.91　5区竪穴建物SI02出土遺物実測図

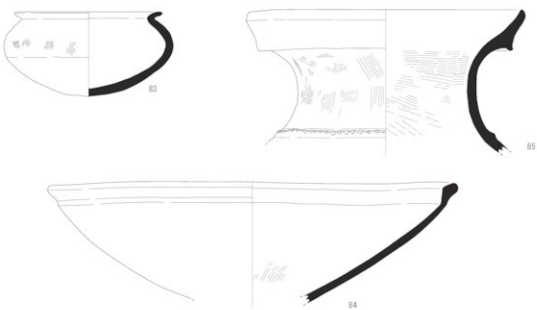



Fig.92　5区竪穴建物SI11出土遺物実測図

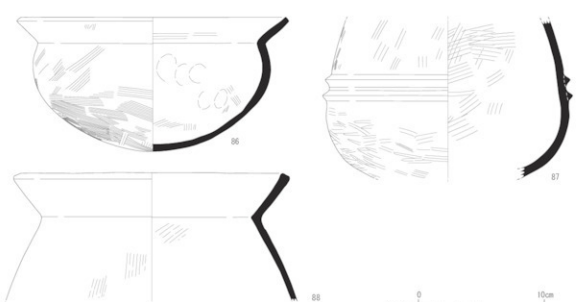



Fig.93　6区竪穴建物SI241出土遺物実測図

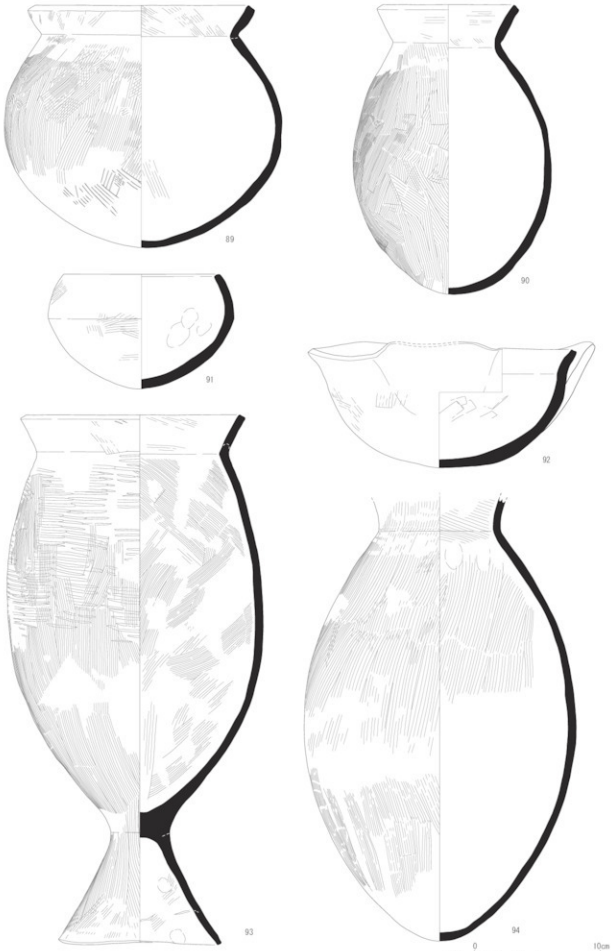



Fig.94　6区竪穴建物 SI223（89・90）・SI266（91 ～ 94）出土遺物実測図

Fig.95　6 区竪穴建物 SI224 出土遺物実測図

Fig.96　6区竪穴建物SI206（99）、土坑SK56（101）、調査区（100・102）出土遺物実測図

Fig.97　8区溝 SD103 出土遺物実測図

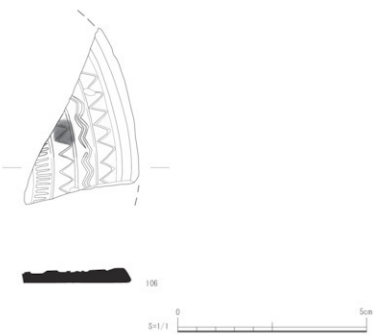



Fig.98　銅鏡

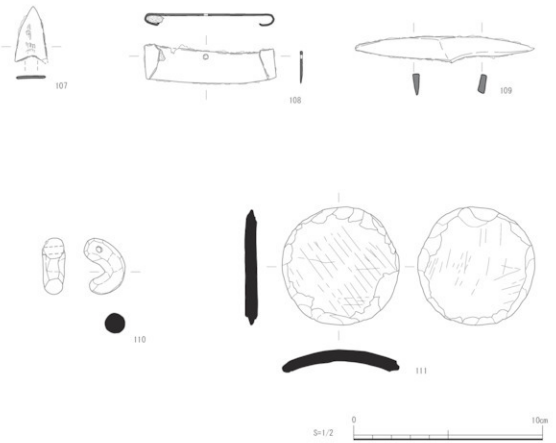



Fig.99　鉄製品・土製品

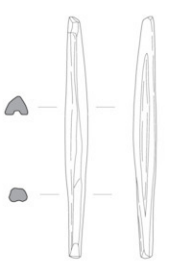



Fig.100　骨角器

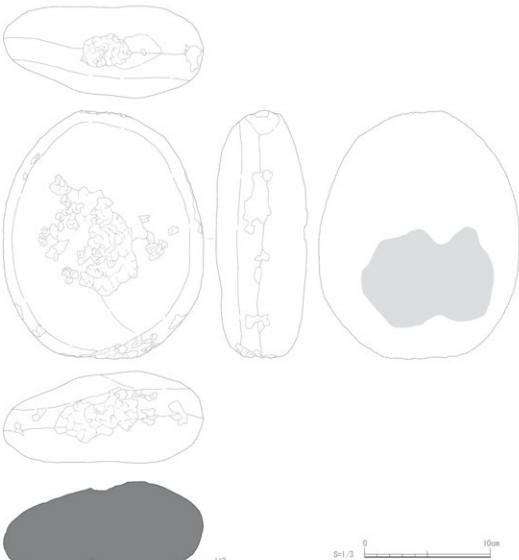



Fig.101　4区竪穴建物 SI108 出土遺物実測図（石製品）

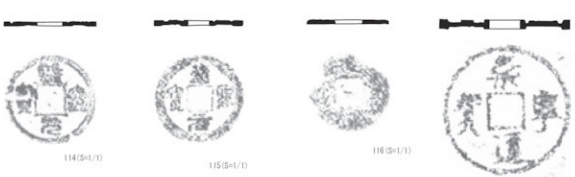



Fig.102　古銭

| 遺物番号 | Fig. No. | PL No. | 遺構番号 | 種別 | 器種 | 法量（cm） | | | | 色調 | | 胎土 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | 口径 | 底径 | 最大胴径 | 残存高 | 外面 | 内面 | |
| 3区 | | | | | | | | | | | | |
| 118 | 75 | 10 | SE99 | 弥生土器 | ひょうたん形土器 | 2.3 | — | 20.0 | 17.6 | にぶい黄橙 10YR7/4 | にぶい黄褐 10YR5/3 | 長石，石英，角閃石 雲母，砂粒，赤色酸化粒 |
| 119 | | | SE99 | 弥生土器 | 長頸壺 | (11.9) | — | 18.4 | 25.8 | にぶい黄橙 10YR7/4 | にぶい黄橙 10YR7/4 | 長石，石英，角閃石 砂粒，赤色酸化粒 |
| 120 | | | SE99 | 弥生土器 | 無頸壺 | 8.3 | — | 18.9 | 29.25 | にぶい橙 7.5YR7/4 | にぶい橙 7.5YR7/6 | 長石，石英，角閃石 赤色酸化粒 |
| 121 | | | SE99 | 弥生土器 | ジョッキ形土器 | 11.1 | 11.0 | — | 10.35 | にぶい橙 7.5YR7/4 | にぶい黄橙 10YR7/3 | 長石，石英，砂粒 赤色酸化粒 |
| 122 | — | | SE99 | 弥生土器 | 丸底鉢 | 18.0 | — | 20.6 | 19.6 | 橙 7.5YR6/8 | 橙 7.5YR7/6 | 長石，角閃石，砂粒 赤色酸化粒 |
| 123 | — | | SE99 | 弥生土器 | 長頸壺 | 12.0 | — | — | 23.2 | にぶい橙 7.5YR6/4 | にぶい橙 7.5YR7/3 | 長石，石英，砂粒 赤色酸化粒 |
| 124 | — | | SE99 | 弥生土器 | 短頸壺 | 10.0 | — | 13.0 | 16.4 | にぶい橙 7.5YR7/4 | にぶい橙 7.5YR6/4 | 雲母，砂粒，赤色酸化粒 |
| 125 | — | | SE99 | 弥生土器 | 鉢 | 16.5 | — | — | 13.4 | にぶい橙 7.5YR6/4 | にぶい橙 7.5YR6/4 | 長石，角閃石，砂粒 赤色酸化粒 |
| 126 | — | | SE99 | 弥生土器 | 丸底鉢 | 14.2 | — | 16.8 | 15.1 | にぶい橙 7.5YR6/4 | にぶい橙 7.5YR6/4 | 角閃石，砂粒，赤色酸化粒 |
| 127 | — | | SE99 | 弥生土器 | 丸底鉢 | 14.7 | — | — | 14.7 | にぶい橙 7.5YR6/4 | にぶい橙 7.5YR7/4 | 角閃石，砂粒，赤色酸化粒 |
| 128 | — | | SE99 | 弥生土器 | 短頸壺 | 9.8 | — | — | 16.5 | にぶい橙 7.5YR6/4 | にぶい橙 7.5YR7/4 | 長石，石英，角閃石，砂粒 赤色酸化粒 |
| 129 | — | | SE99 | 弥生土器 | 長頸壺 | 11.2 | — | — | 20.9 | 橙 7.5YR6/6 | 橙 7.5YR6/6 | 雲母，角閃石，砂粒 赤色酸化粒 |
| 130 | — | | SE99 | 弥生土器 | 長頸壺 | (11.6) | — | — | 23.4 | にぶい橙 7.5YR7/3 | にぶい橙 7.5YR7/3 | 角閃石，雲母，砂粒 赤色酸化粒 |
| 131 | — | | SE99 | 弥生土器 | 長頸壺 | 12.0 | — | 19.6 | 31.3 | にぶい橙 7.5YR7/4 | 橙 7.5YR7/6 | 長石，石英，砂粒 角閃石，赤色酸化粒 |
| 132 | — | | SE99 | 弥生土器 | 長頸壺 | 10.2 | — | 13.2 | 22.1 | にぶい橙 7.5YR6/4 | 橙 7.5YR6/6 | 長石，角閃石，砂粒 赤色酸化粒 |
| 133 | — | — | SD95 | 弥生土器 | 壺 | (11.2) | — | 15.0 | 20.8 | 橙 7.5YR6/6 | 橙 7.5YR6/6 | 角閃石，砂粒，赤色酸化粒 |
| 4区 | | | | | | | | | | | | |
| 13 | 76 | 11 | SD57 | 弥生土器 | 甕 | 19.0 | 14.7 | 23.2 | 43.3 | にぶい黄橙 10YR7/4 | にぶい黄橙 10YR7/4 | 石英，角閃石，雲母 赤色酸化粒 |
| 14 | | | SD57 | 弥生土器 | 甕 | (21.1) | 16.5 | 24.8 | 47.6 | にぶい橙 7.5YR7/4 | 橙 7.5YR7/6 | 長石，角閃石，雲母 赤色酸化粒 |
| 15 | | | SI54 | 弥生土器 | 鉢 | (13.2) | — | (14.1) | 10.1 | にぶい黄橙 10YR7/4 | にぶい黄橙 10YR7/4 | 角閃石，雲母 |
| 16 | | | SI54 | 弥生土器 | 鉢 | (19.6) | — | — | 8.4 | にぶい黄橙 10YR7/4 | にぶい黄橙 10YR7/4 | 石英，角閃石，赤色酸化粒 |
| 17 | | | SI54 | 弥生土器 | 鉢 | (23.4) | — | — | 9.1 | にぶい黄橙 10YR7/4 | にぶい黄橙 10YR7/4 | 石英，角閃石，雲母 赤色酸化粒 |
| 18 | | | SI54 | 弥生土器 | 甕 | (17.9) | — | (18.4) | 22.0 | にぶい黄橙 10YR7/4 | にぶい黄橙 10YR7/4 | 石英，角閃石，雲母 |
| 19 | 77 | 12 | SI102 | 弥生土器 | 甕 | (23.0) | (14.0) | 25.6 | 44.0 | にぶい黄橙 10YR7/4 | にぶい黄橙 10YR7/4 | 長石，角閃石，雲母 |
| 20 | | | SI102 | 弥生土器 | 甕 | 21.0 | — | (24.1) | 33.0 | 灰黄褐 10YR6/2 | にぶい黄橙 10YR7/3 | 黒色粒，雲母 |
| 21 | 78 | — | SI68 | 弥生土器 | 長頸壺 | 16.8 | — | — | 12.6 | 浅黄橙 10YR8/3 | 浅黄橙 10YR8/3 | 長石，石英，角閃石 雲母，赤色酸化粒 |
| 22 | | | SI68 | 弥生土器 | 甕 | (22.0) | — | — | 7.5 | にぶい黄橙 10YR6/3 | 浅黄橙 10YR8/4 | 石英，角閃石，雲母 |
| 23 | 79 | 12 | SI123 | 弥生土器 | 甕 | 20.7 | 13.3 | 21.2 | 42.3 | にぶい黄橙 10YR7/4 | にぶい黄橙 10YR7/4 | 長石，石英，角閃石，雲母 |
| 24 | | | SI129 | 弥生土器 | 鉢 | 9.1 | — | 9.5 | 5.6 | 橙 7.5YR6/6 | 橙 7.5 Y R 7/6 | 長石，石英，角閃石，雲母 |
| 25 | | | SI129 | 弥生土器 | 鉢 | — | — | (10.6) | 8.6 | 浅黄橙 7.5YR8/4 | にぶい黄橙 10YR7/4 | 長石，石英，角閃石 雲母，赤色酸化粒 |
| 26 | | | SI129 | 弥生土器 | 鉢 | 13.0 | — | 13.7 | 8.8 | にぶい橙 7.5YR6/4 | にぶい黄橙 10YR7/3 | 長石，石英，角閃石，雲母 |
| 27 | | | SI129 | 弥生土器 | 鉢 | 13.8 | — | 14.5 | 8.7 | にぶい黄橙 10YR7/2 | にぶい橙 7.5YR7/4 | 長石，石英，角閃石 雲母，赤色酸化粒 |
| 28 | | | SI129 | 弥生土器 | 壺 | (11.8) | — | (19.8) | 19.8 | にぶい黄橙 10YR7/3 | にぶい黄橙 10YR7/2 | 長石，角閃石，雲母 |
| 29 | | | SI129 | 弥生土器 | 甕 | 16.0 | — | (18.4) | 33.5 | にぶい黄橙 10YR7/4 | にぶい黄橙 10YR7/4 | 長石，石英，角閃石 |
| 30 | | | SI129 | 弥生土器 | 甕 | (17.5) | — | (19.0) | 27.6 | 灰褐 7.5YR4/2 | 灰褐 7.5YR6/2 | 長石，石英，角閃石，雲母 |
| 31 | | | SI129 | 弥生土器 | 甕 | (17.0) | (12.0) | (18.5) | 31.8 | にぶい橙 7.5YR6/4 | 浅黄橙 10YR8/4 | 長石，角閃石 |
| 32 | 80 | 13 | SI71 | 弥生土器 | 鉢 | (13.0) | 6.0 | — | 7.9 | にぶい黄橙 10YR7/4 | にぶい黄橙 10YR6/3 | 角閃石，雲母，赤色酸化粒 |
| 33 | | | SI71 | 弥生土器 | 鉢 | 18.2 | (5.8) | — | 13.4 | にぶい黄橙 10YR7/3 | にぶい黄橙 10YR6/3 | 長石，石英，角閃石 赤色酸化粒 |
| 34 | | | SI71 | 弥生土器 | 鉢 | (16.2) | — | — | 14.7 | にぶい黄橙 10YR6/3 | 黒褐 2.5Y3/1 | 角閃石，雲母 |
| 35 | | | SI71 | 弥生土器 | 甕 | 21.5 | — | — | 15.2 | にぶい黄橙 10YR7/3 | にぶい黄橙 10YR7/3 | 長石，石英，角閃石 赤色酸化粒 |
| 36 | | — | SI72 | 弥生土器 | 高杯 | — | 16.2 | — | 20.0 | にぶい黄橙 10YR7/3 | にぶい黄橙 10YR6/3 | 長石，石英 |
| 37 | | | SI72 | 弥生土器 | 壺 | (14.4) | — | — | 8.9 | にぶい黄橙 10YR7/4 | にぶい黄橙 10YR7/4 | 長石，石英 |

| 調整 | | | | 備考 | 遺物番号 |
|---|---|---|---|---|---|
| 外器面 | 内器面 | 外底面 | 内底面 | | |
| 磨き | ハケ目，ナデ | ナデ | ナデ | 有意で丸底、完形、筒状の素口頭部　胴部全体に丁寧な磨き | 118 |
| ハケ目，ナデ | ハケ目，ナデ | ナデ | ナデ | 外器面黒斑 | 119 |
| タタキ，ハケ目，ナデ | ナデ | タタキ，ハケ目，ナデ | ナデ | 外器面黒斑 | 120 |
| ナデ | ナデ | ナデ | ナデ | 肥手のみにハケ目 | 121 |
| ハケ目，ナデ | ハケ目，ナデ | ナデ | ハケ目，指頭圧痕 | 底面の１孔は内面剥離痕が新しい為調査中に穿たれた可能性が高い外器面黒斑　126,127 とサイズ、成形は近似している | 122 |
| ハケ目，ナデ | ナデ | ナデ | ハケ目 | 外器面黒斑　130 とサイズと施文も同じ | 123 |
| ハケ目，ナデ | ハケ目，ナデ | ナデ | ハケ目，ナデ<br>指頭圧痕 | 頭部に横位櫛描沈線文、櫛描波状文を巡らす | 124 |
| ハケ目，ナデ | ナデ | ナデ | ナデ，指頭圧痕 | 外器面黒斑 | 125 |
| ハケ目，ナデ | ハケ目，ナデ | ナデ | ナデ，指頭圧痕 | 外器面黒斑 122,127 と作りは同じ | 126 |
| ハケ目，ナデ | ハケ目，ナデ | ナデ | ナデ，指頭圧痕 | 内外器面黒斑 122、126 とサイズ、成形は近似している | 127 |
| ハケ目，ナデ | ハケ目，ナデ | ナデ | ナデ，指頭圧痕 | 土器の成形は 126,127 と近似している　外器面黒斑 | 128 |
| ハケ目，ナデ | ハケ目，ナデ | ナデ | ナデ，指頭圧痕 | 頭部に連続斜行沈線文に近似したハケ目が残存，外器面黒斑 132 とサイズ同じ | 129 |
| ナデ，ミガキ | ハケ目，ナデ | ナデ | ハケ目，ナデ<br>指頭圧痕 | 頭部に横位櫛描沈線文、櫛描波状文を巡らす、123 とサイズも施文も同じ外器面黒斑 | 130 |
| ハケ目，ナデ | ハケ目，ナデ | ナデ | ナデ | 外器面黒斑 | 131 |
| ハケ目，ナデ | ナデ | ナデ | ナデ，指頭圧痕 | 口縁端部が鉛直に立つ　外器面黒斑　129 とサイズ同じ | 132 |
| ハケ目，ナデ，磨き | ハケ目，ナデ | ナデ | ハケ目 | 胴部屈曲の下半 1cm の位置に外面からの打撃により２穴が１cm 間隔で穿たれている　口縁部暗文 | 133 |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| ナデ，ハケ目<br>ハケ目後ナデ | ナデ，ハケメ目<br>ハケ目後ナデ | ハケメ目，ハケ目後ナデ，指頭圧痕 | ハケ目後ナデ<br>指頭圧痕 | (台付甕) 外器面黒斑 | 13 |
| ハケ目，ハケ目後ナデ | ハケ目，ハケ目後ナデ | ハケ目後ナデ | ハケ目後ナデ | (台付甕) 外器面黒斑 | 14 |
| ナデ，ハケ目後ナデ | ナデ，ハケ目後ナデ<br>指頭圧痕 | ハケ目後ナデ | ハケ目後ナデ<br>指頭圧痕 | 外器面黒斑 | 15 |
| ハケ目後ナデ | ハケ目後ナデ | ハケ目後ナデ | ハケ目後ナデ | 外器面黒斑 | 16 |
| ハケ目後ナデ | ハケ目後ナデ<br>工具ナデ | ハケ目後ナデ | ハケ目後ナデ<br>工具ナデ | | 17 |
| ナデ，ハケ目後ナデ | ナデ，ハケ目，ハケ目後ナデ，指頭圧痕 | — | — | 外器面黒斑 | 18 |
| ナデ，ハケ目後ナデ<br>ハケ目 | ナデ，ハケ目，指頭圧痕 | ハケ目後ナデ | ナデ，ハケ目後ナデ<br>指頭圧痕 | (台付甕) 内外器面黒斑　外器面煤付着 | 19 |
| ナデ，ハケ目後ナデ<br>ハケ目 | ナデ，ハケ目後ナデ<br>ハケ目，指頭圧痕 | — | ナデ | (台付甕) 外器面黒斑　内外器面煤付着 | 20 |
| ハケ目後ナデ，ハケ目 | ハケ目後ナデ<br>ハケ目（摩耗） | — | — | 沈線 | 21 |
| ナデ，ハケ目後ナデ | ナデ，ハケ目後ナデ | — | — | | 22 |
| ナデ，ハケ目後ナデ<br>タタキ後ハケ目 | ナデ，ハケ目後ナデ<br>ハケ目 | ナデ，ハケ目後ナデ | ナデ，ハケ目後ナデ | (台付甕) 外器面黒斑　外器面煤付着　内器面に内容物による黒変 | 23 |
| ナデ，ハケ目後ナデ | ナデ，工具ナデ | ハケ目後ナデ | ナデ | | 24 |
| ナデ | ナデ | ハケ目 | ナデ | | 25 |
| ナデ，ハケ目後ナデ | ナデ，工具ナデ | ハケ目後ナデ | ナデ，指頭圧痕 | 内外底面黒斑 | 26 |
| ナデ，ハケ目後ナデ | ナデ，工具ナデ | ハケ目後ナデ | ナデ，指頭圧痕 | 外器面黒斑 | 27 |
| ナデ，ハケ目後ナデ | ナデ，ハケ目後ナデ | — | — | 刺突文 | 28 |
| ナデ，ハケ目後ナデ<br>タタキ後ハケ目 | ナデ，ハケ目後ナデ | ハケ目後ナデ | ナデ | (台付甕) 外器面黒斑 | 29 |
| ナデ，タタキ後<br>ハケ目，工具ナデ | ナデ，ハケ目後ナデ | — | — | 外器面黒斑 | 30 |
| ナデ，タタキ後<br>ハケ目，ハケ目 | ハケ目後ナデ，ハケ目 | ナデ，ハケ目後ナデ<br>ハケ目 | ナデ，ハケ目後ナデ | (台付甕) | 31 |
| ナデ，ハケ目後ナデ | ナデ，指頭圧痕 | 工具ナデ | ナデ，指頭圧痕 | 外器面黒斑 | 32 |
| ナデ，工具ナデ | ナデ，ハケ目後ナデ | — | — | 外器面黒斑 | 33 |
| ナデ，ハケ目後ナデ | ハケ目後ナデ<br>工具ナデ | ナデ | 工具ナデ，指頭圧痕 | 沈線 | 34 |
| ナデ，ハケ目<br>ハケ目後ナデ | ナデ，ハケ目 | — | — | 外器面黒斑 | 35 |
| — | — | ナデ，ハケ目後磨き | ナデ，ハケ目後ナデ<br>指頭圧痕 | 杯部欠損 | 36 |
| ナデ，ハケ目<br>ハケ目後ナデ | ハケ目後ナデ | — | — | | 37 |

| 遺物番号 | Fig. No. | PL No. | 遺構番号 | 種別 | 器種 | 法量（cm） | | | | 色調 | | 胎土 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | 口径 | 底径 | 最大胴径 | 残存高 | 外面 | 内面 | |
| 38 | 80 | 13 | SI126 | 弥生土器 | 鉢 | 15.3 | — | 18.3 | 10.7 | にぶい橙 7.5YR6/4 | にぶい橙 7.5YR6/4 | 白色粒 |
| 39 | | | SI126 | 弥生土器 | 高杯 | 29.7 | — | — | 8.1 | 浅黄橙 7/5YR8/6 | 浅黄橙 7/5YR8/6 | 長石，石英，角閃石，雲母 |
| 40 | | | SI126 | 弥生土器 | 複合口縁壺 | 22.2 | — | — | 7.9 | 橙 5YR6/6 | 明褐色 5YR5/6 | 長石，石英，角閃石 |
| 41 | 81 | | SI60 | 弥生土器 | 鉢 | 9.8 | — | 11.8 | 7.6 | にぶい橙 7.5YR6/4 | にぶい橙 7.5YR6/4 | 石英，角閃石 |
| 42 | | | SI60 | 弥生土器 | 甕 | (19.8) | — | 22.4 | 40.6 | にぶい黄橙 10YR7/4 | にぶい黄橙 10YR7/4 | 長石，角閃石，雲母<br>赤色酸化粒 |
| 43 | | — | SI60 | 弥生土器 | 複合口縁壺 | (22.2) | — | — | 7.2 | にぶい橙 7.5YR6/4 | にぶい橙 7.5YR6/4 | 角閃石，雲母 |
| 44 | | 14 | SI39 | 弥生土器 | 鉢 | (14.6) | — | (18.0) | 11.7 | にぶい褐 7.5YR6/3 | にぶい褐 7.5YR6/3 | 雲母，赤色酸化粒 |
| 45 | | | SI34 | 弥生土器 | 鉢 | 22.8 | — | — | 9.4 | にぶい黄橙 10YR7/4 | にぶい黄橙 10YR6/3 | 角閃石，雲母，赤色酸化粒 |
| 46 | 82 | 14・15 | O — 16.17 | 弥生土器 | 鉢 | (22.0) | — | — | 11.9 | にぶい橙 7.5YR7/4 | にぶい橙 7.5YR7/4 | 角閃石，赤色酸化粒 |
| 47 | 82 | | O — 16.17 | 弥生土器 | 鉢 | (21.8) | — | — | 8.8 | にぶい橙 7.5YR7/4 | にぶい褐 7.5YR6/3 | 角閃石，雲母 |
| 48 | 83 | 14・15 | N — 16.17 | 弥生土器 | 重弧文長頸壺 | 16.7 | — | (24.4) | 40.9 | 浅黄橙 10YR8/3 | にぶい黄橙 10YR7/3 | 長石，角閃石，雲母 |
| 49 | 84 | 15 | O — 16.17 | 弥生土器 | 壺 | (15.6) | — | (18.0) | 10.7 | にぶい橙 7.5YR7/4 | にぶい橙 7.5YR7/4 | 長石，赤色酸化粒 |
| 50 | | | O — 16.17 | 弥生土器 | 壺 | 11.2 | — | 16.7 | 16.8 | 浅黄橙 7.5YR8/4 | 浅黄橙 7.5YR8/3 | 長石，角閃石，雲母 |
| 51 | | 14・15 | O — 16.17 | 弥生土器 | 鉢 | (15.2) | — | 16.9 | 13.5 | にぶい橙 7.5YR7/4 | にぶい橙 7.5YR7/4 | 角閃石，赤色酸化粒 |
| 52 | | | o — 16.17 | 弥生土器 | 壺 | 15.2 | — | (23.2) | 22.6 | にぶい黄橙 10YR7/4 | にぶい黄橙 10YR7/4 | 石英，角閃石，赤色酸化粒 |
| 53 | 85 | — | 調査区 | 弥生土器 | 鉢 | 10.8 | — | 12.0 | 8.4 | にぶい黄橙 10YR7/4 | にぶい黄橙 10YR7/4 | 長石，石英，角閃石<br>雲母，赤色酸化粒 |
| 54 | | | 調査区 | 弥生土器 | 壺 | (11.4) | — | 14.1 | 12.4 | にぶい橙 7.5YR7/4 | にぶい橙 7.5YR7/4 | 長石，赤色酸化粒 |
| 55 | | | 調査区 | 弥生土器 | 壺 | (8.3) | — | — | 6.6 | にぶい黄橙 10YR6/4 | にぶい黄橙 10YR6/4 | 長石，角閃石，雲母<br>赤色酸化粒 |
| 56 | | | 調査区 | 弥生土器 | 台付鉢 | 22.4 | — | — | 8.8 | にぶい橙 7.5YR7/4 | にぶい橙 7.5YR7/3 | 長石，角閃石，雲母 |
| 57 | | 15 | 調査区 | 弥生土器 | 片口鉢 | 25.7 | — | — | 12.1 | 浅黄橙 7.5YR8/4 | 浅黄橙 10YR8/3 | 長石，石英，角閃石，雲母 |
| **5.6 区** | | | | | | | | | | | | |
| 58 | 86 | 3・16 | SI25 | 弥生土器 | 鉢 | (16.5) | — | 14.1 | 8.1 | にぶい黄橙 10YR7/3 | にぶい黄橙 10YR7/3 | 長石，角閃石，雲母<br>赤色酸化粒 |
| 59 | | | SI25 | 弥生土器 | 壺 | 15.2 | - | 19.1 | 18.1 | にぶい橙 7.5YR7/4 | にぶい橙 7.5YR7/4 | 長石，石英，角閃石<br>微細〜２mmの 砂粒<br>赤色酸化粒 |
| 60 | | | SI25 | 弥生土器 | 甕 | (20.1) | - | (22.8) | 22.1 | 橙 7.5YR 7/6 | にぶい橙 7.5YR7/4 | 長石，石英，角閃石<br>微細〜２mmの砂粒<br>赤色酸化粒 |
| 61 | | | SI25 | 弥生土器 | 甕 | 18.7 | — | — | 25.2 | にぶい橙 7.5YR7/3 | 浅黄橙 7.5YR8/3 | 長石，角閃石，雲母<br>赤色酸化粒 |
| 62 | | | SI25 | 弥生土器 | 甕 | (21.0) | — | (24.9) | 42.5 | 淡橙 5YR8/4 | 淡橙 5YR8/4 | 長石，石英，角閃石，雲母 |
| 63 | 87 | 3・16<br>17 | SI25 | 弥生土器 | 複合口縁壺 | 30.0 | — | 58.9 | 86.7 | にぶい橙 7.5YR6/4 | にぶい橙 7.5YR6/4 | 長石，石英，角閃石<br>雲母，赤色酸化粒 |
| 64 | 88 | 20 | SI14 | 弥生土器 | 鉢 | 27.6 | 7.4 | 28.6 | 26.0 | にぶい黄橙 10YR7/4 | にぶい黄橙 10YR6/3 | 長石，石英，角閃石 |
| 65 | | | SI15 | 弥生土器 | 甕 | 18.2 | - | 19.4 | 28.8 | 橙 5YR 7/6 | 橙 5YR 6/6 | 長石，石英，角閃石<br>雲母，１〜５mmの砂粒 |
| 66 | | | SI15 | 弥生土器 | 甕 | (21.4) | — | (25.8) | 35.5 | にぶい橙 7.5YR7/4 | にぶい橙 7.5YR7/4 | 石英，角閃石，赤色酸化粒 |
| 67 | | | SI15 | 弥生土器 | 甕 | 20.8 | 15.1 | (22.0) | 43.7 | にぶい橙 7.5YR7/4 | 橙 7.5YR7/6 | 長石，石英，角閃石，雲母 |
| 68 | 89 | 4・18<br>19 | SI230 | 弥生土器 | 鉢 | 9.2 | — | — | 6.0 | にぶい黄橙 10YR7/4 | 橙 7.5YR6/6 | 長石，石英，赤色酸化粒 |
| 69 | | | SI230 | 弥生土器 | 鉢 | 18.1 | — | — | 8.0 | にぶい橙 7.5YR6/4 | にぶい橙 7.5YR7/4 | 長石，石英，赤色酸化粒 |
| 70 | | | SI230 | 弥生土器 | 鉢 | 19.5 | — | — | 9.1 | にぶい橙 7.5YR7/3 | 浅黄橙 7.5YR8/4 | 長石，石英，角閃石<br>赤色酸化粒 |
| 71 | | | SI230 | 弥生土器 | 鉢 | (19.6) | — | — | 10.5 | にぶい黄橙 10YR6/4 | にぶい黄橙 10YR6/4 | 長石，石英，角閃石<br>赤色酸化粒 |
| 72 | | | SI230 | 弥生土器 | 鉢 | 14.5 | — | — | 10.1 | 浅黄橙 10YR6/4 | 褐灰 10YR6/1 | 角閃石，雲母，砂粒<br>赤色酸化粒 |
| 73 | | | SI230 | 弥生土器 | 鉢 | 14.6 | — | — | 11.1 | にぶい黄橙 10YR7/4 | にぶい黄橙 10YR7/4 | 長石，石英，雲母<br>赤色酸化粒 |
| 74 | | | SI230 | 弥生土器 | 鉢 | (16.6) | — | — | 10.7 | にぶい黄橙 10YR7/4 | にぶい黄橙 10YR6/3 | 角閃石，雲母，砂粒<br>赤色酸化粒 |
| 75 | | | SI230 | 弥生土器 | 壺 | 12.2 | 19.6 | — | 21.5 | 灰白 7.5YR8/2 | 灰白 7.5YR8/2 | 長石，石英，角閃石<br>雲母，赤色酸化粒 |
| 76 | | | SI230 | 弥生土器 | 壺 | 11.8 | — | 15.7 | 22.4 | にぶい橙 7.5YR7/4 | にぶい黄橙 10YR7/3 | 長石，赤色酸化粒 |
| 77 | 90 | | SI230 | 弥生土器 | 壺 | 13.0 | — | 18.4 | 22.7 | にぶい橙 7.5YR7/4 | にぶい橙 7.5YR7/4 | 長石，石英，赤褐色粒 |
| 78 | | | SI230 | 弥生土器 | 甕 | (19.4) | — | (21.2) | 30.1 | にぶい橙 7.5YR6/4 | 灰黄褐 10YR6/2 | 長石，石英，赤色酸化粒 |
| 79 | | | SI230 | 弥生土器 | 甕 | — | 15.0 | (22.1) | 41.8 | にぶい黄橙 10YR7/3 | にぶい橙 7.5YR7/4 | 長石，石英，角閃石<br>赤色酸化粒 |

| 調整 | | | | 備考 | 遺物番号 |
|---|---|---|---|---|---|
| 外器面 | 内器面 | 外底面 | 内底面 | | |
| ナデ，ハケ目後ナデ<br>ハケ目 | ナデ，ハケ目後ナデ<br>指頭圧痕 | — | — | | 38 |
| ナデ，ハケ目，ハケ目後ナデ，一部磨き | ハケ目後ナデ後暗文 | — | — | 内外器面黒斑　内器面暗文 | 39 |
| ナデ，ハケ目 | ナデ，ハケ目後ナデ | — | — | 柵描文　内器面煤付着 | 40 |
| ナデ，ハケ目 | ナデ，指頭圧痕 | ナデ，ハケ目 | ナデ，指頭圧痕 | 外器面黒斑 | 41 |
| ハケ目後ナデ<br>タタキ後ハケ目 | ハケ目後ナデ<br>ハケ目，指頭圧痕 | ハケ目後ナデ | ナデ | (台付甕) 外器面黒斑 | 42 |
| ナデ，ハケ目後ナデ | ナデ，ハケ目後ナデ | — | — | 柵描文 | 43 |
| ナデ，ハケ目後ナデ | ナデ，ナデ後磨き，磨き | ハケ目後ナデ | 磨き（摩耗の為不明瞭） | 外器面黒斑 | 44 |
| ナデ，ハケ目後ナデ | ナデ，磨き，指頭圧痕 | ハケ目後ナデ | 磨き（摩耗の為不明瞭） | 外器面黒斑 | 45 |
| ナデ，ハケ目後ナデ<br>指頭圧痕 | ナデ，ハケ目後ナデ<br>指頭圧痕 | ハケ目後ナデ | ナデ，指頭圧痕 | | 46 |
| ハケ目後ナデ，ハケ目 | ハケ目後ナデ，ハケ目<br>指頭圧痕，一部磨き | — | — | | 47 |
| ナデ，ハケ目後ナデ | ナデ，ハケ目，指頭圧痕 | ナデ | — | 外器面黒斑　柵描文，波状文，重弧文 | 48 |
| ハケ目後ナデ | ナデ，ハケ目後ナデ<br>指頭圧痕 | ナデ | ナデ，指頭圧痕 | 外器面黒斑 | 49 |
| ナデ，ナデ後暗文<br>ハケ目後ナデ | ナデ，ハケ目 | — | — | 外器面黒斑 | 50 |
| ナデ，ハケ目後ナデ<br>ハケ目 | ナデ，ハケ目後ナデ<br>指頭圧痕 | ハケ目後ナデ | ナデ，指頭圧痕 | | 51 |
| ナデ，ハケ目後ナデ<br>ハケ目 | ナデ，ハケ目後ナデ<br>ハケ目，指頭圧痕 | — | — | 外器面黒斑 | 52 |
| ナデ，ハケ目後ナデ | ナデ，工具ナデ<br>指頭圧痕 | ハケ目後ナデ | ナデ，指頭圧痕 | 外器面黒斑　口縁部赤彩 | 53 |
| ナデ，ハケ目後ナデ<br>ハケ目 | ナデ，ハケ目後ナデ<br>工具ナデ，指頭圧痕 | ナデ | ナデ，指頭圧痕 | 外器面黒斑 | 54 |
| ナデ，ナデ後磨き | ナデ，ハケ目後ナデ | — | — | 柵描文　外器面黒斑 | 55 |
| ナデ，ハケ目 | ナデ，暗文 | — | — | 外器面黒斑　内器面暗文 | 56 |
| ナデ，ハケ目後ナデ | ナデ，ハケ目後ナデ | ハケ目後ナデ | ナデ | 外器面黒斑 | 57 |
| | | | | | |
| ナデ，ハケ目後ナデ | ナデ，工具ナデ後<br>ナデ，指頭圧痕 | — | — | 外器面黒斑　外器面煤付着 | 58 |
| ナデ，ハケ目後ナデ | ナデ，ハケ目後ナデ<br>指頭圧痕 | ハケ目後ナデ | ナデ，指頭圧痕 | 外器面黒斑 | 59 |
| ナデ，ハケ目後ナデ | ハケ目後ナデ | — | — | 外器面黒斑 | 60 |
| ナデ，ハケ目<br>タタキ後ハケ目 | ナデ，ハケ目 | — | — | 外器面黒斑 | 61 |
| ナデ，ハケ目後ナデ<br>指頭圧痕 | ナデ，ハケ目後ナデ<br>ハケ目 | ナデ，指頭圧痕 | ナデ | (台付甕) 外器面黒斑 | 62 |
| ナデ，ハケ目<br>タタキ後ハケ目 | ナデ，ハケ目後ナデ<br>ハケ目 | ハケ目 | ハケ目 | 鰭み目突帯　底部穿孔　外器面黒斑 | 63 |
| ハケ目後ナデ，ハケ目 | ハケ目後ナデ，ハケ目 | ハケ目後ナデ | ハケ目 | 内外器面黒斑 | 64 |
| ハケ目後ナデ<br>タタキ後ハケ目，ナデ | ハケ目後ナデ<br>指頭圧痕 | — | — | 内外器面黒斑 | 65 |
| ナデ，ハケ目後ナデ<br>タタキ後ハケ目 | ナデ，ハケ目後ナデ<br>ハケ目 | — | — | 外器面黒斑 | 66 |
| ハケ目後ナデ<br>ハケ目，工具痕 | ハケ目後ナデ | ナデ<br>ハケ目後工具ナデ | ナデ，工具ナデ | (台付甕) 外器面黒斑　外器面煤付着　被熱による赤変 | 67 |
| ナデ | ナデ，工具ナデ<br>指頭圧痕 | — | ナデ | 外器面黒斑 | 68 |
| ナデ，ハケ目後ナデ<br>ハケ目 | ナデ，指頭圧痕<br>ハケ目後ナデ | ハケ目後ナデ | ナデ，指頭圧痕 | 外器面黒斑 | 69 |
| ナデ，ハケ目 | ナデ，ハケ目後ナデ | ハケ目後ナデ | ハケ目後ナデ | 外器面黒斑 | 70 |
| ナデ，ハケ目後ナデ<br>ハケ目 | ナデ，指頭圧痕 | ハケ目後ナデ | ナデ，指頭圧痕 | 外器面黒斑 | 71 |
| ナデ，ハケ目後ナデ<br>ハケ目（摩耗） | ナデ（摩耗） | — | ナデ（摩耗），指頭圧痕 | 外器面黒斑 | 72 |
| ナデ，ハケ目後ナデ | ナデ | ハケ目後ナデ | ナデ指頭圧痕 | 外器面黒斑 | 73 |
| ナデ，ハケ目後ナデ<br>ハケ目 | ナデ，ハケ目後ナデ | ハケ目後ナデ | ナデ，工具痕 | 外器面黒斑 | 74 |
| ナデ，ハケ目後ナデ<br>ハケ目 | ナデ，ハケ目後ナデ | ハケ目 | ナデ | 外器面黒斑 | 75 |
| ナデ，ハケ目後ナデ | ハケ目後ナデ | ナデ | ハケ目後ナデ | 外器面黒斑 | 76 |
| ナデ，ハケ目後ナデ | ナデ，ハケ目後ナデ | ハケ目後ナデ | ハケ目後ナデ | | 77 |
| ナデ，ハケ目後ナデ<br>タタキ後ハケ目 | ナデ，ハケ目，指頭圧痕 | — | ナデ | (台付甕) 外器面黒斑　内外器面煤付着 | 78 |
| ナデ，ハケ目後ナデ<br>ハケ目 | ナデ，ハケ目，ハケ目後<br>ナデ | ナデ | ナデ | (台付甕) 外器面黒斑　内外器面煤付着 | 79 |

| 遺物番号 | Fig. No. | PL No. | 遺構番号 | 種別 | 器種 | 法量（cm） | | | | 色調 | | 胎土 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | 口径 | 底径 | 最大胴径 | 残存高 | 外面 | 内面 | | |
| 80 | 90 | 4・18・19 | SI230 | 弥生土器 | 複合口縁壺 | 17.9 | — | — | 15.5 | にぶい橙 7.5YR7/3 | にぶい橙 7.5YR7/3 | 角閃石、黒色粒、白色粒<br>赤色酸化粒 | |
| 81 | 91 | | SI02 | 弥生土器 | 高杯 | 23.7 | — | — | 8.4 | にぶい橙 7.5YR7/4 | 浅黄橙 7.5YR8/4 | 長石、石英、角閃石<br>雲母、赤色酸化粒 | |
| 82 | | | SI02 | 弥生土器 | 複合口縁壺 | 20.0 | — | — | 8.2 | にぶい橙 7.5YR7/3 | 浅黄橙 7.5YR8/3 | 長石、石英、赤色酸化粒 | |
| 83 | 92 | 21 | SI11 | 弥生土器 | 鉢 | 11.8 | — | 13.5 | 6.7 | 灰白 10YR8/2 | にぶい黄橙 10YR7/2 | 長石、石英、角閃石<br>雲母、赤色酸化粒 | |
| 84 | | | SI11 | 弥生土器 | 高杯 | (32.6) | — | — | 9.6 | 橙 5YR7/6 | 橙 5YR6/6 | 長石、石英、角閃石<br>雲母、花崗岩、赤色酸化粒 | |
| 85 | | | SI11 | 弥生土器 | 複合口縁壺 | 22.1 | — | — | 11.3 | にぶい橙 7.5YR7/4 | にぶい橙 7.5YR7/4 | 長石、石英、角閃石<br>雲母、花崗岩、赤色酸化粒 | |
| 86 | 93 | | SI241 | 弥生土器 | 鉢 | 21.6 | — | — | 10.6 | にぶい橙 7.5YR7/4 | 浅黄橙 7.5YR8/4 | 長石、石英、赤色酸化粒 | |
| 87 | | | SI241 | 弥生土器 | 鉢 | — | — | (19.8) | 12.5 | 明褐 7.5YR5/6 | にぶい黄褐 10YR4/3 | 長石、石英、赤色酸化粒 | |
| 88 | | — | SI241 | 弥生土器 | 甕 | 21.9 | — | — | 10.2 | 灰褐 7.5YR5/2 | にぶい橙 5YR7/4 | 長石、石英、角閃石<br>黒色粒 | |
| 89 | 94 | 21 | SI223 | 弥生土器 | 鉢 | 18.0 | — | 22.0 | 19.2 | にぶい橙 5YR7/4 | 橙 5YR7/6 | 長石、石英、角閃石、雲母 | |
| 90 | | | SI223 | 弥生土器 | 壺 | 11.2 | — | 15.8 | 23.0 | にぶい橙 7.5YR7/4 | にぶい黄橙 10YR7/3 | 長石、角閃石、雲母 | |
| 91 | | 22 | SI266 | 弥生土器 | 鉢 | (12.4) | — | (14.7) | 9.1 | にぶい黄橙 10YR7/4 | 浅黄橙 7.5YR8/4 | 長石、石英、角閃石、雲母 | |
| 92 | | | SI266 | 弥生土器 | 片口鉢 | 22.7 | — | — | 10.0 | 浅黄橙 7.5YR8/4 | にぶい橙 7.5YR7/3 | 長石、石英、角閃石 | |
| 93 | | | SI266 | 弥生土器 | 甕 | (17.9) | 12.9 | 20.3 | 42.0 | にぶい黄橙 10YR7/4 | にぶい黄橙 10YR7/3 | 長石、石英、角閃石、雲母<br>3～5 mmの砂粒<br>赤色酸化粒 | |
| 94 | | | SI266 | 弥生土器 | 壺 | — | — | 21.6 | 35.2 | 橙 5YR7/6 | にぶい橙 7.5YR6/4 | 長石、石英、角閃石<br>赤色酸化粒 | |
| 95 | 95 | | SI224 | 弥生土器 | 鉢 | 15.5 | — | 17.7 | 12.8 | にぶい黄橙 10YR7/2 | にぶい黄橙 7.5YR7/4 | 石英、角閃石、雲母<br>赤色酸化粒 | |
| 96 | | | SI224 | 弥生土器 | 甕 | 20.3 | 15.1 | 26.0 | 49.5 | にぶい橙 7.5YR6/4 | 浅黄橙 7.5YR8/6 | 長石、石英、黒色粒<br>赤色酸化粒 | |
| 97 | | | SI224 | 弥生土器 | 甕 | (20.5) | (16.3) | (25.6) | 48.3 | 橙 5YR6/8 | 橙 5YR6/8 | 長石、石英、角閃石<br>雲母、径最～3 mmの砂粒<br>赤色酸化粒 | |
| 98 | | | SI224 | 弥生土器 | 甕 | 21.7 | 15.3 | 25.9 | 48.3 | 浅黄橙 7.5YR8/4 | 浅黄橙 7.5YR8/4 | 長石、石英、角閃石<br>雲母、微細な砂粒<br>赤色酸化粒 | |
| 99 | 96 | 23 | SI206 | 弥生土器 | 重孤文長頸壺 | — | — | 23.8 | 34.6 | にぶい黄橙 10YR7/4 | にぶい黄橙 10YR7/4 | 長石、石英、赤色酸化粒 | |
| 100 | | — | 調査区 | 弥生土器 | 高杯 | 31.4 | — | — | 7.8 | にぶい黄橙 10YR7/4 | にぶい黄橙 7.5YR7/4 | 石英、角閃石、赤色酸化粒 | |
| 101 | | 23 | 調査区 | 弥生土器 | 甕 | 17.6 | 12.8 | 19.3 | 42.2 | 浅黄橙 10YR8/3 | 浅黄橙 10YR8/3 | 長石、石英、角閃石<br>赤色酸化粒 | |
| 102 | | | 調査区 | 弥生土器 | 重孤文長頸壺 | (14.3) | — | (28.3) | 39.1 | 赤褐 5YR4/6 | 赤褐 5YR4/6 | 長石、石英、角閃石 | |
| 8区 | | | | | | | | | | | | | |
| 103 | 97 | 23 | SD103 | 須恵器 | 蓋 | (14.3) | — | — | 1.6 | 灰白 2.5Y7/1 | 灰白 2.5Y7/1 | 白色粒、黒色粒 | |
| 104 | | | SD103 | 須恵器 | 蓋 | (18.0) | — | — | 2.6 | 灰白 2.5Y7/1 | 灰白 5Y8/1 | 角閃石、白色粒 | |

Tab.10　出土遺物（銅製品・鉄製品）観察表

| 遺物番号 | Fig. No. | PL. No. | 調査区 | 遺構番号 | 器種 | 法量 | | | | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | 口径 (cm) | 幅 (cm) | 残存高 (cm) | 重量 (g) | |
| 105 | 98 | 5・24 | 4 区 | SI83 | 鏡 | 7.8 | — | 0.45 | 73.7 | 完形　鏡背面に赤色顔料付着　外区に櫛歯文　内区は線青及び付着物により詳細不明　紐孔 0.3cm |
| 106 | | | 6 区 | SI16 | 鏡 | (4.7) | (2.9) | 0.3 | 16.5 | 鏡縁部 1/8　全体研磨　鏡背面に黒色の付着物あり　外区に鋸歯文　斜れ面の 2 辺のうち 1 辺は研磨されている |
| 107 | 99 | 25 | 6 区 | 調査区 | 無茎鉄鏃 | 2.9 | 1.7 | 0.15 | 2.1 | |
| 108 | | | 5 区 | SI04 | 鋼鎌 | 6.9 | 1.7 | 0.1(厚さ) | 6.4 | 弧背弧刃　単孔を有する鋼鎌の類例　小野原遺跡・二子塚遺跡（熊本県） |
| 109 | | | 6 区 | 調査区 | 刀子 | 9.5 | 1.4 | 0.4(厚さ) | 2.1 | |

Tab.11　出土遺物（特殊製品）観察表

| 遺物番号 | Fig. No. | PL. No. | 調査区 | 遺構番号 | 器種 | 法量 | | | | 色調 | | 胎土 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | 長さ (cm) | 幅 (cm) | 厚さ (cm) | 重量 (g) | (外) | (内) | | |
| 110 | 99 | 25 | 6 区 | SI251 | 勾玉 | 3.0 | 2.2 | 1.15 | — | にぶい黄橙色 (10YR7/3) | にぶい黄橙色 (10YR7/3) | 長石・石英 角閃石・雲母 | 黒斑 |
| 111 | | | 6 区 | SD22 | メンコ状土製品 | 最大径 6.3 | — | 0.7 | — | 浅黄橙 (10YR8/4) | 浅黄橙 (10YR8/3) | 長石・石英 角閃石 | 土器片転用品　煤付着 |
| 112 | 100 | 5・26 | 4 区 | SI80 | 骨角器 | 6.4 | 0.6 | 0.5 | — | | | | ほぼ完形　先端一部欠損 |
| 113 | 101 | 26 | 4 区 | SI108 | 敲き石 | 19.7 | 15.9 | 7.3 | 1960 | | | | |

Tab.9　出土遺物観察表－③

| | 調整 | | | | 備考 | 遺物番号 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | 外器面 | 内器面 | 外底面 | 内底面 | | |
| | ナデ，ハケ目後ナデ | ナデ，ハケ目後ナデ<br>指頭圧痕 | — | — | 横描文，流水文　内外器面黒斑 | 80 |
| | ナデ，ハケ目 | ナデ | — | ナデ | 外器面黒斑 | 81 |
| | ナデ，ハケ目後ナデ | ナデ，ハケ目，指頭圧痕 | — | — | 外器面黒斑　鰄み目 | 82 |
| | ナデ，ハケ目 | ナデ | ナデ | ナデ | 外器面黒斑 | 83 |
| | ナデ（摩耗） | ナデ，磨き（摩耗） | — | — | 外器面から口縁内器面黒斑 | 84 |
| | ナデ，ハケ目 | ナデ，ハケ目<br>ハケ目後ナデ | — | — | 鰄み目突帯 | 85 |
| | ナデ，ハケ目後ナデ<br>ハケ目 | ナデ，ハケ目後ナデ<br>指頭圧痕 | ハケ目 | ハケ目後ナデ<br>指頭圧痕 | 外器面黒斑 | 86 |
| | ナデ，ハケ目後ナデ<br>ハケ目後磨き | ナデ，ハケ目 | — | — | 外器面黒斑　外器面赤色顔料付着 | 87 |
| | ナデ，ハケ目後ナデ | ナデ，ハケ目後ナデ | — | — | | 88 |
| | ナデ，ハケ目 | ナデ，ハケ目後ナデ<br>ハケ目 | ナデ | ハケ目後ナデ | 外器面黒斑 | 89 |
| | ナデ，ハケ目 | ナデ，ハケ目 | ハケ目 | ハケ目 | 外器面黒斑 | 90 |
| | ハケ目後ナデ | ナデ，指頭圧痕 | ハケ目後ナデ | ナデ，指頭圧痕 | 外器面黒斑 | 91 |
| | ナデ，ハケ目後ナデ | ナデ | ハケ目後ナデ | ナデ | 内外器面黒斑　工具痕 | 92 |
| | ハケ目後ナデ<br>タタキ後ハケ目，ナデ | ハケ目後ナデ | ハケ目後ナデ | ナデ，ハケ目後ナデ | （台付甕）外器面黒斑 | 93 |
| | ナデ，ハケ目後ナデ<br>ハケ目 | ナデ，ハケ目，指頭圧痕 | ナデ | ハケ目後ナデ | 外器面黒斑 | 94 |
| | ナデ，ハケ目後ナデ | ナデ，ハケ目後ナデ | ハケ目後ナデ | ハケ目後ナデ | | 95 |
| | ナデ，ハケ目後ナデ | ナデ，ハケ目 | ナデ，タタキ後ナデ<br>タタキ後ハケ目 | ナデ，ハケ目後ナデ | （台付甕）外器面黒斑　内外器面煤付着 | 96 |
| | ナデ，ハケ目 | ナデ，ハケ目，指頭圧痕 | ハケ目 | ナデ，ハケ目，工具痕 | （台付甕）外器面黒斑 | 97 |
| | ナデ，ハケ目，タタキ後<br>ハケ目，ハケ目後ナデ | ナデ，ハケ目，ハケ目後<br>ナデ，指頭圧痕 | ナデ，ハケ目<br>ハケ目後ナデ | ナデ，ハケ目後ナデ | （台付甕）外器面黒斑 | 98 |
| | ハケ目後ナデ，ハケ目 | ナデ，ハケ目後ナデ | ナデ，ハケ目 | ナデ | 横描文，簾状文，重弧文　外器面黒斑　外器面赤色顔料付着 | 99 |
| | ナデ，ハケ目 | ナデ，ナデ後磨き | — | ナデ | 外器面黒斑 | 100 |
| | ナデ，ハケ目後ナデ<br>タタキ後ハケ目 | ナデ，ハケ目後ナデ | ナデ，タタキ<br>タタキ後ナデ | ナデ | （台付甕）外器面黒斑 | 101 |
| | ナデ，磨き，工具ナデ | ナデ | 工具ナデ | — | 横描文，重弧文　外器面黒斑 | 102 |
| | | | | | | |
| | 横ナデ<br>ヘラ切り後ナデ | 横ナデ，横ナデ後ナデ | — | — | | 103 |
| | 横ナデ，横ナデ後ナデ | 横ナデ，横ナデ後ナデ | — | — | つまみ径（1.7 cm） | 104 |

Tab.12　出土遺物（古銭）観察表

| 遺物番号 | Fig. No. | PL. No. | 調査区 | 種別 | 銭貨名 | 時代 | 年代 | 法量 | | | | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | | 直径（cm） | 孔径（cm） | 厚み（cm） | 重量（g） | |
| 114 | 102 | 26 | 1区 | 銅銭 | 絳聖元宝 | 北宋 | 草元 | 2.4 | 0.7 | 0.15 | 3.4 | |
| 115 | | | 1区 | 銅銭 | 絳聖元宝 | 北宋 | 草元 | 2.4 | 0.6 | 0.15 | 1.8 | |
| 116 | | — | 8区 | 銅銭 | — | — | — | 2.2 | 0.75 | 0.13 | 1.8 | |
| 117 | | 26 | 3区 | 銅銭 | 崇寧通宝 | | | 3.4 | 0.8 | 0.25 | 8.1 | |

# 第５章　自然科学分析

## 「二本木遺跡群（田崎地区）４区 SI80 出土の骨鏃について」

丸山　真史
（独立行政法人 国立文化財機構 奈良文化財研究所 環境考古学研究室）

４区 SI80 の埋土１層から、１点出土している。全体的に白色を呈し、強く被熱したものと考えられる。明瞭な切り込みはないが、鏃と茎で構成され、それぞれの端部は破損している。鏃部の断面は三角形を、茎部は方形を呈し、残存する最大長が 6.5cm、最大幅 0.5cm を測る。鏃部に骨髄腔がみられることから、骨製品であることがわかる。素材は、直線的で厚みがあることから、ニホンジカの中手骨や中足骨の可能性が高く、脛骨も候補にあげられる。

Fig.103　４区竪穴建物 SI80 実測図（左）、骨鏃実測図（右上）、骨鏃写真（右下）

# 総　括

## 1．古代

今回行った全10調査区の中で北側に位置する8区・田崎陸橋・1～3区の発掘調査の結果から、古代期の「二本木遺跡群」の西側の状況が明らかになった。

全ての調査区の中で最北に位置する8区は、「二本木遺跡群第26次調査区」（熊本市教育委員会 2007a）に隣接し、古代の掘立柱建物を中心とした遺構群を検出した（Fig.104）。これらの建物の広がりは8区の北半部で収束し、南半部では東西方向を基本に走行する溝群が占めており、その様相は一変する。また、8区の南方に位置する田崎陸橋や1～3区でも古代の遺構を確認したが、それらは東西方向及び南北方向を基本として走行する溝群や土坑等であり、住居や倉庫などの居住地を想定できるものではなかった。

二本木遺跡群内では、これまで春日地区を中心に広範囲に渡って熊本県教育委員会や熊本市教育委員会によって多くの発掘調査が行われている。その結果、「二本木遺跡群」の土地利用の状況が解明され、大きく「官衙域」・「居住域」・「非居住域」の3つの地域に分類できることが明らかになっている（熊本市教育委員会 2008a）（Fig.105）。その土地利用状況と今回の発掘調査地区の位置を照合すると、8区は「居住域」と「非居住域」の境界に立地しており、田崎陸橋・1～3区は「非居住域」内に立地することが想定される。これは、発掘調査の結果、8区内において遺構の様相が変化した状況や、田崎陸橋・1～3区において溝や土坑が主体であった状況と符合している。したがって、二本木遺跡群西側の居住域は8区北半部で収束し、8区南半部以南には非居住域が広がっていたものと考える。

Fig.104　二本木遺跡群第26次調査区（熊本市教委）及び8区平面図（『二本木遺跡群Ⅲ』に加筆）

※Fig.105は熊本市教育委員会より提供していただいた図面に、一部加筆したものである。

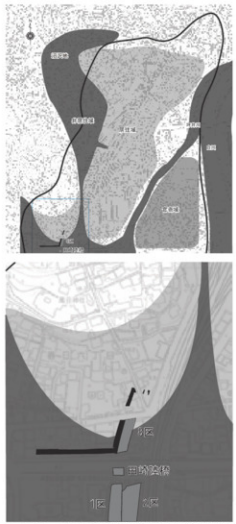



Fig.105　二本木遺跡群土地利用状況図及び調査区周辺拡大図

## 2．弥生時代

今回発掘調査を行った二本木遺跡群田崎地区の北側（8区・田崎陸橋・1～3区）では、古代の遺構が確認できたが、3区から南側の3～7区・田崎市道切替では、弥生時代の遺構がその主体をなしている。3区以南では竪穴建物群の密集域が検出されており、弥生時代の集落跡と考える。また、その遺構密度は北端の3区と南端の7区で低くなっており、調査地が該期集落の北端から南端までをほぼ貫通していたことが推定される。特に4～6区では、竪穴建物の重複が著しく、集落の中心部であったことが想定できる。

検出した竪穴建物からは「甕形土器」や「壺形土器」、「高坏形土器」、「鉢形土器」（以下、「形土器」を省略する。）など多くの弥生土器が出土している。これらの土器は弥生時代後期の特徴を示す一群であり、それらはさらに細分が可能である。そこで、4～6区の竪穴建物から出土した甕の形態変化に着目し、その共伴遺物とのセット関係及び先行研究を考慮して、4～6区の土器変遷について考察する。

（1）甕の形態分類（Fig.76～96）

本調査で出土した甕は口縁部が「く」字に屈曲しており、いずれも弥生時代後期に比定できる。これらを口縁部の長さや形態、体部最大径の位置や体部形態、脚台の状況、器面調整方法などから4類に細分する。

1類（18、19、20）

口縁部は直線もしくは外湾して外方に開く。体部最大径は中位よりやや上に位置し、脚台は約5㎝を測り、外湾しながら開く。器面調整は外・内共にハケ目調整を施す。

2類（2a類13・14・22・35・60・62・67・79・88・96・97）（2b類29・30・31・61・78・98）

口縁部は直線的に斜め上方に向かって開き、1類と比較してやや長大化する。体部最大径は中位に位置し、体部から頸部へのくびれが強まる。脚台は10㎝前後に長大化し、直線的に外方へ開く。2類は器面調整によって、さらに細分できる。2a類の器面調整は、外・内共にハケ目調整を施す。2b類の器面調整は、外・内共にハケ目調整を施すが、外器面においてハケ目調整が省略され、僅かにタタキ痕跡を残す。

3類（23・42・65・66・93）

口縁部は直線的に斜め上方に向かって開き、2類と比較してその角度は緩くなる。体部最大径は中位に位置し、長胴化する。脚台は10㎝前後に長大化し、直線的に外方へ開く。器面調整は外器面の上半部に左上がりもしくは水平方向のタタキ痕跡を明瞭に残し、内器面にはハケ目調整を施す。

4類（101）

口縁部は直線的に斜め上方に開く。その端部はつまみ上げられ、内器面側には稜線が形成される。体部最大径は中位に位置し、長胴化する。脚台はさらに長大化して12㎝を測り、僅かに内湾しながら外方へ開くが、その開きは3類と比較して弱い。体部・脚台の器壁は薄く、数㎜を測る。器面調整は外器面の上半部に左上がりのタタキ痕跡を残し、内器面にはハケ目調整を施す。

（2）時期区分（Fig.106・107）

前項の4分類をこれまでの先行研究の成果と照合した結果、口縁部の長大化、体部最大径位置の下方への変化、体部形態や脚台の長大化、外器面調整のハケ目調整からタタキ痕跡の残存への変化などから、1類→2類→3類→4類の変遷が明らかである。これらの各部の変化は壺や鉢においても概ね同様の変遷が認められる。そこで、甕や他の遺物の変遷を基に弥生時代後期を3期に細分した。ここでは、各期を1期・2期・3期として土器の変遷について検討する。

1期

竪穴建物SI54・102の出土遺物を想定する。甕は1類を基本とする。短い屈曲口縁を持ち、体部最大径が中位もしくは中位より上方に位置する鉢（15・16・17）を伴う。また、同時期の遺構として甕は未出土であるが、竪穴建物SI02を推定し、白川流域型の複合口縁壺（82）や高坏（81）も該期に含まれるものと推定する。

2期

竪穴建物 SI71・68・241・224・25・230を想定する。甕は2a類を基本として2b類を含む。白川流域型の複合口縁壺（80）や長頸壺（21）、大形の複合口縁壺（63）などの壺や、様々なヴァリエーションを持つ鉢を伴う。鉢には平底を呈するものと丸底を呈するものがあり、SI71 出土鉢（32～34）は平底を呈することから、より古相を示すことが推定される。また、単純口縁の丸底鉢（72・73・74・95）や、鍔状口縁の丸底鉢（58・69・70・71・86）が新たに認められる。さらに、同時期の遺構として甕は未出土であるが、竪穴建物 SI011・014を推定する。高坏（84）や大形の平底を呈する鉢（64）なども該期に含まれるものと推定する。

3期

竪穴建物 SI129・060・123・015・266・土坑 SK056を想定する。甕は3類を基本として2b・4類を含む。白川流域型の複合口縁壺（43）などの壺や、片口鉢（92）などの様々なヴァリエーションを持つ鉢を伴う。単純口縁の丸底鉢や鍔状口縁の丸底鉢の重心は低くなり、鍔状口縁は長大化する。また、同時期の遺構として甕は未出土であるが、竪穴建物 SI126・034・039を推定する。口縁部が大きく長大化した高坏（39）なども該期に含まれるものと推定する。

（3）まとめ

本遺跡では、3～7区にかけて弥生時代後期を通じて集落が営まれていたことが確認された。多数の竪穴建物群の検出状況から、この集落は少なくとも南北 250m 以上に渡って展開された集落であったことが推定される。

この集落が本地域の有力集落であったことを示すように、発掘調査では威信財とされる銅鏡が2点出土している。1点は竪穴建物 SI16（6区）から出土した破鏡（106）である。法量は 4.7㎝× 2.9㎝を測る。一方の割れ面は研磨されているが、穿孔は認められない。残存状況は良好で、文様は精緻に鋳出されている。外区には二重の外向鋸歯文帯に挟まれて複線波紋帯が巡り、外区から一段下がって櫛歯文帯となっている。文様の構成から方格規矩鏡の縁部と推定する。外器面調整にタタキ痕跡を残す甕の体部小片と共伴しており、3期に比定できる。もう1点は竪穴建物 SI83（4区）から出土した小形仿製鏡（105）である。最大径は 7.8㎝を測る。鏡背面には赤色顔料が付着しており、全体的に摩耗している。平縁で外区には櫛歯文帯が巡り、内区は緑青及び付着物により詳細は不明である。共伴する遺物がなく、出土した竪穴建物の時期は不明である。いずれも竪穴建物内からの出土であり、肥後地域における菊池川中流域以外のその他の地域の集落においては、鏡を竪穴住居に廃棄する原則があった（南 2007a）との指摘と合致する。

この集落が営まれていた時期は、出土土器の形態変遷から3期に細分でき、各期の遺物は甕・壺・鉢がその主体をなす。遺跡内では、甕の形態変化は明らかにできるが、壺・鉢の場合は多様な形態が出土しており、それらは本遺跡3期区分の中で形態変化を追えないものも多い。これは、煮沸具である甕と貯蔵・運搬具である壺・鉢の機能・用途に起因すると考える。したがって、甕は在地で生産され続けたが、壺・鉢は在地で生産されたものと周辺地域から流入したものがあることが推定される。特に、重弧文長頸壺（99）や大形鉢（64）、片口鉢（92）などは、八代平野や菊池川流域との関係性が指摘（熊本市教育委員会 2009）されており、該期に広範囲の交流が行われていたことが明らかとなった。

一方、高坏の出土は僅少であり、竪穴建物内の土器組成において主体をなさないことが推定される。しかし、出土した高坏の形態は菊池川流域系の高坏と類似点が認められ、この高坏（81・84）は鏡や片口鉢の分布と重なることが指摘されている（原田 1999、熊本市教育委員会 2009）。本遺跡内においても鏡・高坏・片口鉢が出土しており、菊池川流域との関係性が推定される。

また、本集落の最北に位置する3区の井戸 SE99 の底部からは、都合 15 個体の完形土器群が据え置かれて出土した。なかでも、ひょうたん形土器は、漢代に盛行した蒜頭壺にその系譜を求められるもの（常松 2011）とされ、現在のところ、淡路島から西方で出土することが確認されている。本遺跡からの出土は、九州では原の辻遺跡・カラカミ遺跡（長崎県壱岐市）、元岡遺跡群・那珂遺跡群・比恵遺跡群（福岡県）に次ぐ

7例目の事例となる。本遺物は、上三河遺跡（兵庫県佐用町）では無頸壺と共伴し、九州ではジョッキ形土器と分布圏を同じくすることが指摘されている。しかし、本遺跡の出土事例では、ひょうたん形土器と無頸壺、ジョッキ形土器の３種が井戸基底部より共伴して出土している点は特筆される。なお、他の共伴遺物の形態から、SE99出土遺物は３期に比定でき、弥生後期後半に位置づけられる。

以上のことから、本遺跡は弥生時代後期を通して営まれた集落であり、特に、破鏡や小形仿製鏡の出土は、肥後地域において北部九州の影響が強く、鏡の流通において優位にあった菊池川中流域（南 2007a）との高度な政治的関係を想起させるものである。

（長谷部・上髙原）


引用・参考文献

関　晃志　1982「熊本県下の弥生時代鑑鏡」『森貞次郎博士古希記念 古文化論集』上巻　森貞次郎博士古希記念文集刊行会

高倉洋彰　1972「弥生時代小形仿製鏡について」『考古学雑誌』第 58 巻第３号　日本考古学会

田崎博之　1984「北部九州における弥生時代終末前後の鏡について」『史淵』第百二十一輯　九州大学文学部

辻田淳一郎　2005「破鏡の伝世と副葬 -穿孔事例の観察から-」『史淵』第百四十二輯　九州大学大学院人文科学研究院

常松幹雄　2011「弥生時代中期における倭人のまなざし -細形青銅器から漢代の文物へ-」『AMS 年代と考古学』 学生社

原田範昭　1999「中九州における弥生時代後期土器の編年 -熊本平野部の土器にみる社会風景 -」
『先史学・考古学論究』Ⅲ　立田考古会

藤丸詔八郎　1993「破鏡の出現に関する一考察 -北部九州を中心にして -」『古文化談叢』第 30 集（上）　九州古文化研究会

南健太郎　2007a「肥後地域における銅鏡の流入とその特質」『肥後考古』第 15 号　肥後考古学会

2007b「弥生時代九州における漢鏡の流入と小形仿製鏡の生産」『熊本大学　社会文化研究５』
熊本大学大学院社会文化科学研究科

2008「弥生時代における銅鏡の副葬と廃棄」『熊本大学　社会文化研究 6』 熊本大学大学院社会文化科学研究科

山本信夫　1995「中世前期の貿易陶磁器」『概説　中世の土器・陶磁器』 中世土器研究会編　真陽社

吉田　広　2003「ひょうたん写しの上器」『考古論集』 河瀬正利先生退官記念事業会編

熊本県教育委員会　1987『下山西遺跡』熊本県文化財調査報告第 88 集

熊本県教育委員会　1993『二子塚』熊本県文化財調査報告第 117 集

熊本県教育委員会　1993『狩尾遺跡群』熊本県文化財調査報告第 131 集

熊本県教育委員会　1996『舘生・上の原遺跡　附編大場石棺群』熊本県文化財調査報告第 158 集

熊本県教育委員会　1999『二本木遺跡群』熊本県文化財調査報告第 174 集

熊本県教育委員会　2001『梅ノ木遺跡Ⅱ』熊本県文化財調査報告第 199 集

熊本県教育委員会　2001『柳町遺跡１』熊本県文化財調査報告第 200 集

熊本県教育委員会　2007『上ノ郷遺跡』熊本県文化財調査報告第 239 集

熊本県教育委員会　2008『二本木遺跡群Ⅱ』熊本県文化財調査報告第 243 集

熊本県教育委員会　2010『二本木遺跡群Ⅲ』熊本県文化財調査報告第 256 集

熊本県教育委員会　2010『小野原遺跡群』熊本県文化財調査報告第 257 集

熊本県教育委員会　2010『稲佐津留遺跡　西安寺遺跡』熊本県文化財調査報告第 263 集

熊本県教育委員会　2012『二本木遺跡群（春日地区）５』熊本県文化財調査報告第 271 集

植木町教育委員会　2003『北牟田遺跡』 植木町文化財調査報告書第 16 集

熊本市教育委員会　2006『江津湖遺跡群Ⅱ』江津湖遺跡群第７次・第 10 次発掘調査報告書

熊本市教育委員会　2007a『二本木遺跡群Ⅲ』二本木遺跡群第 26 次調査区発掘調査報告書

熊本市教育委員会　2007b『二本木遺跡群Ⅳ』二本木遺跡群第 27 次調査区発掘調査報告書

熊本市教育委員会　2008a『二本木遺跡群Ⅴ』二本木遺跡群第 28 次調査区発掘調査報告書

熊本市教育委員会　2008b『二本木遺跡群Ⅵ』二本木遺跡群第 28 次調査区発掘調査報告書

熊本市教育委員会　2009『戸坂遺跡Ⅱ』戸坂遺跡第３次調査区発掘調査報告書

熊本市教育委員会　2011『二本木遺跡群ⅩⅤ』二本木遺跡群第 40 次調査区・第 47 次調査区

大宰府市教育委員会　2000『大宰府条坊跡ⅩⅤ』太宰府市の文化財第 49 集


1　SE99 出土遺物の所見や分析については、宮崎敬士氏からご教示を受けた。

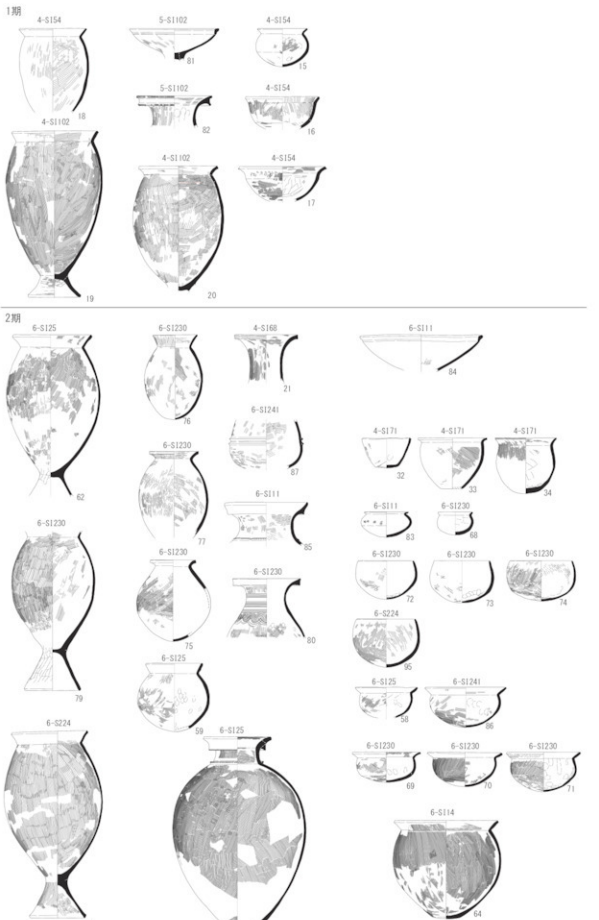
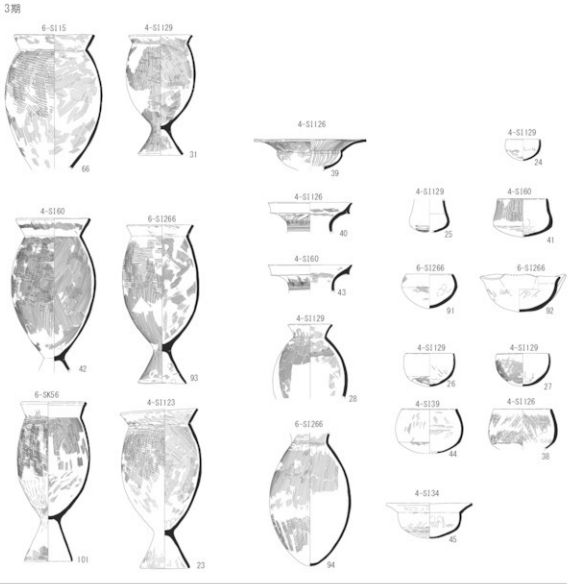



Fig.106　二本木遺跡群田崎地区（4～6区）土器変遷図（1）



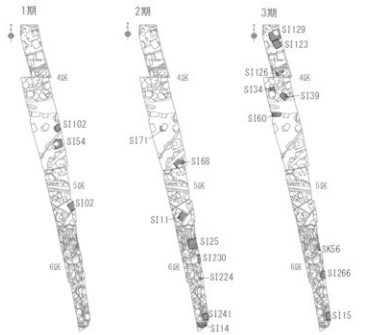
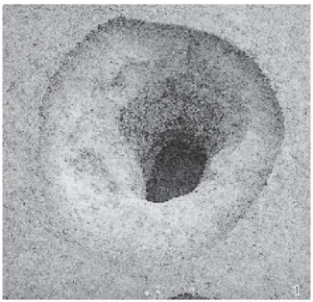
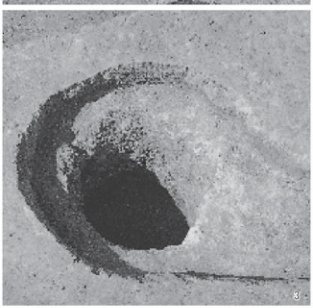
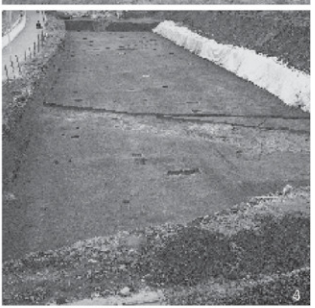



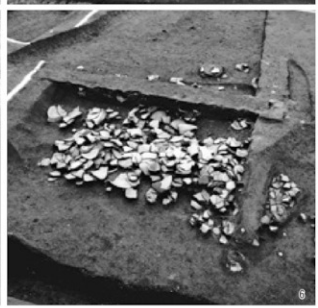

Fig.107 （上段）二本木遺跡群田崎地区（４～６区）土器変遷図（２）
（下段）二本木遺跡群田崎地区（４～６区）遺構変遷図

# PLATE
# 写　真

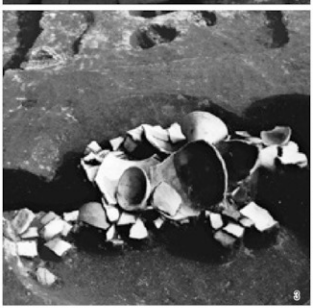


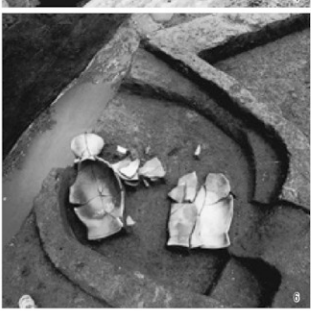



1. 1区土坑 SK32 完掘状況　2. 1区土坑 SK33 完掘状況
3. 1区土坑 SK37 完掘状況　4. 2区調査区完掘状況（北より）
5. 3区井戸 SE99 完掘状況　6. 3区調査区完掘状況（北より）



1. 4区溝 SD57 遺物出土状況
2. 4区竪穴建物 SI83 遺物出土状況（小形仿製鏡）
3. 4区 M～O-14～17Grid 完掘状況
4. 4区完掘状況（南より）
5. 4区拡張調査区完掘状況（北より）
6. 6区竪穴建物 SI25 遺物出土状況

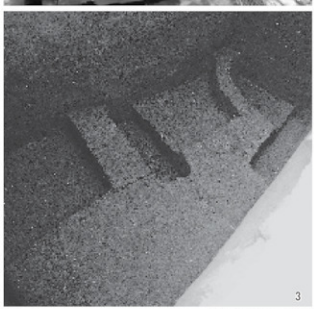




1. 6区4-1層完掘状況（北より）
2. 6区竪穴建物SI230遺物出土状況
3. 6区竪穴建物SI224内K1遺物出土状況
4. 6区竪穴建物SI266内K1遺物出土状況
5. 6区竪穴建物SI206遺物出土状況
6. 6区土坑SK56遺物出土状況

1. 6 区 4-2 層完掘状況（北より）

2. 7 区 4-1 層竪穴建物 SI269・SI271・SI273 完掘状況



3. 田崎市道切替竪穴建物 SI03・SI04 完掘状況

4. 田崎市道切替竪穴建物 SI05 埋土下面完掘状況

5. 田崎陸橋調査区北半完掘状況

6. 田崎陸橋調査区完掘状況

1

2

3

1. 3区土坑 SK97 出土遺物
2.3. 3区井戸 SE99 出土遺物

1

2

3

1. 2. 4区溝 SD57 出土遺物
3. 4区竪穴建物 SI54 出土遺物

1．4区竪穴建物SI102出土遺物　　2．4区竪穴建物SI102（20）・SI123（23）出土遺物
3．4区竪穴建物SI129出土遺物

1. 4区竪穴建物SI71出土遺物
2. 4区竪穴建物SI126出土遺物
3.4. 4区竪穴建物SI60出土遺物

1. 4区竪穴建物SI39出土遺物　　2. 4区竪穴建物SI34出土遺物
3. 4区N-16・17Grid、O-16・17Grid出土遺物

1. 4区N-16・17Grid出土遺物
2. 4区O-16・17Grid出土遺物—①
3. 4区O-16・17Grid出土遺物—②
4. 4区調査区出土遺物

6 区竪穴建物 SI25 出土遺物一①

6 区竪穴建物 SI25 出土遺物―②

6区竪穴建物 SI230 出土遺物一①

1. 2. 6区竪穴建物 SI230 出土遺物一②

1. 6区竪穴建物SI14出土遺物
2.3.4. 6区竪穴建物SI15出土遺物

1. 2. 5区竪穴建物SI02出土遺物
3. 5区竪穴建物SI11出土遺物
4. 6区竪穴建物SI241出土遺物
5. 6区竪穴建物SI223出土遺物

1．6 区竪穴建物 SI224 出土遺物
2．6 区竪穴建物 SI266 出土遺物

1. 6区竪穴建物SI206出土遺物

2.3. 5・6区調査区出土遺物
4.5. 8区溝SD103出土遺物

1. 小形仿製鏡　4区竪穴建物 SI83 出土遺物
2. 破鏡　6区竪穴建物 SI16 出土遺物

1. 2. 3. 鉄製品

4. 土製品

1. 骨角器
2. 石製品

3. 4. 5. 古銭

田崎市道切替出土遺物

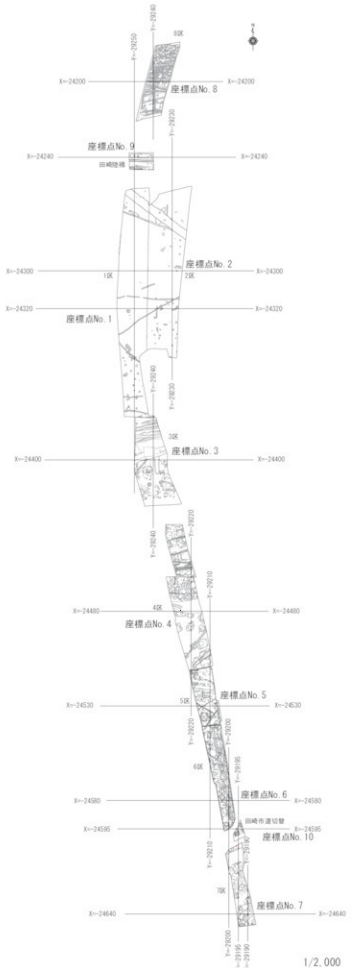



Fig. 108　座標測地点

# 報告書抄録

| | |
|---|---|
| ふりがな | にほんぎいせきぐん７（たさきちく）・（たさきしどうきりかえ）・（たさきりっきょう） |
| 書名 | 二本木遺跡群７（田崎地区）・（田崎市道切替）・（田崎陸橋） |
| 副書名 | 九州新幹線建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 |
| シリーズ名 | 熊本県文化財調査報告 |
| シリーズ番号 | 第 280 集 |
| 編著者名 | 長谷部善一・上高原 聡 |
| 編集機関 | 熊本県教育委員会 |
| 所在地 | 〒862-8609　熊本県熊本市中央区水前寺６丁目 18 番１号　℡ .096-333-2706 |
| 発行年月日 | 2013 年３月 31 日 |
| 資料の保管場所 | 熊本県文化財資料室　〒861-4215　熊本市南区城南町沈目 1677　℡ .0964-28-4933 |

| ふりがな<br>所収遺跡名 | ふりがな<br>所在地 | コード<br>市町村 | コード<br>遺跡番号 | 北　緯 | 東　経 | 調査期間 | 調査面積<br>㎡ | 調査原因 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| にほんぎいせきぐん<br>二本木遺跡群<br>（田崎地区）<br>１区 | 熊本市西区田崎１丁目 | 43 熊本県<br>103 熊本市<br>西　区 | 265 | No.1<br>324701.13232 | No.1<br>1304107.36382 | 2004.2.3 ～<br>2004.3.5 | 1268㎡ | 九州新幹線<br>建設工事 |
| ２区 | | | | No.2<br>324701.78353 | No.2<br>1304108.13017 | 2004.3.5 ～<br>2004.4.2 | 1611㎡ | |
| ３区 | | | | No.3<br>324658.53607 | No.3<br>1304107.75727 | 2004.3.15 ～<br>2004.4.5 | 793㎡ | |
| ４区 | | | | No.4<br>324655.94078 | No.4<br>1304108.53502 | 2006.2.8 ～<br>2006.4.20 | 943㎡ | |
| ５区 | | | | No.5<br>324654.31849 | No.5<br>1304108.92504 | 2005.11.11 ～<br>2006.2.14 | 327㎡ | |
| ６区 | | | | No.6<br>324652.69619 | No.6<br>1304109.31505 | 2006.1.16 ～<br>2006.6.5 | 442㎡ | |
| ７区 | | | | No.7<br>324650.74925 | No.7<br>1304109.70620 | 2006.5.24 ～<br>2006.6.28 | 360㎡ | |
| ８区 | | | | No.8<br>32470.502908 | No.8<br>13041.0773444 | 2006.6.20 ～<br>2006.8.30 | 492㎡ | |
| 田崎陸橋 | | | | No.9<br>324703.72952 | No.9<br>1304107.35469 | 2007.10.1 ～<br>2007.11.1 | 78.6㎡ | |
| 田崎市道切替 | | | | No.10<br>324652.20970 | No.10<br>1304109.50892 | 2007.5.7 ～<br>2007.6.6 | 48㎡ | |

| 所収遺跡名 | 種別 | 主な時代 | 主な遺構 | 主な遺物 | 特記事項 |
|---|---|---|---|---|---|
| 二本木遺跡群<br>（田崎地区） | 集落 | 弥生・古代 | 竪穴建物<br>掘立柱建物<br>井戸<br>溝 | 弥生土器 | 破砕<br>小形仿製鏡 |


要　約

二本木遺跡群（田崎地区）・（田崎市道切替）・（田崎陸橋）は、熊本市中央を西流する白川・井芹川・坪井川によって形成された標高６～７ｍの微高地上に立地する遺跡である。九州新幹線建設工事に伴い、平成 16 年～平成 19 年度に熊本県教育委員会で発掘調査を実施した。本書で報告を行った調査地の総延長は南北 450m に渡っており、北半部と南半部ではその様相が異なっていた。北半部（１・２・８区及び田崎陸橋）では主に古代の遺構や遺物が検出され、該期の二本木遺跡群の西側の土地利用状況が明らかになった。また、南半部（３～７区及び田崎市道切替）では多くの竪穴建物が密集して検出された。それらは弥生時代後期に比定され、調査地周辺には該期の集落があったことが確認された。遺構からは大量の土器と共に破砕や小形仿製鏡が出土している。



本書の仕様

- 判型　A4 判
- 頁数　160 頁
- 組版　13 級　小塚明朝 Pro
  adobe In DesignCS5.5（for Windows）
- 印刷　オフセット印刷
- 製版　本誌のモノクロ及びカラー写真はすべてスクリーン線数 220 線で製版
- 用紙　表紙：アートポスト紙　220kg
  見返し：上質紙　110kg
  大扉・序文・目次等・本文・抄録・奥付：マットアート紙　110kg
  巻頭カラー・写真・図版：特アート SA 金藤 4/6　135kg
- 製本　糸かがり綴じ
- 表紙加工　PP（ポリプロピレン）貼り

2013年3月31日　印刷
2013年3月31日　発行

熊本県文化財調査報告第280集
二本木遺跡群7
（田崎地区）・（田崎市道切替）・（田崎陸橋）

著作権所有　〒862-8609　熊本市中央区水前寺6丁目18番1号
発　行　者　熊本県教育委員会
印　刷　者　〒868-0015　人吉市下城本町1426-1
有限会社ソーゴーグラフィックス

この電子書籍は、熊本県文化財調査報告第 280 集を底本として作成しました。閲覧を目的としていますので、精確な図版などが必要な場合には底本から引用してください。

底本は、熊本県内の市町村教育委員会と図書館、都道府県の教育委員会と図書館、考古学を教える大学、国立国会図書館などにあります。所蔵状況や利用方法は、直接、各施設にお問い合わせください。

書名： 二本木遺跡群
発行：熊本県教育委員会
〒862-8609 熊本市中央区水前寺 6 丁目 18 番 1 号
電話： 096-383-1111
URL：http://www.pref.kumamoto.jp/
電子書籍制作日：2015 年 12 月 8 日

なお、熊本県文化財保護協会が底本を頒布している場合があります。詳しくは熊本県文化財保護協会にお問い合わせください。
熊本県文化財保護協会
URL：http://www.kumamoto-bunho.jp/